

(仮称) 厚田小中学校整備基本計画

平成 29 年 3 月

石狩市教育委員会

目次

第1章	学校整備基本計画策定にあたって	P 3
第2章	厚田における学校教育の概要	P 3～P 8
	(1) 厚田における学校教育の歴史	
	① 厚田における初等教育の歴史	
	② 厚田における中等教育の歴史	
	(2) 厚田における学校教育の特色	
	① 地域と学校の連携	
	② 小学校間と中学校間の連携	
	③ 中学校区の小中学校間の連携	
第3章	厚田区各学校の現況	P 9～P 25
	(1) 各学校の学校経営の重点、研究主題、特色ある教育活動、抱える課題	
	(2) 各学校の校舎等の現況	
第4章	厚田における学校統合の経緯	P 26～P 41
	(1) 「厚田区における小学校・中学校のあり方、将来像」検討（平成 22 年 7 月）	
	(2) 厚田区学校に関する検討会（平成 24 年 5 月～平成 25 年 1 月）	
	(3) 教育委員会会議において学校整備の具体検討を行うことの決定（平成 26 年 8 月 26 日）	
	(4) 学校の整備に係る検討会（平成 26 年 9 月～平成 27 年 4 月）	
	(5) 外部有識者による意見書（平成 27 年 7 月～8 月）	
	(6) 「学校整備の具体策（案）について～厚田区～」（平成 27 年 11 月）	
	(7) 厚田区小中学校の整備に係る検討会への報告説明（平成 27 年 11 月 25 日）	
	(8) 保護者・地域説明会の実施（平成 27 年 12 月～平成 28 年 2 月）	
	(9) 学校整備に関する保護者・地域説明会（平成 28 年 6 月～7 月）	
	(10) 厚田区の学校整備の具体策について（教育委員会会議決定：平成 28 年 6 月 30 日）	
	(11) （仮称）厚田小中学校設立準備委員会の設置（平成 28 年 8 月）	
第5章	（仮称）厚田小中学校設立準備委員会の活動	P 42～P 85
	(1) 第1回会議（平成 28 年 8 月 26 日）	
	(2) 設立準備委員会・事務局合同視察（平成 28 年 10 月 3 日～4 日）	
	(3) 第2回会議（平成 28 年 10 月 7 日）	
	ワークショップ SWOT分析「厚田の地域と学校の強みと弱み」	
	(4) 子どもアンケートの実施（平成 28 年 10 月）	
	(5) 第3回会議（平成 28 年 11 月 10 日）	
	ワークショップ 「各グループによる実効策の検討」	
	(6) 第4回会議（平成 29 年 1 月 18 日）	
	学校整備基本計画の原案について検討協議	
	(7) 第5回会議（平成 29 年 2 月 23 日）	
	学校整備基本計画（案）について	
	(8) 設立準備委員会だより	

第6章 (仮称) 厚田小中学校の教育の概要 P 86～ P 91

- (1) 義務教育学校・小中一貫教育の導入
 - ① 義務教育学校の制度上の特色など
 - ② 義務教育学校のメリット
 - ③ 厚田に義務教育学校を導入することで期待できる効果
 - ④ (仮称) 厚田小中学校における9年間の学年割りについて
- (2) コミュニティスクール(厚田モデル)の導入
 - ① 厚田にコミュニティ・スクールを導入することで期待できる効果
 - ② 「学校づくりに地域の力を！」出口寿久氏によるコミュニティ・スクール講演会
 - ③ 厚田型コミュニティ・スクールのあり方
 - ④ 厚田型コミュニティ・スクールの学校運営協議会各部の構成例

第7章 (仮称) 厚田小中学校の施設設備基本計画 P 92～ P 101

- (1) 文部科学省「学校施設整備指針」の改訂(平成28年3月25日)
 - ① 「学校施設整備指針」の改訂の要旨
 - ② 主な改訂内容
- (2) 施設整備基本計画の基本的な考え方
 - ① 「学校施設整備指針」の改訂の要旨をふまえた基本的な考え方
 - ② 厚田の独自条件をふまえた基本的な考え方
- (3) 計画の条件
 - ① 統合新設校の児童生徒数・学級数の推計
 - ② 計画施設の規模
- (4) 施設設備基本計画
 - ① 普通教室
 - ② 特別支援教室
 - ③ 多目的教室
 - ④ 特別教室
 - ⑤ 体育館
 - ⑥ 管理諸室
 - ⑦ その他諸室
 - ⑧ 共通部分
 - ⑨ その他の配慮事項
- (5) 校舎の配置、工事期間中の仮設校舎について
- (6) 複合機能を有した学校施設
 - ① 地域開放型図書館(現・あいcaぜ図書館)
 - ② 保育園機能
 - ③ 放課後の居場所づくり
 - ④ 福祉避難所
- (7) 工程表

第1章 学校整備基本計画の策定にあたって

厚田区の各学校は、それぞれの教育目標と共に「厚田ならではの教育」「厚田でなくてはできない教育」を重視してきた。このことは、長い伝統を通して培われた、学校と地域との深い結びつき、小中それぞれの学校間における結びつき、校区小中学校の9年間を見通した結びつきを生かし、充実した教育活動に取り組もうとする厚田の教育関係者と保護者、地域住民の心意気を表している。

こうした伝統に支えられ、厚田の教育は、児童生徒の確かな学力、豊かな人間性、健やかな体の育成について確かな成果を積み上げてきた。

石狩市教育プランは、教育の基本構想の理念を次のように示している。

「自らの意志をもって学び、成長することに喜びを感じ、かつ思いやりをもって人とふれあうことに豊かさを感じ、協働により未来の地域社会を担う『自立する市民』を育む」

そして、理念実現のための3つの柱として次の3点を挙げている。

I 自ら学ぶ意欲を育てる教育

II 思いやりと豊かな心・健やかな体を育む教育

III 地域で育ち・学び・活きる教育

この理念と柱は、厚田の学校と地域が目指してきた教育と軌を一にしており、特に「協働で未来の地域社会を担う」「地域で育ち・学び・活きる教育」は、新設校の指針として重要な意味を有している。

厚田区の統合校の学校整備基本計画を策定するにあたっては、厚田小学校、望来小学校、厚田中学校、聚富小中学校に加え、すでに閉校した各学校を含めた約140年に及ぶ歴史と、統合に至る経緯を踏まえ、新たな歴史を刻むこととなる新設校にふさわしい学校のあり方と施設のあり方について、(仮称)厚田小中学校設立準備委員会で検討を重ねてきたところである。

設立準備委員会で行ってきた検討を基に策定した本基本計画は、「石狩市教育の基本理念」を踏まえた「厚田ならではの魅力ある学校づくり」を実現するための仕組みづくりと、統合校を円滑に運営するための、施設・設備の基本的な機能についてまとめたものである。

第2章 厚田における学校教育の概要

厚田区の各学校が、それぞれの教育目標と共に重視している「厚田ならではの教育」「厚田でなくてはできない教育」は、長い伝統の中で培われてきた。そして、それぞれの学校と地域との深い結びつき、小中それぞれの学校間の結びつき、小中学校の9年間を見通した結びつきという特色がどのような歴史の中で培われてきたか明らかにしていきたい。なお、それぞれの特色の現在の状況については、別項で取り上げることとする。

（１）厚田における学校教育の歴史

① 厚田における初等教育の歴史

厚田は、松前時代から漁業が盛んで、幕末からは弁財船の寄港地としても繁栄した地域である。明治に入り定住者が増加すると、子どもの教育が必要とされ、古潭・厚田に１か所ずつ寺子屋式私塾が開設された。佐藤辦蔵が東京から迎えた２名の師匠が両地を教えていたと伝えられている。

明治５年に「邑ニ不学ノ戸ナク、家ニ不学ノ人ナカラシメン事ヲ期ス」とした学制が發布され、同６年、開拓使札幌本庁が郷学を教育所と改めるよう布達し、教育制度が整備されつつあった。

厚田の公的な学校教育は、明治９年１０月の古潭教育所、明治１０年３月の厚田教育所の開設に始まる。

石狩管内の公的な教育所としては、花畔、石狩（共に開設明治６年）に次ぎ、厚田、浜益（同１１年）、千歳（同１３年）に先んじ、全道的に見ても最も歴史のある学校のひとつである。

当時、文部省や開拓使の方針にもかかわらず、学校の設立はなかなか進まなかった。その理由として、(1)教育の必要が徹底していない。(2)経費の補助が少ない。(3)住民が貧しい。(4)良い教師を得ることが難しい。ということが指摘されている。（石狩教育史）

このことから、当時の厚田の人々の経済力と、それにも増して、教育にかけた情熱がしのばれる。

その後、安瀬、発足に分校が設立され、明治３０年には望来尋常小学校、同３２年には聚富尋常小学校が設立された。望来尋常小学校には、正利冠、桂の沢分校が設立された。これらの学校は下図のように、独立したり、統合されたり、制度変遷によって名称が変更されたりしたが、旧厚田村には多いときで、各地域に８校の小学校が存在していた。

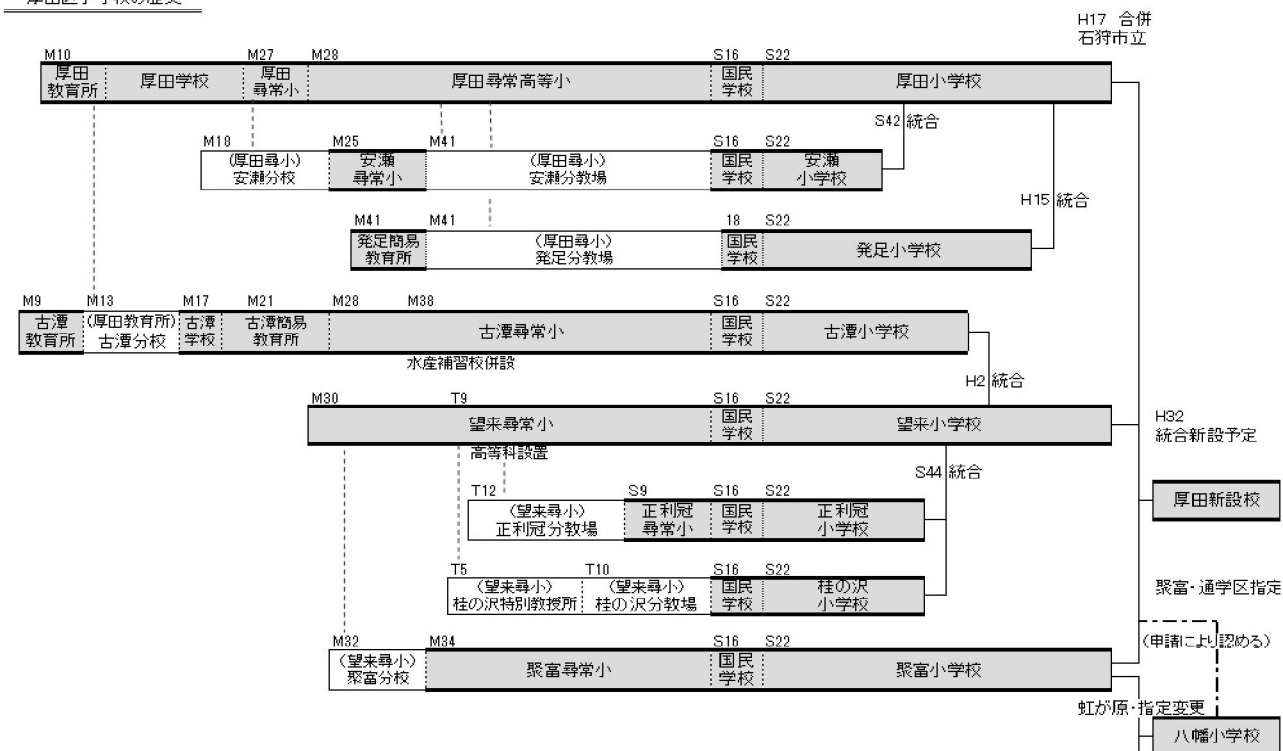
② 厚田における中等教育の歴史

一方、中等教育は、明治２８年に厚田尋常小学校に高等小学校が併設、厚田尋常高等小学校となって始まった。その後、大正８年に望来尋常小学校に高等科が併設され、さらに、明治３８年に古潭尋常小学校に水産補習校が併設されて、着実に進展した。

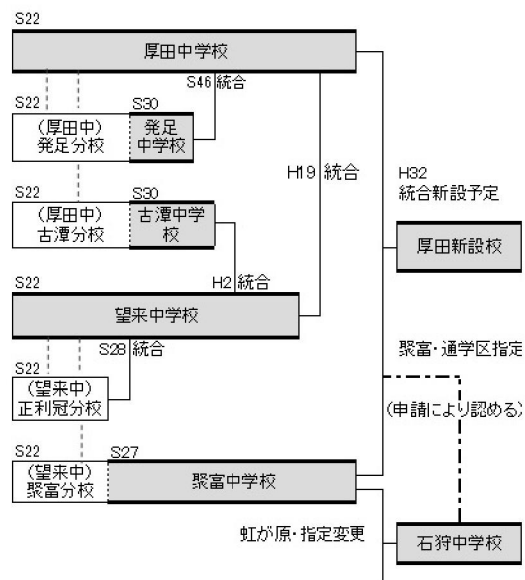
昭和２２年に学校教育法が制定されて、新しい学校制度がスタートすると、厚田中学校と望来中学校が新設され、厚田中学校には発足分校、古潭分校が併設され、望来中学校には、正利冠分校と聚富分校が併設されて、新しい義務教育の中学校が誕生した。

各地区の住民の強い希望により誕生し、地域と共に歩んできた厚田の学校ではあったが、児童生徒数の減少に伴い、閉校・統合を余儀なくされていった。昭和４２年には、安瀬小学校が厚田小学校に、昭和４４年には正利冠小学校と桂の沢小学校が望来小学校に統合され、平成２年に古潭小中学校が望来小学校と望来中学校に、平成１５年に発足小学校が厚田小学校に統合され、平成１９年に望来中学校が厚田中学校に統合された。統合直前の在校生は、発足小学校７名、古潭小学校３名、古潭中学校１５名、望来中学校が１６名だった。

厚田区小学校の歴史



厚田区中学校の歴史



（２）厚田における学校教育の特色

① 地域と学校の連携

厚田の学校についてそれぞれの歴史を紐解くと、どの学校も地域の住民から非常に大切にされてきたことが明らかになってくる。いくつかの事例を紹介する。

古くから漁業で繁栄した古潭と厚田で寺子屋式私塾が開かれたことはすでに述べたとおりであるが、後に農業による開拓が行われた望来、発足、聚富などの地域でも同様に教育が始まったことが、記録に残っている。

発足地区は明治 19 年に、徳島県人 5 戸の入植によって開拓が始まった。南国から入植した人々は寒さ厳しい北の大地のうっそうとした森林を開拓して生活の基盤を確立していった。一定の生活基盤が整備された明治 31 年に、地域の人々は協力して笹葺き小屋を建て、浄土宗の僧侶を雇用して寺子屋風の教育を開始した。最初に学んだ子どもは 5、6 名であった。5 年後の明治 36 年に発足簡易教育所が認可されるが、この時、校地は佐藤辦蔵の寄付により、校舎は住民が別荘にあった漁場の建物を購入し、全員の奉仕作業で解体、運搬、建設を行った。

さて、第二次世界大戦末期の昭和 20 年 7 月 15 日、アメリカ軍が北海道各地を空襲して大きな被害が発生した。全道で唯一空襲によって焼失した学校が、古潭国民学校（当時）だった。戦後、漁業組合の水産倉庫で不自由な授業が行われる中、住民の間に新校舎建設の機運が高まっていった。しかし、戦後の混乱の中で、校舎建設は困難をきわめていた。住民は自らの手で学校再建に取り組むことを決め、全員の手で、払い下げを受けた千歳の軍関係の施設を解体、運搬した。さらに土台のコンクリート打ちから建て前、ガラス入れまですべてを協力して行い、昭和 22 年 11 月に新校舎を再建させることができた。

その後も、連綿と続く住民の篤い支援に支えられて、厚田の各学校では充実した環境が整備され、厚田ならではの教育活動が行われてきた。

学校・家庭・地域社会の結びつきは、どの時代にあっても教育のきわめて重要な課題であるが、生涯学習審議会が、平成 8 年 4 月の答申において「学社融合」の概念を提唱したことで、その意義が再認識されることになった。平成 10 年に厚田小学校と厚田中学校が、石狩教育局の学社融合推進モデル校に指定された。この指定を受けて、両校では、福祉施設や地域行事との連携を強化した。また、小学校では地域住民による読み聞かせ、陶芸体験、保護者の協力による地域探訪などこれまでの取り組みの充実を図った。中学校では、厚田村七夕行灯行列に全校で参加することになった。

長い歴史によって培われた伝統を踏まえながら、現在もそれぞれの学校と地域で連携活動が行われている。具体的な取組は第 3 章に掲載している。

② 小学校間と中学校間の連携

「厚田ならではの教育」の重要な特色として「郷土愛」の涵養があり、その典型的な事例として、現在、厚田中学校で取り組む獅子舞の伝承をあげることができる。「望来獅子舞」として伝承されてきたこの取り組みが統合後の厚田中学校に受け継がれた背景には、厚田における密接な学校間連携があった。

望来獅子舞は、富山県出身で当時 53 歳だった本吉五市郎氏が、生まれ郷里で幼いころに覚えた獅子舞を、昭和 5 年に望来の人たちの協力で再現し、以来舞い継がれてきた。昭和 45 年の望来開村 100 年を機会に保存会が誕生し、昭和 58 年からは、中学生が保存会の演技指導を受け伝承に取り組んできた。望来獅子舞は、運動会、学校祭、地域の祭典、施設訪問などで披露され高い評価を受けてきた。

実は、望来獅子舞のもうひとつの重要な発表の場として、厚田村時代の平成 4 年から 17 年まで 14 回にわたって行われた石川県門前町と、厚田 3 校の 2 年生全員による「子ども親善大使」があった。かつて北前船で結びついていた門前町を訪問する取り組みの中で、門前の中学生が気概と誇りを持って披露した「劔地やんさいこ」などの伝統芸能は、厚田の中学生に大きな影響を与えた。望来中の生徒は、門前の中学生の姿勢を見て、自分たちが取り組んできた獅子舞の価値を再認識し、平成 10 年からは訪問の際に獅子舞を披露するようになった。厚田中と聚富中の生徒は、門前と望来の取り組みに羨望の気持ちを感じて、当時大きなうねりとして盛り上がってきたよさこいソーランを披露するようになった。文化の交流は、門前と厚田、そして厚田 3 校の中学生の絆を深める上で、大きな役割を担うことになった。

望来中学校が閉校する際に、当然ながら望来獅子舞の伝承のあり方が大きな課題となった。統合により閉校した学校の取り組みが残ることは珍しいことかもしれないが、親善大使の蓄積があったからこそ、厚田中の生徒が、「望来獅子舞」の価値を正に評価し、統合後、伝承の当事者になることができたのである。

この事例に見られるように、各学校間の結び付きがきわめて強いことも「厚田ならではの教育」の特色であった。昭和初期の記録で各学校の運動会に「他校種目」があり、交流を楽しみにしていたことがわかる。各学校の児童生徒数が減少すると、その問題点を補う目的で同の行事が増えていった。

昭和 59 年には「厚田村集合教育推進協議会」が発足し、明確な目標ときめ細かな計画によって学校間の連携が行われるようになった。組織は合併により解散したが、その伝統は現在まで続いている。

③ 中学校区の小中学校間の連携

聚富小中学校は、小学校と中学校が併置された学校であり、小学校と中学校の連携が日常的に行われる環境が整っている。同校では、さらに「少人数だから、小中併置校だから、聚富だからできる学校づくり」を重点目標「課題意識をもって学び、自分の思いや考えを豊かに表現する子どもの育成（小中学校の連携を図りながら）」を研究主題として、小中学校の結びつきを学校の強みとした学校経営に取り組んでいる。

具体的には、小学校と中学校の教員が、相互に乗り入れた教育活動を実施している。小学校では、基礎・基本の定着と中学校教員の専門性により、児童の学習意欲の向上を図るため、中学校籍の教員と小学校担任によるＴＴ授業を、５・６年の社会科、理科、家庭科、外国語活動、４年の算数で実施している。また、小中合同行事に当たっては、小学校籍の教員が９年間を見通した提案をして、協働的、協力的な指導体制の充実を図っている。「乗り入れ授業を行うことで、９年間を見通す大切さがわかった。もっと早く取り組めばよかった」という教員の感想が多く、乗り入れによって、学校がまとまり、全員がひとつになって、子どもを育てる姿勢が強まった。

小学校と中学校の連携は、厚田中学校校区（厚田小・厚田中・望来小）でもきめ細かく実施され、成果を挙げている。

第3章 厚田区各学校の現況

(1) 各学校の学校経営の重点、研究主題、特色ある教育活動、抱える課題

① 厚田小学校

学校名	石狩市立厚田小学校
【学校経営の重点】 ①確かな学力を育む学習指導の工夫・改善 ②授業力を高める研修活動の充実 ③豊かな心を育てる道德教育の充実 【研究主題】 「主体的に学び、協同的に課題解決をする子どもの育成」 算数科を通して ①単位時間における学習過程の工夫、②客観的な実態把握と評価活動 ③ノート指導 ④相手意識をもった表現スキルの充実	
【特色ある教育活動】 (学校と地域の連携、小学校間と中学校間の連携、中学校区の小中学校間の連携) ①学校と地域 地域の人材を活用した農漁業体験活動、福祉の学習、その他(読み聞かせ、地域SAT、厚田を海から見る会)他 ②小中連携 合同運動会、地域清掃、出前授業、他 ③校区内小小連携 授業参観交流、家庭学習の統一化 他 (学力向上、体力向上等の取り組み) ①学力向上 → 学校改善プランに基づく授業改善、学習規律、家庭学習の充実 ・学習タイム(水曜放課後)による習熟度別指導(高学年) ・算数の単元終末における習熟度別授業 ②体力向上 → 年間を通した縄跳びの取組 ・全学年新体力テストの実施 ・日常的に取り組める環境整備(体育館内)	

【抱える課題】

学力向上に課題（特に高学年に傾向が強い）

- ・一層の授業改善、家庭学習と連動したシステムの構築
- ・職員不在時（会議、研修等）による補欠体制の補強
- 今後学校統廃合に向けた加配の申請予定

② 望来小学校

学校名	石狩市立望来小学校		
【学校経営の重点】			
学校教育目標	1. よく考え進んで学ぶ子ども（知） 2. 思いやりをもち助け合う子ども（徳） 3. 健康でたくましい子ども（体）	}	目標の実現に向けた取組の推進 特に、進んで学ぶ子の育成を重点
◎創意を生かし、知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進・・・三つの柱と9項目の取組 *「学校経営ビジョン」参照			
【研究主題】			
「意欲的に学び、表現できる子どもの育成」～複式学級における算数科授業づくりを通して～ (3年計画1年次目)			
【特色ある教育活動】			
I. 学校と地域の連携、小学校間と中学校間の連携、中学校区の小中学校間の連携			
1. 地域性を生かした体験活動「稲作活動」、「すくすく園活動」、「砂の造形活動」、「収穫祭」等			
2. 地域との連携「地区合同運動会」、「学芸発表会」、「清掃美化活動」、「出前授業」等			
3. 小学校間の連携「合同社会見学」、「合同宿泊学習」、「合同修学旅行」、「集合体育」等			
4. 中学校区の連携「出前授業」(国際理解教育)、「自由参観日訪問」、「各種保健行事の支援」等			
II. 学力向上、体力向上等の取り組み			
1. 学校改善プランに基づく取組（個別指導の充実、指導体制の工夫、ICT機器の活用等）			
2. 学習規律の徹底（「望来の子」を基本に指導）			
3. 学習記録（「個人カルテ」）の作成、各種調査やテスト結果の分析と取組の改善			
4. 体力向上プランに基づく取組（体育の授業、業間休みの体力づくり：マラソン、なわとび等）			
5. 学習支援体制の工夫（技芸講師の配置、地域SAT及び学生SATの活用）			

【抱える課題】

I. 平成27年度の課題

1. 学力の向上 ⇒活用する力、応用する力に課題がある。また、家庭学習の時間が十分でない。
2. 読書量の減少 ⇒読書する機会や時間の減少傾向がとまらないこと。
3. 教育課程の改善 ⇒特色ある教育活動に係る時数の適正化、およびスリム化。
4. 校務分掌の改善 ⇒3学級4定員の規模に合う分掌業務の工夫。
5. 地域人材の活用 ⇒人材リストの活用を図ること。

II. 平成28年度（学校評価・中間評価）

1. 道徳教育、外国語活動の充実 ⇒年間指導計画の作成および改善
2. 学校安全の確保 ⇒危機管理マニュアルの更新等

③ 厚田中学校

学校名

石狩市立厚田中学校

【学校経営の重点】

◎目指す学校像 「地域の中で存在感のある学校」

①生徒にとって楽しい学校 ②保護者・地域に信頼される学校 ③教師にとって生きがいのある学校

◎平成28年度教育目標

「一人一人が『確かな学び』を身につけ、自ら進んで意欲的に活動する生徒の育成」
～自主・自立の育成を目指して～

◎学校経営の重点

1. 主体性を育み、生徒一人一人に応じた確かな学力の定着を図る。

- (1) 基礎基本の定着・習熟の徹底と総合的知性（生きる力）を育む教育活動を展開する。
- (2) 一人一人の学習状況を的確に捉え、個に応じたきめ細やかな指導の充実を図る。
(TT・補充学習の実践など)
- (3) 学習内容の理解や意欲を高めるため、指導内容の定着に向けた授業の改善・充実を図る。
- (4) 学習内容の定着を図るため、個に応じた家庭学習の工夫改善を図る。
- (5) 学力向上に関わり、小中一貫の考えに立って、9年間を見通した教育の充実に努める。

2. 心身ともに健康で、自主・自立の精神を身につけ、表情豊かに生きる力を育てる。

- (1) 全教職員の一貫した生徒指導を通して、生徒理解に努めるとともに、基本的生活習慣の定着を図り、自己指導能力を育成する。
- (2) 道徳の時間の充実を一層図ることにより、内面にせまる道徳性を育てるとともに、教育活動全体を通して思いやりや感謝の心を育み、より良い人間関係の構築を図る。
- (3) 体験活動やボランティア活動を通して、社会参加の意義や人との絆づくりについて意欲化を図る。
- (4) 学年・学級活動、生徒会活動、各種行事等、生徒の活動全般を通し、表現力豊かな言語環境を育てるとともに、自主・自立の精神を育む教育活動の展開を図る。

(5) 体育的行事や部活動を通して、目標に向かって取り組む強い意思と体力を育てる。

3. 保護者や地域の期待に応える、地域に存在感のある学校づくりに努める。

- (1) 開かれた学校づくりに努め、保護者・地域に学校から積極的に関わる中で相互理解と連携を進める。
- (2) 教職員・保護者・生徒による学校評価を活用し、教育課程の改善を図る。
- (3) 地域文化の継承、地域や学校の人材・資源の活用を図り、朝読書、国際理解教育など特色ある教育活動の推進に努める。

4. 教職員相互の和と信頼のもとで教職員としての自覚と経営参画意識を高める。

- (1) 学校教育目標実現のための計画的・組織的な研究体制の確立、教職員一人ひとりの授業力・教員としての資質向上を目指した研修の充実を図る。
- (2) 教職員の専門職としての自覚と使命感を持って、職務の遂行及び職能の向上、危機管理意識の高揚に努める。
- (3) 全教職員が相互の信頼と協働意識を持って経営参画意識を高める。

【研究主題】

◎研究主題 すべての生徒に「わかる喜び」を感じさせる授業づくり
 ～自ら進んで学習に取り組む生徒の育成～

◎研究内容と方法

- 1 個に応じた指導の充実
 - (1) TT授業の充実 (2) 個人カルテの作成・活用
- 2 学習事項の定着に向けた指導の工夫
 - (1) 定着に向けた授業改善（授業交流週間の設定と意見交流、授業評価の実施）
 - (2) 定着に向けた家庭学習指導の工夫

【特色ある教育活動】

1 学校と地域との連携強化 ～小中統合校開校に向けて～

- (1) 学校行事を通しての地域への働きかけ (2) 積極的な情報発信
- (3) 地域人材の活用（伝統芸能「望来獅子舞」の講師、SAT、道德の授業の講師など）
- (4) 地域行事への積極的な参加及び地域との積極的な交流（みよし園訪問など）
- (5) 文化部と「厚田・港・朝市」、「石狩湾漁協」との連携（案内及び啓発看板作成など）

2 中学校間の連携

- (1) 部活動における浜益中学校との連携（野球部・バレーボール部～合同チーム結成）

3 中学校区の小中学校間の連携

- (1) 厚田中学校区連携教育会議の効果的な運営（年3回開催 「学習指導」「生徒指導」「養護・栄養教諭」「事務職員」の4部門で活動）
- (2) 厚田小中合同運動会
- (3) 厚田小中合同校外清掃（ボランティア清掃 厚田海浜プール）
- (4) 中学校から小学校への出前授業の実施（国際理解教育、音楽）
- (5) 授業公開日等を利用した授業参観
- (6) 一日日程の入学説明会

4 学力向上の取り組み

- (1) 補充学習の充実（第3学年部活動引退後の放課後学習会、長期休業中の学習会）
- (2) 個に応じた家庭学習指導

5 体力向上等の取り組み

- (1) 毎朝の健康調査及び健康な体づくりのための食の指導（基本的生活習慣の確立）
- (2) 新体力テストによる体力・運動能力の実態把握と保健体育、部活動による体力向上の取組

【学校が抱える課題】

- 1 学力の向上（個人に応じた指導の充実）及び指導内容の定着
- 2 平成32年度の統合校開校に向けた小中連携の強化（9年間を見通した教育課程の編成など）
- 3 平成32年度の統合校開校に向けた生徒の自発的活動促進及び自主性・自立性の育成の強化
- 4 生徒数の減少に伴う教育活動の矮小化・縮小化（部活動の存続、行事の内容変更など）
- 5 地域活性化の一翼を担う教育活動の工夫（厚田ならではの教育、厚田でなくては出来ない教育）
- 6 平成32年度の統合校開校に向けた教職員構成の確立（効果的な人事異動）等条件整備

④ 聚富小中学校

学校名	石狩市立聚富小中学校
【学校経営の重点】 <u>少人数だから、小中併置校だから、聚富だからできる学校づくり</u> ○協働体制による創意に満ちた信頼される学校づくり ○豊かな人間性を育み、人として生きていくための力の育成 ○基礎・基本の確実な習得と、「確かな学力」の育成 ○健やかな体を育み、自分の命を守る教育の推進 【研究主題】 ○課題意識を持って学び、自分の思いや考えを豊かに表現する子どもの育成 ～小中学校の連携を図りながら～	
【特色ある教育活動】 《地域連携》 ○運動会など（体育振興会合同開催） 運動会は「聚富地区体育振興会」と合同で行っています。児童生徒の競技と体育振興会の競技を順番に行い、効率的に運営できるように工夫しています。 ○聚富神社祭 地域の行事、聚富神社祭への奉納相撲に小中学生が全員参加しています。余興では小中合同で「よさこい踊り」を披露します。 ○稲作・稲刈り・畑作（小学校） 地域の方に、指導を受け実際に農作物の栽培を行い、収穫まで行っています。「栽培」を通して、食の大切さを体験的に学び、育てる楽しみ、収穫の喜びなどと同時に、生産者の思いと工夫に気づいたりする学習をめしています。 ○読み聞かせ 教員のみならず、地域のボランティア「おひさまの会」による、読み聞かせを休み時間に行っています（年間20回）。その他、年間2回の読書月間には、1時間読み聞かせもあります。 ○クリーン作戦 地域の方と共同で、自分たちの地域をきれいにするクリーン作戦に取り組んでいます。通学路や、バス停を中心に清掃活動を行っています。 ○地域を生かした体験活動 地域の自然や施設を活用した学習活動・体験活動を行っています。地層見学、販売体験、職業体験、乗馬体験など地域の資源を活用した体験活動を行っています。 ○外部指導者（漁業・カラーリング他） 地域の方を講師として、地域の産業や地域スポーツ、地域社会等について学習しています。	

漁師の出前授業・カローリング（石狩市民スポーツ）・租税教室、スキー学習など多くの地域の方にご協力いただいています。

○放課後子ども教室

放課後子ども教室と連携して、自然体験、伝統文化、運動に親しむ機会の充実を図っています。

《小中連携》

○小中一貫を支える連携体制

小中合同の分掌部会による日程や行事等の調整、小・中それぞれの学校部会によるきめ細やかな指導検討、小中合同の職員会議により効率的な運営と、相互理解を深め、密接な連携を図っています。

○小中合同の児童生徒会活動

小・中それぞれの児童会、生徒会活動とともに、小中合同の「児童生徒会」による学校行事の運営や、地域の行事への参加により児童生徒の交流活動を行っています。

○小中一貫した授業スタイル

1時間の学習の流れを小中学校全体で「シップ授業スタイル」として統一を図り、全ての授業で取り組むことにより、授業におけるスムーズな小中接続を図っています。

○小中一貫した家庭学習

「家庭学習の手引き」は小学校1年から中学校3年まで学習の取り組み方や保護者としてのかわり方などを系統的に示し、小中9年間の発達の段階を踏まえた家庭学習の例示と指導を行っています。

○小中合同の授業研究

小中教員相互の授業参観の実施、指導内容や方法についての小中教員相互の情報交換による授業改善により、
9年間を見通した授業づくりを行っています。

○小中教諭のT Tと副担体制

小学校での小中教員のT T授業、中学校教員が小学校学級副担任、小中合同行事の提案は小学校側が9年間を見通した提案をする等、9年間を見通した協働的・協力的な指導体制の拡充を図っています。

《学力向上》

○家庭学習のすすめ

年度始めに家庭学習の手引きを配付するとともに、年間数回、生活習慣や家庭学習についてのアンケート調査実施。また、参観日や通信で「家庭学習ノート」を紹介するなど、家庭と協働して取り組む活動を進めています。

○言語活動の充実

言語活動の充実の日常的な取り組みとして、短作文指導（低中学年）、新聞を読み要旨をまとめ感想を書く（高学年）活動を行わせています。また、発表に対する、質問の受け答えについても意識させるようにしています。

○英語（外国語活動）

小学校1年生より英語学習を実施、国際理解教育とともに英語という言葉の基本的な学習を行い、外国語活動や中学校英語への円滑な接続を図っています。

○長期休業中の学習会

「学習会」は、長期休業中における学習習慣を身につけさせることをねらいとし、休みの初日から実施しています。約束は、①集中する。②学習中はしゃべらない。③漢字は自分で調べる。④わからない時は静かに手を挙げる。

○豊富授業スタイル・ICT

「課題」「まとめ」といった基本的な授業スタイルを小中で同様に実施しています。小学生から、学び方を身に付けさせ、質の高い指導を図っています。

○読書発表会・作品発表会

年間2回、読書月間を設定。読書に親しませるとともに、自分の読んだおすすめ本の紹介などの発表も行わせています。その他、全校集会や総合的学習の時間の発表活動など通じて言語活動の充実も図っています。

○授業・学習評価の実施

授業研究とともに、教師の学習評価、児童生徒の学習評価を行っています。評価項目は「全国学力・学習状況調査」の質問紙調査を参考に、児童生徒と教師で同じ項目で評価を行っています。

○中学校教諭によるTT

小学校の基礎・基本の定着と中学校教員の専門性により、児童の学習意欲の向上を図るため、中学校籍の教員と小学校担任によるTT授業を実施しています。（5・6年：社会科、理科、家庭科、外国語活動。4年：算数）

《体力向上》

○体育の授業（特定の運動の強化）

学年により、苦手な運動を克服させるため、授業のはじめに特定の運動能力を強化する取組を実施しています。休み時間も体を動かせるようボールなどの運動用具を自由に利用できるようにしています。

○持久走・縄跳び・鉄棒

全校で特設的な運動励行の機会を設定しています。持久走、鉄棒、縄跳びで目標を設定。個人カードを作成し、自己の成長を振りかえると同時に、目標を持って取り組むことができるようにしています。

○全校 新体力テスト

小学校1年生から中学校3年生まで、全校一斉に新体力テストを年2回実施しています。記録をカードに記入させ、自分の成長を実感できるよう工夫しています。

○遊ぶDAY・ゲーム集会

児童・生徒会が中心となって、体力向上の取組を行っています。昼休みに小中みんなで遊ぶ「遊ぶDAY」、中休みに小学生で企画する「ゲーム集会」なども行われています。

○全校（運動会・遠足）

小全校での遠足、運動会での小中合同スタンプやよさこい踊りを実施。子どもたちの成長段階と体力面も考慮し、子どもたち一人一人が自ら目標を持ち意欲的に取り組めるよう学年ごとで差をつけています。

○清掃活動

小中縦割りでの清掃活動、小1～中3まで、班ごとに分かれて実施しています。中学生が清掃のやり方を指導、下級生が見習う等、リーダーを中心に効率的な清掃活動を行っています。

○食 育

様々な体験的を通し、食の持つ多様な側面に気づき、大切さを学ぶことができるような取組をすすめています。調理活動でも地場産を活用し、子どもが地域の環境や産業について理解を深めることができるよう工夫しています。

○厚田区合同体育（小）

集団スポーツなどは厚田区の3校合同での体育を実施しています。少人数の良さを生かした指導を生かし、集団スポーツの楽しさも味わわせることが出来るよう工夫しています。

【学校が抱える課題】

- 今年度から、中学校の先生がT Tとして小学校の授業入り、小学校の複式授業の負担は軽減できたが、反面、中学校の先生の負担が大きくなっているので再度調整しなくてはならない。
- 先生一人一人が分担する仕事量が多く、負担が大きい。一人でも二人でも何らかのかたちで加配があると助かる。
- 立地の問題で石狩管内から先生を呼び寄せるのが難しい。
- 教頭は、連合自治会や神社祭実行委員会等の仕事があり多忙である。（今年は特に一人なので）

（２）各学校の校舎等の現況

【厚田小学校】

①所在地

石狩市厚田区厚田109番地2

②敷地状況

敷地面積	10,661㎡
建物敷地面積	3,138㎡
運動場敷地面積	7,523㎡

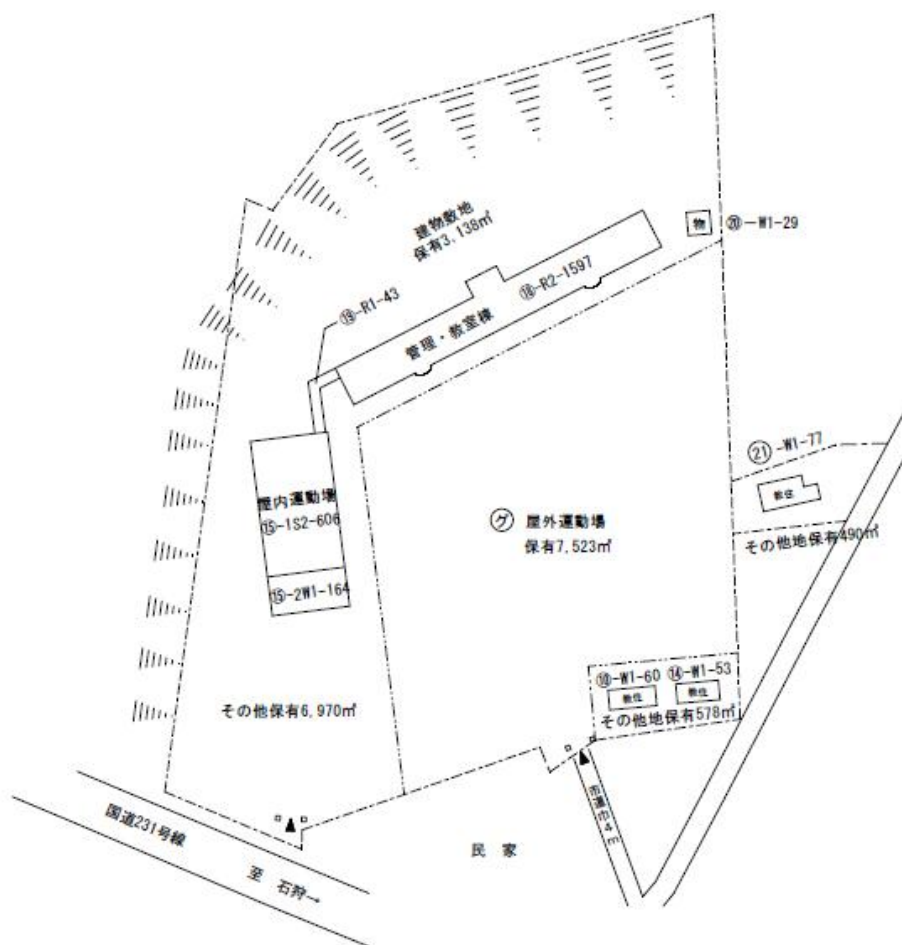
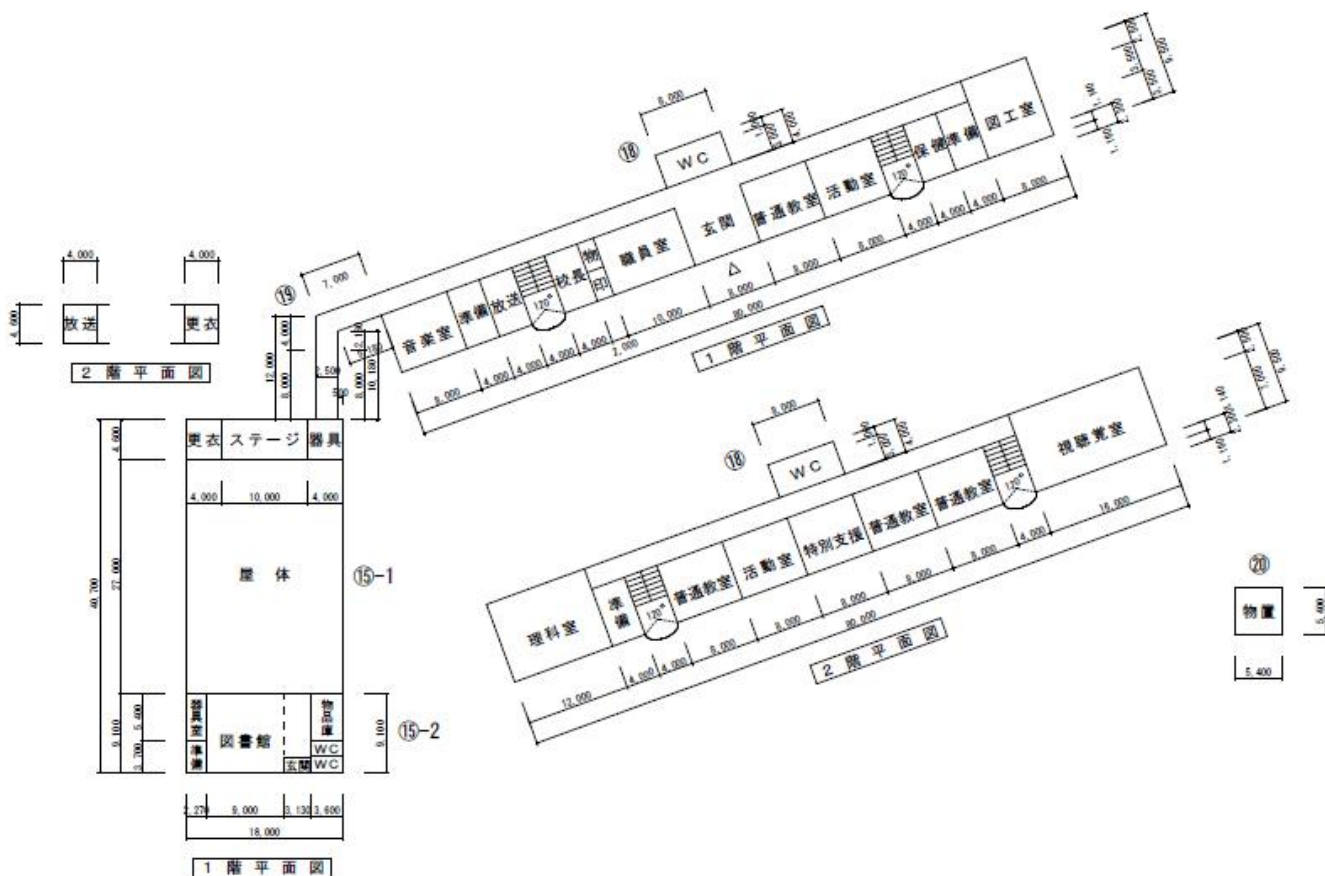
③施設規模

施設	面積	構造	築年
校舎延べ床面積	(2,450㎡)		
普通教室 5	280㎡	鉄筋コンクリート造	普通教室と特別教室は、昭和59年 平成23年耐震化工事
特別教室 7	684㎡	鉄筋コンクリート造	
管理諸室等	673㎡		
屋内体育館	813㎡	鉄骨造 一部木造（164㎡）	昭和63年

④施設内容

区 分	摘 要
普通教室	4 室
特別支援教室	1 室
特別教室	理科室、音楽室、図画工作室、視聴覚室、図書室、特別活動室2 （計7室）
屋内体育館	含：ステージ、器具室、更衣室、玄関、トイレ
管理諸室	校長室、職員室、保健室、放送室
その他	玄関、トイレ

管理・教室棟は昭和59年築（33年経過）、体育館は昭和51年築（41年経過、平成23年耐震化工事済み）である。特に校舎の外壁・内壁や床タイルの劣化、機械設備の老朽化が目立つ。また、冬季間における校舎内の廊下及び階段部分の断熱・保温に課題がある。



【望来小学校】

①所在地

石狩市厚田区望来105番地9

②敷地状況

敷地面積	6,499㎡
建物敷地面積	2,099㎡
運動場敷地面積	4,400㎡

③施設規模

施設	面積	構造	築年
校舎延べ床面積	(1,764㎡)		
普通教室 5	151㎡	鉄筋コンクリート造	普通教室と特別教室は、昭和60年 平成23年耐震化工事
特別教室 7	377㎡	鉄筋コンクリート造	
管理諸室等	705㎡		
屋内体育館	531㎡	鉄骨造 一部木造（56㎡）	昭和52年

④施設内容

区 分	摘 要
普通教室	3室
特別支援教室	なし
特別教室	理科室、音楽室、コンピュータ覚室、図書室、 特別活動室（計5室）
屋内体育館	含：ステージ、控室、器具室玄関、トイレ
管理諸室	校長室、職員室、保健室、放送室、物置
その他	玄関、トイレ

管理・教室棟は昭和60年築（32年経過、一部・物置は昭和52年築）、体育館は昭和52年築（40年経過、平成25年耐震化工事済み）である。

【聚富小中学校】

①所在地

石狩市厚田区聚富256番地8

②敷地状況

敷地面積	11,927㎡
建物敷地面積	4,970㎡
運動場敷地面積	6,947㎡

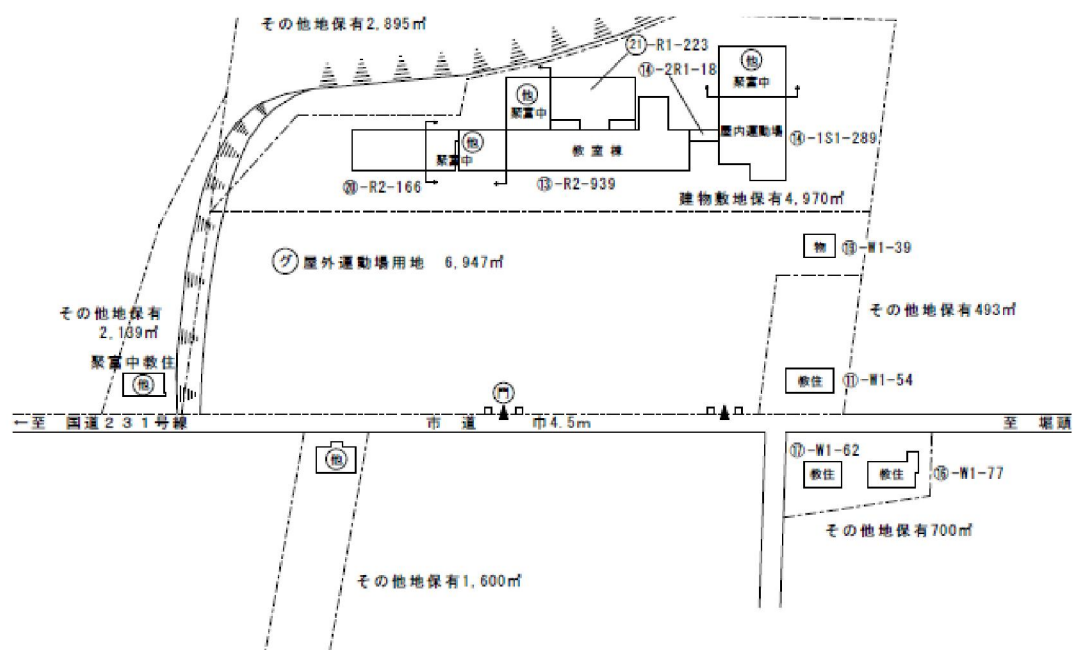
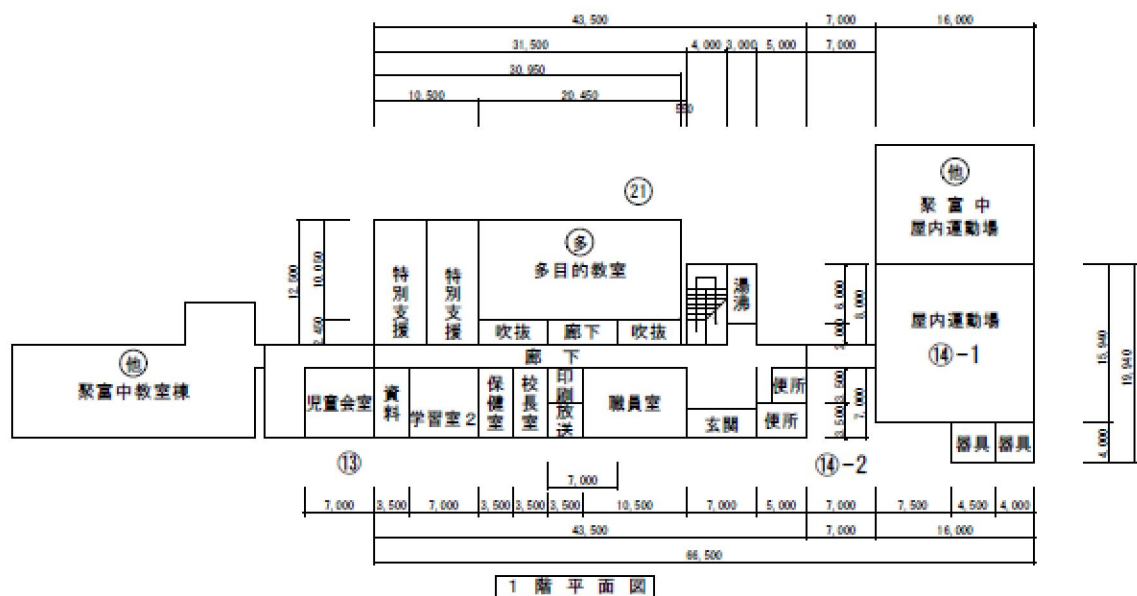
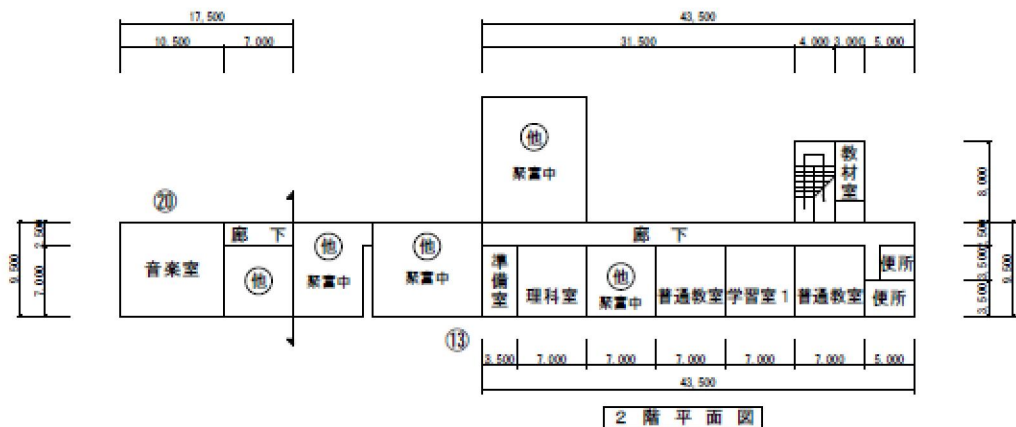
③施設規模

施設	面積	構造	築年
校舎延べ床面積	(2,685㎡)		
普通教室 6	327㎡	鉄筋コンクリート造	普通教室棟、
特別教室 10	693㎡	鉄筋コンクリート造	昭和55年築
管理諸室等	1,165㎡		特別教室棟、
			平成元年築
			多目的教室、
			平成11年築
屋内体育館	500㎡	鉄骨造	体育館昭和57年築
			平成24年耐震化工事済み

④施設内容

区 分	摘 要
普通教室	小2 中2 計4室
特別支援教室	小2 中0 計2室
特別教室	理科室、音楽室、技術室、家庭科室、コンピュータ室、特別活動室5 (計10室)
屋内体育館	含：ステージ、更衣室、器具室玄関
管理諸室	校長室、職員室、保健室、放送室、物置
その他	玄関、トイレ

普通教室棟は昭和55年築（37年経過）、特別教室棟は平成元年築（29年経過）、多目的教室は平成11年築（18年経過）、体育館は昭和57年築（35年経過、平成24年耐震化工事済み）である。特に校舎の外壁・内壁の剥がれ落ちや、雨漏りによる天井タイルの劣化、暖房設備の故障等、建物全体の老朽化が進んでいる。



【厚田中学校】

①所在地

石狩市厚田区厚田171番地1

②敷地状況

敷地面積	13,563㎡
建物敷地面積	4,063㎡
運動場敷地面積	9,500㎡

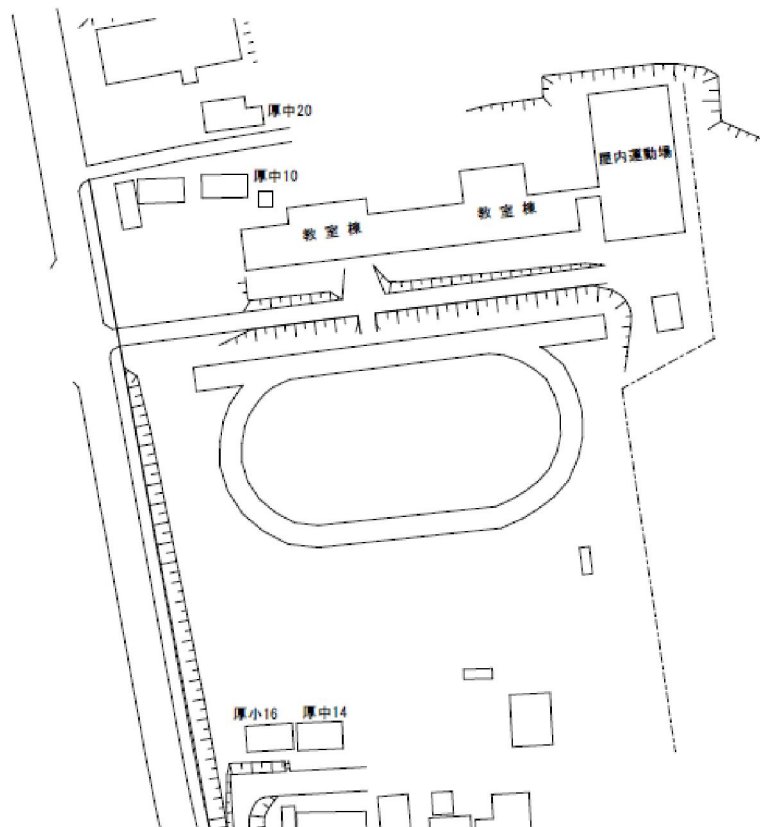
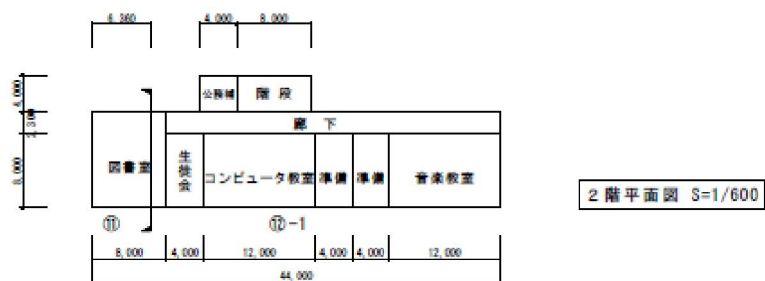
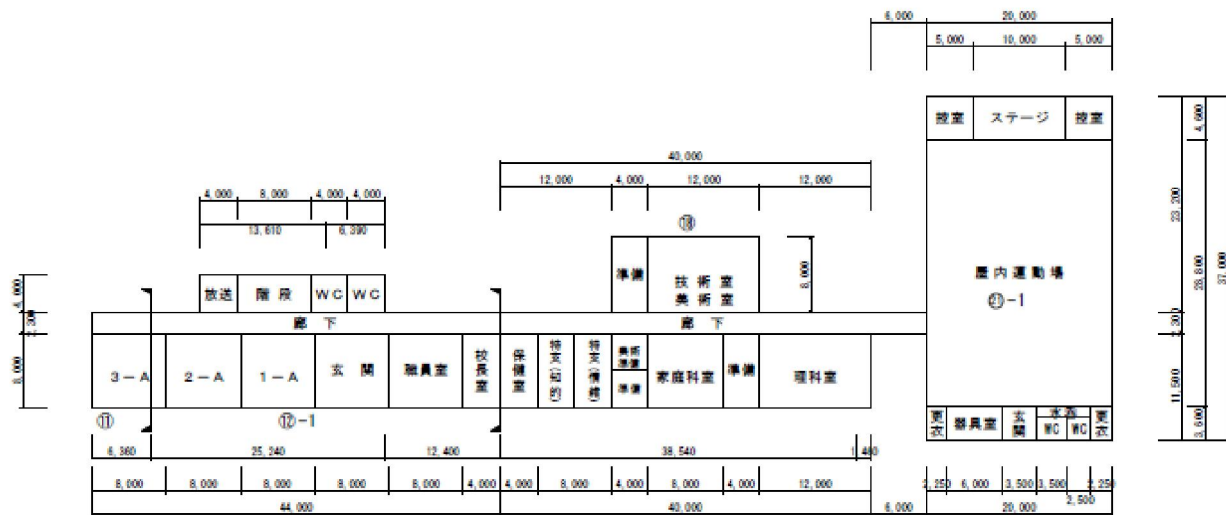
③施設規模

施設	面積	構造	築年
校舎延べ床面積	(2,328㎡)		
普通教室 5	256㎡	鉄筋コンクリート造	普通教室と特別教室の1,043㎡は、昭和49年540㎡は、昭和57年増築
特別教室 7	722㎡	鉄筋コンクリート造	
管理諸室等	596㎡		
屋内体育館	754㎡	鉄筋コンクリート造	昭和63年

④施設内容

区 分	摘 要
普通教室	3 室
特別支援教室	2 室
特別教室	理科室、音楽室、技術室、家庭科室、コンピュータ室、図書室、特別活動室 (計 7 室)
屋内体育館	含：ステージ、控え室、更衣室 2、玄関、トイレ
管理諸室	校長室、職員室、保健室、公務補室、放送室
その他	玄関、トイレ

教室棟は昭和49年築（43年経過、一部は昭和57年築）、体育館は昭和63年築（29年経過）である。特に教室棟の屋上部分の防水機能の劣化によって雨漏りが頻繁に発生しているほか、天井・外壁モルタルの剥がれ落ちや内壁塗装の劣化、暖房・機械設備の故障等、建物全体において老朽化が著しく、部分的な修繕による対応が困難な状況になっている。また、冬季間における校舎内の廊下及び階段部分の断熱・保温に課題がある。厚田地区の高台に位置し、現在は緊急避難場所（福祉避難所）に指定されているが、今後も地域防災の役割を果たす施設として位置付けるのであれば、設備・機能の両面において不備・不安な点が多いと考える。



第4章 厚田における学校統合の経緯

地域人口及び児童生徒数の減少を背景に、旧厚田村では平成10年から村内中学校の統合の検討を開始し、平成12年の厚田村学校配置問題検討委員会からの答申を踏まえ、平成13年に中学校3校を1校に統合し、望来地区に新設する方針を打ち出した。しかしその後、平成17年10月の市村合併、さらにその後の財政状況の悪化など、行政を取り巻く環境が激変する中で、こうした動きはいったん事実上の棚上げ状態とならざるを得なかった（なお、複式化が不可避となっていた望来中学校は、これらの動きに先行する形で、平成19年4月に厚田中学校に統合された。）。

その後も児童生徒数の減少と学校施設の老朽化は年々深刻な状況となっていることを踏まえ、教育委員会は、未来を担う子どもたちのためには適切な教育環境の整備充実が必要と判断し、平成22年から厚田区における小中学校の将来像の検討を改めて開始した。検討経緯は次のとおりである。

（1）「厚田区における小学校・中学校のあり方、将来像」検討（平成22年7月）

生徒数推計により、平成26年度から聚富中学校の複式化が想定されることとなり、聚富小中学校のPTAで、保護者の意見交換会等が行われた。このことを受けて、教育委員会は厚田区における学校統合のあり方を多面的に検討するため、石狩市厚田区学校配置基本方針（案）作成懇話会（後に「厚田区学校に関する検討会」に名称変更）を設置する準備を進めた。

（2）厚田区学校に関する検討会（平成24年5月～平成25年1月）

これまでの経緯を踏まえ、厚田区の学校のあり方を検討するために、6回の検討会を開催した。「決定機関ではない」「統廃合ありきではない」ことを前提に、広く委員の意見を求めた。

検討の方向性として、将来的には区内に小学校1校、中学校1校の整備を視野に、その具体的内容については、改めて協議の場を設けることを確認した。

〔検討会の委員〕

地域協議会	佐藤勝彦（座長）	吉田一男		
町内会代表	土門隆一	中西元典	本吉俊一	朝倉 勲
PTA関係者				
小中学校	渡邊教円	河野博文	盛重栄司	河合徳秋
	松浦百合江	岡部吏奈	杉本ひとみ	谷 康路
保育園	小笠原久美子	相原理子		
学校関係者	泉山浩幸	谷口みどり	青山 司	
	中村伸次	宮口貴裕		（敬称略）

(3) 教育委員会会議において学校整備の具体検討を行うことの決定（平成 26 年 8 月 26 日）

教育委員会は、厚田区学校に関する検討会での意見や確認事項などを踏まえ、整備する時期や場所、手法などについて、学識経験者や町内会、PTA関係者、学校関係者（オブザーバー）を構成員とする検討会組織を設置し、より具体的な検討を行うことを決定した。

(4) 学校の整備に係る検討会（平成 26 年 9 月～平成 27 年 4 月）

上記の教育委員会会議の決定を受けて、平成 26 年 9 月より、厚田区と本町・八幡地区において学校の整備に係る検討会が開催され、このうち、厚田区小中学校の整備に係る検討会は 5 回開催された。

[検討会の委員]

学識経験者	佐藤勝彦（座長）	渡邊教円	大黒利勝	
町内会代表	土門隆一	中西元典	本吉俊一	朝倉 勲
PTA関係者				
小中学校	早坂伊佐雄	向井 稔	盛重栄司	岡部吏奈
保育園	原つぐみ	東野さやか	角田由希	
学校関係者	上野信仁	小川亮男	照山秀一	
	松原謙二	得能敏宏		（敬称略）

平成 27 年 4 月 14 日、検討会は 5 回の会議で検討した「意見のまとめ」を、佐藤座長より石狩市教育委員会 鎌田教育長へ提出した。

「厚田区小中学校の整備に係る検討会 意見のまとめ」【概要】

[総論]

- ・ 少子高齢化に対応した厚田区における今後の小中学校整備のあり方を検討
- ・ 子どもたちのより良い学習環境を目指すという考えを基本に、
 - 「知る（今の学校のこと）」
 - 「考える（これからの学校のこと）」
 - 「まとめる（整備のあり方）」の 3 ステップで検討
- ・ 地域の事情や個々の課題はありつつも、一定の規模を確保し、機能を集約するために、学校統合について具体的に検討すべき。

[どのような学校が良いのか ～「ブレインライティング」によるまとめを行う～]

- ・小中一貫教育のできる学校
- ・コミュニティ・スクールを考えた魅力ある学校
- ・適正な人数で教育が受けられる機会（複式編成でない） など

[学校を整備する時期]

- ・具体的時期の明言には至らなかったが、できるだけ早期に実現すべき。

[学校を整備する場所]

- ・具体的に明言するには至らなかったが、まちづくりの視点も踏まえ定める必要。

[付帯意見]

- ・並行して検討されている本町・八幡地区の方向性を注視する必要。
- ・聚富地区については、通学先を選択できる枠組みを要望する。

（５）外部有識者による意見書（平成 27 年 7 月～ 8 月）

教育委員会は、厚田区と本町・八幡地区の学校整備の具体策を取りまとめるにあたり、専門的かつ第三者的な立場で、多様な視点による具体的考察をいただくため、外部の有識者（３名）に意見書の作成を委嘱した。

平成 27 年 7 月 13 日、厚田区と本町・八幡地区の現地視察を実施し、8 月上旬に意見書を受理した。

平成 27 年 8 月

「学校整備の具体策」の策定にかかる外部の有識者からの意見書

木村 純 （北海道大学高等教育推進機構 特任教授）

前田賢次 （北海道教育大学札幌校教育方法学研究室 准教授）

伊井義人 （藤女子大学人間生活部人間生活学科 教授）

※ 意見書は、石狩市ホームページに掲載しています。

<http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/uploaded/attachment/16193.pdf>

(6)「学校整備の具体策（案）について ～厚田区～」(平成 27 年 11 月)

教育委員会は、平成 26 年 9 月より平成 27 年 3 月までに開催された「学校の整備に係る検討会（厚田区：5 回）」による意見のまとめと、外部の有識者（3 名）から専門的かつ第三者的な立場で、多様な視点による具体的考察として作成いただいた意見書を参考に、厚田区における学校整備の基本方針として、「学校整備の具体策（案）について ～厚田区～」を決定した。

（平成 27 年 11 月 13 日、平成 27 年度教育委員会会議 11 月定例会で決定。本町・八幡地区も同時に提示。<http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/uploaded/attachment/16202.pdf>）

平成 27 年 11 月

「学校整備の具体策（案）について ～厚田区～」

【概要】

はじめに

本市の児童生徒の数は、市全体では横ばい傾向にあり、今後は少子高齢化の進行によって徐々に減少し、その傾向が続くものと考えられる。

また一部の学校では、施設の老朽化が著しい状況にあること等、市教委としては、未来を担う石狩の子ども達のために、適切な教育環境の整備と充実に向けた継続した取り組みが必要であると強く認識している。

このようなことから、市教委は、地域人口及び児童生徒数の減少が続いている「厚田区」において、具体的な学校整備の手法等を盛り込んだ「学校整備の具体策（案）」をまとめた。

まとめにあたっては、平成 26 年 9 月より平成 27 年 3 月までの間、開催された「学校の整備に係る検討会（厚田区：5 回）」においてまとめられた意見や検討内容のほか、外部の有識者（3 名）から専門的かつ第三者的な立場で、多様な視点による具体的考察として作成いただいた意見書を参考に、①基本的な考え方 ②個別・具体計画 を示すこととした。

学校の現状と今後の見通し

- 1 児童生徒数の現状と今後の推移（略）
- 2 学校施設の現状（略）

学校整備の具体策

1 基本的な考え方

- (1) 教育的な視点（社会性の育成、集団活動の機会確保等の必要性について）
- (2) 特色ある教育の推進
 - ① 更なる小中連携の取組
 - ② 地域との連携による教育活動の展開
 - ③ ふるさと学習の推進
 - ④ 地域課題や今日的な教育課題に対応した取組

(3) 学校が地域コミュニティの核としての性格を有する視点

(4) 学校施設の整備について

2 個別・具体計画

(1) 厚田区の学校整備

厚田区の小学校（3校）と中学校（2校）を1校に統合します。

① 施設

（仮称）厚田小中学校を新設する。

新たに小中一体型の施設を建設する。

② 新設校の位置

現在の厚田中学校を予定地とする。

③ 整備の時期

できる限り早期の新設校の開校を目指す

- | | |
|----------|---|
| ・ 1 年目 | 教育システムの検討（設立準備委員会の発足）、
基本コンセプトの検討（ベース設計） |
| ・ 2 年目 | 基本設計、実施設計 |
| ・ 3 年目前期 | 現・厚田中学校校舎の解体工事など |
| ・ 3 年目後期 | 新築工事着工 |
| ・ 4 年目後期 | 新校舎完成、開校準備 |
| ・ 5 年目 | 開校 |

④ 新設校の特徴

新設校は、施設一体型の小中一貫校（義務教育学校）とし、子ども達の生きる力（＝知・徳・体のバランスのとれた力）を育むことを基本にしつつ、少人数・小規模校としてのメリットを生かしたICT教育や、英語教育、環境教育の実践等、現代的な教育ニーズに対応するほか、平成30年度オープン予定の「道の駅」と連携し、厚田区の豊かな自然や文化、伝統、産業資源等を生かしたふるさと学習やキャリア教育等、地域の特色やニーズを踏まえた独自のカリキュラムによる学校づくりを行う。

また、これまで検討されてきた、学校と地域との連携による「厚田ならではの学校づくり（厚田モデルのコミュニティ・スクール）」を具現化するとともに、保育園や地域開放型図書館のほか、防災や給食（配食）の機能など、地域福祉やまちづくりの視点を踏まえた複合的・多機能の学校施設の建設を検討する。

このほか、教職員住宅の整備や校区外からの児童生徒の受入等、地域活性化や定住人口の増加につながる施策と連動した学校づくりについて検討する。

【考えられる視点】

- ・ 小中一貫教育
- ・ コミュニティ・スクール※2

- ・ふるさと学習、キャリア教育

- ・国際理解教育

(ALT活用による英語教育、JICA連携、ユネスコスクールなど)

⑤ 通学手段等

厚田市街地に居住する児童生徒を除いては、スクールバスで通学する。

(2) 説明にあたって (今後の進め方など)

「学校整備の具体策 (案)」については、児童生徒及び幼稚園・保育園園児の保護者やPTA、学校、地域住民等への丁寧な説明を行い、地域の合意形成 (コンセンサス) を図る。

① 学校施設の跡利用についての具体的検討を行う。

② 統廃合にあたって、次の点について留意する。

- ・統合までの準備期間においては、地域の実情や教員の配置状況等を踏まえ、場合によっては先行して児童生徒の異動等を行うことについても考慮する。

- ・厚田区小中学校の統廃合に際しては、同区全ての児童生徒を対象とすることを基本とするが、地域性や通学距離等を考慮した方策の検討が必要である。

(7) 厚田区小中学校の整備に係る検討会への報告説明 (平成 27 年 11 月 25 日)

教育委員会は、厚田区小中学校の整備に係る検討会を開催し、平成 27 年 11 月に決定した「学校整備の具体策 (案)」について、検討委員へ報告説明を行った。

(8) 保護者・地域説明会の実施 (平成 27 年 12 月～平成 28 年 2 月)

教育委員会では、平成 27 年 11 月に決定した「学校整備の具体策 (案)」について、保護者や地域住民等を対象とした説明会を下表のとおり実施した。

(厚田区と本町・八幡地区で計 13 回実施。保護者等 110 名、地域住民 68 名の計 178 名が参加。)

(内、厚田区では、4 回の保護者等説明会に 57 名、3 回の地域説明会に 56 名が参加。)

[保護者等説明会]

	校区 (エリア)	対象校など	日時	会場	参加者数 (先生含む)
1	厚田小・中校区	厚田小・厚田中 厚田保育園	12/21 (月) 18:35～20:05	厚田保健センター (多目的ホール)	18 名
2	望来小校区	望来小	1/21 (木) 18:30～20:05	同校音楽室	10 名
3	聚富小中校区	聚富小中	12/10 (木) 19:00～20:25	同校多目的室	20 名
4		聚富保育園	1/22 (金) 16:05～17:30	同園	9 名
5	八幡小校区	八幡小学校	1/20 (水) 18:35～20:05	同校図書室	10 名
6		くるみ保育園	1/18 (月) 17:30～19:05	同園	20 名
7	石狩小・中校区	石狩小学校	1/28 (木) 19:05～20:35	同校体育館	20 名
8		石狩中学校	2/ 1 (月) 18:35～20:15	同校理科室	3 名

計 110 名

[地域説明会]

	地区	日時	会場	参加者数 (先生含む)
1	厚田地区	2／ 2 (火) 13:35～15:30	厚田保健センター (多目的ホール)	3 名
2	望来地区	2／ 4 (木) 18:30～20:35	望来コミセン	15 名
3	聚富地区	1／30 (土) 13:35～15:40	聚富会館	38 名
4	八幡地区	2／ 5 (金) 18:30～20:20	八幡コミセン	6 名
5	本町地区	2／ 8 (月) 18:30～20:20	弁天会館	6 名

計 68 名

説明会では、学校整備の基本方針として決定した「学校整備の具体策（案）について ～厚田区、本町・八幡地区～」を要約した次の資料を用いた。

学校整備の具体策(案)の概要

【基本的な考え方】

- I 子ども達のより良い学習環境の確保を第一とします。
- II 4つの視点に立った「学校統合」による学校整備を行います。

● 教育的な視点

可能な限り、一定規模の児童生徒数の確保と、学習活動や校外活動（少年団、部活動）に支障が生じないよう検討していくことが必要。（社会性、協調性、規範意識など）

● 特色ある教育の推進

更なる小中連携、地域との連携による教育活動（放課後学習、コミュニティ・スクール）、ふるさと学習、ICT教育 etc.

● 学校が地域コミュニティの核

防災、地域交流の場、地域づくりの拠点（シンボル）として「多機能」の施設

● 学校施設の整備

多くの学校が築30年以上で老朽化が進んでいる。

教育内容、学校施設が果たす役割、財政的な視点等を、
総合的に検討して進めていきます。

～ 両地区への説明にあたって（今後の進め方など）～

- ① 「学校整備の具体策(案)」については、児童生徒及び幼稚園・保育園園児の保護者やPTA、学校、地域住民等の皆さまへの丁寧な説明を行い、地域の合意形成（コンセンサス）を図ります。
 - ・特に本町・八幡地区においては、これまでの検討期間が短いことから、本案を基本としつつ、今後の説明会等において引き続き検討していきます。
- ② 学校施設の跡利用についての具体的検討を行います。
 - ・特に石狩小学校においては、円形校舎として歴史的価値の高い建造物として、今後の具体的な活用方策について検討していきます。
- ③ 統廃合にあたって、次の点について留意していきます。
 - ・統合までの準備期間においては、地域の実情や教員の配置状況等を踏まえ、場合によっては先行して児童生徒の異動等を行うことについても考慮すること。
 - ・厚田区小中学校の統廃合に際しては、同区全ての児童生徒を対象とすることを基本とするが、地域性や通学距離等を考慮した方策の検討が必要であること。

厚田区の計画（案）

小学校3校、中学校2校を “ 1 校に統合 ”

- ① 施設 「(仮称) 厚田小中学校」を新設
- ② 位置 現在の 厚田中学校 を予定地
- ③ 時期 できるだけ早期の新設校の開校を目指します。

～ 開校まで4年間 ～

- 1 年目 教育システムの検討（設立準備委員会の立ち上げ）
基本コンセプトの検討（ベース設計）
- 2 年目 基本設計、実施設計
- 3 年目 現・厚田中学校舎の解体工事
新築工事着工
- 4 年目 新校舎完成、開校準備
- 5 年目 開校

④ 新設校の特徴

- ・小中一貫校（施設一体型）
義務教育9年間の系統性、学びの連続性に配慮した教育
- ・ICT教育、英語教育、環境教育の充実
- ・「道の駅（H30 年オープン予定）」と連携した、
ふるさと学習、キャリア教育
- ・厚田モデル の「コミュニティ・スクール」
- ・保育園、図書館、防災 etc … 複合・多機能の施設

⑤ 通学手段など

- ・スクールバスで通学する。
(厚田市街地に居住する児童生徒を除く。)

●学校整備の具体策（案）に対する主な意見・要望事項等まとめ一覧

・厚田区、本町・八幡地区小中学校の整備に係る検討会（H27.11.24・25）

・学校整備の具体策（案）に係る保護者・地域説明会（H27.12～H.28.2：全13箇所）

※厚田区の学校整備について

意見・要望等のポイント、概要	意見・要望等のポイント、概要	具体的・個別の意見、要望等	具体的・個別の意見、要望等
聚富小中の児童生徒について	・具体策（案）では、現行の厚田区という扱いで、「（仮称）厚田小中学校（厚田新設校）」へスクールバスで通学することとなっているが、通学距離が遠いので、八幡小・石狩中への通学を認めてほしい。 ⇒ 早めの決定と周知を！	・スクールバスでの通学時間（乗車時間）が長く、子ども達には負担である。 ・学校で急病になった時に、保護者が自宅や職場から迎えに行き、その後花川・札幌方面の病院へ向かうことを考えた場合、車の運転が負担である。 ・将来の中学校の進学先（石狩中か、厚田新設校か）を見据えて、今から八幡小か、聚富小かを選択できるようにしてほしい。	・できるだけ近い学校へ通わせたい。（距離が遠いだけに、交通事故等が心配。リスクが高い。） ・5年をかけないで、できるだけ早く八幡小・石狩中の校区として認めるべきである。（遅くとも3年後位迄に。） ・これを契機に、トーマン団地（緑ヶ原、厚田区虹が原）の校区を一つにしてほしい。これまで約30年間、お祭りも別々に開催している、子ども達の学校区が一つになれば、地域住民同士のつながりができる。
スクールバスの運行について	・各地域のニーズに対応した運行（柔軟な対応）をしてほしい。 ・乗車時間が長時間にならないよう、必要台数の確保や、効率的な運行ルート、運行ダイヤを検討してほしい。	・厚田新設校は、複合・多機能の学校施設として「保育園」が計画されているので、保育園児もスクールバスで通園（送迎）できるようにしてほしい。（旧厚田村時代に、発足保育園、望来保育園が閉園した際、厚田保育園と聚富保育園までの送迎バス（添乗員付き）を運行してくれた。） ・国道231号線の中央バスが減便されている中で、望来～厚田間、発足～厚田間の「地域住民の足（コミュニティ・バス等）」の検討をしてほしい。（※全ての家庭が自家用車を持っているわけではない。） ・中学校の部活動に対応した運行をしてほしい。（土・日曜日、夏・冬休み期間中の運行）	

統合(閉校)される学校の子 ども達への負担軽減の対応 について	・子ども達への精神的不安やストレス、負担を与えないように配慮してほしい。	・統合前に学校間交流を行うなど、スムーズに移行できるよう具体的な配慮、ケアの検討をしてほしい。 ・聚富小の児童が八幡小へ通学(転校)することに決定した場合には、石狩小の児童と同様に、新たな学校づくりに参画できるようにしてほしい。	・スクールバスの通学(乗車)時間が長くならないように、遠回りにならない効率的な運行ルートにしてほしい。そのためにバスの必要台数の精査と確保を行うこと。
校舎の後利用について			・聚富小中の校舎は老朽化しているが、体育館は耐震化されているので、災害時の避難場所も含めた有効活用をしてほしい。
(仮称)厚田 小中学校(厚 田新設校)の 整備について	・厚田新設校は、どのようにつくられ、どんな学校づくりを目指していくのか。	・もし聚富小中の児童生徒が通学しなくなった場合、児童生徒は多くても約 50 人の小規模校となり、現在の推計見込みより更に少なくなるのではないかと。 ・小中一貫教育のカリキュラム、実施にあたっては、先生方の負担増にならないよう、子ども達や保護者が混乱を招かないように十分な準備をしてほしい。(※先生の人数が減るのではないかと心配である。) ・建設工事中の厚田中生徒の学習環境はどうなるのか。工事騒音が心配。 ⇒校舎のゾーニング(レイアウト)について、建築担当課等と現在検討中。 ・保育園から中学校(幼少～15 歳)まで、一つの施設で過ごし成長できるのは魅力の一つである。 ・現在、徒歩通学している厚田小の児童の通学距離が遠くなることを懸念している。(特に別狩地区の児童)また、厚田新設校までの	・巨額の費用(市民の税金)をかけることについて十分留意して、無駄のない学校建設や関連施設(教職員住宅など)の整備をしてほしい。 ・小中一貫にこだわらずに、まずは併置(校)からステップを踏んで段階的に進めてもよいのではないかと。 ・魅力ある学校づくりに向けて、既成概念にとらわれないように取り組んでほしい。縦割り行政で進めるのではなく、市役所内で連携を。(ユニークな発想。H30 年オープン道の駅の具体的な ・道の駅の建設との関連も含め、現在の厚田中の体育館や厚田スポーツセンター(体育館、プール)、消防署、給食センターの各施設の見通しはどのようになるのか。な連携方策の検討。) ・設立準備委員会の構成メンバーは、どのような人を想定しているのか。

		通学路として、国道 231 号線を歩かせるのは危険なので、スクールバス運行などの対応策を検討してほしい。 ・外から子ども達を受け入れる山村留学や、若い世代（若い夫婦、家族）が住むための雇用の場をつくることを検討してほしい。それができれば子どもも急には減らないのではないかな。 ・道の駅という車が溜まる施設の近くに学校を建てることについて、治安・安全上の対策が必要ではないかな。	・厚田区の教職員住宅の整備は急務であり、整備後は先生に住んでもらい地域に溶け込んでほしい。 ・建設位置について、それぞれメリットとデメリットがあるが、地域の力でメリットは更に盛り上げ、デメリットは改善・解決できるよう協力していきたい。
閉校する地域への配慮、振興策について	・閉校に伴い、更に地域の過疎化、衰退が進むことの影響について、対応策（閉校後の地域のビジョン）を示してほしい。		
教育制度、カリキュラム等について		・小中一貫教育、コミュニティ・スクールの良さ、メリットを教えてください。	・コミュニティ・スクールは地域が学校に関わる仕組みのことだと思うが、聚富小中の子ども達が約 20km 離れた厚田新設校に通学させるコミュニティ・スクールはあり得ないと思う。
その他		・国道 231 号線の中央バスが減便されている中、厚田だけでなく八幡・トーメン団地にも影響が出ている。厚田区の中学生の高校への進学率はかなり高いと思うが、帰りのバスに限りがあるために高校での部活動を諦めている人もいるのではないかな。花畔中央までの間で、当別町のような循環バスがあれば、定住人口の減少に歯止めがかかるのではないかな。	・厚田道の駅の建設で一時は活性化されても、定住人口が増えるとは考えにくい。定住対策の取組はどのように進めるのか。将来的に厳しいのではないかな。

(9) 学校整備に関する保護者・地域説明会（平成 28 年 6 月～7 月）

平成 27 年 11 月に取りまとめた「学校整備の具体策（案）」について、多くの保護者や地域の皆さんから、保護者・地域説明会でいただいたご意見やご要望等について報告し、厚田区における学校整備の方向性、スケジュール等について説明した。

- ・ 平成 28 年 6 月 21 日（火） 厚田保健センター（1 階多目的ホール）
- ・ 同 6 月 22 日（水） 望来コミセン（1 階多目的ホール）
- ・ 同 7 月 5 日（火） 聚富会館

[説明会資料]

● 学校整備の具体策（案）について ～厚田区、本町・八幡地区～ ※H27 年 11 月

◆ 厚田区の当初の計画案

- ・ 小学校 3 校（厚田小・望来小・聚富小）
- ・ 中学校 2 校（厚田中・聚富中）

} “1 校に統合”

- ・ 現在の厚田中学校の敷地内に、小中一貫校（義務教育学校）を新設
- ・ 最短で平成 32 年度開校

両地区の中間に位置する、
「聚富小中の児童生徒の通学先」について配慮

◆ 教育委員会会議（平成 28 年度 5 月定例会）での議論

- ・ 住所が「厚田区虹が原」・・・「八幡小学校」「石狩中学校」を通学指定校とする。
- ・ 〃 「厚田区聚富」・・・保護者の申立てにより、上記 2 校への通学を認める。
- ・ 市教委は、八幡小学校、石狩中学校、及び新設校へのスクールバスを運行する。

● 今後のスケジュール（予定）

- | | |
|----------|---|
| 平成 28 年度 | 教育委員会会議において議決
設立準備委員会の開催
(保護者、地域住民、教職員、学識経験者、市教委事務局を想定)
(コミュニティ・スクール、特色ある教育カリキュラムなど) |
| 平成 29 年度 | 新校舎等の基本設計、実施設計 |
| 平成 30 年度 | 新校舎等の建築工事、校名の検討・決定など |
| 平成 31 年度 | 新校舎等の完成、校歌の制作など |
| 平成 32 年度 | (仮称) 厚田小中学校開校（平成 32 年 4 月） |

(10) 厚田区の学校整備の具体策について（教育委員会会議決定：平成 28 年 6 月 30 日）

教育委員会会議（平成 28 年度 6 月定例会）において、次のとおり議決された。

<議案第 1 号>

厚田区の学校整備の具体策について

教育委員会会議（平成 27 年度 11 月定例会）において承認された「学校整備の具体策（案）～厚田区、本町・八幡地区～」について、両地区の保護者・地域等への説明会で寄せられた意見、要望等を十分踏まえ、厚田区の学校整備の具体策を次のとおり定める。

記

- 1 厚田区の 3 小学校（厚田小学校、望来小学校、聚富小学校）及び 2 中学校（厚田中学校、聚富中学校）を統合し、（仮称）厚田小中学校を新設し、小中一貫教育を導入する。
- 2 新設校の位置は、現在の厚田中学校とする。
- 3 新設校は、平成 32 年度に開校する。
- 4 上記 1 の統合に際し、聚富小中学校（併置校）の児童生徒の通学先の取扱いについて、次のとおり定める。
 - ① 「厚田区虹が原」の児童生徒の通学指定校を「現・八幡小学校」及び「石狩中学校」とする。
 - ② 「厚田区聚富」の児童生徒には、保護者の申立てにより、上記 2 校への通学を認める。
 - ③ 市教委は、八幡小学校、石狩中学校、及び新設校へのスクールバスを運行する。

(1 1) (仮称) 厚田小中学校設立準備委員会の設置 (平成 28 年 8 月)

① 設置要項

(仮称) 厚田小中学校設立準備委員会 設置要項

平成 28 年 8 月 3 日決定

平成 28 年 6 月 30 日、教育委員会会議 (平成 28 年度 6 月定例会) において議決された「厚田区の学校整備の具体策について」に基づき、(仮称) 厚田小中学校の設立に向けて必要な事項を検討協議し、同校の円滑な開校に資するため設立準備委員会 (以下「委員会」という。) を設置する。

1 検討協議する事項

- (1) 学校の特色づくりに関すること
- (2) コミュニティ・スクールに関すること
- (3) 教育カリキュラム (小中一貫教育等) に関すること
- (4) 校舎の施設機能に関すること
- (5) 校名や校章、校歌、教育目標等に関すること
- (6) スクールバスの運行や通学路に関すること
- (7) 既存校の閉校に係る支援に関すること
- (8) その他開校に向けて必要な事項に関すること

2 委員会の構成員及び人数

- (1) 保護者 (既存の小中学校及び保育園の P T A 代表者、各 1 名)
- (2) 学校関係者 (既存校の代表者、各 1 名)
- (3) 学校支援推進員 (既存校から各 1 名)
- (4) 厚田区地域協議会の代表者 (1 名)
- (5) 学識経験者 (外部の有識者、1 名)

3 委員会の代表

- (1) 委員会に、委員長 1 名及び副委員長 1 名を置く。
- (2) 委員長及び副委員長は、上記 2 の互選により定める。
- (3) 委員長は、委員会を総括し、会議を進行する。
- (4) 副委員長は、委員長が会議を欠席する場合において、委員長を代理する。

4 委員会の設置期間

上記 1 に係る一連の検討協議が終了するまでの期間とする。

5 庶務

委員会の庶務は、教育委員会生涯学習部総務企画課において処理する。

② 委員名簿

区 分	No.	氏 名	氏名よみ	所属団体・機関・役職等
保護者	1	小笠原 英史	おがさわら えいし	厚田小学校 P T A会長
	2	富樫 大幸	とがし ひろゆき	望来小学校 P T A会長
	3	早坂 伊佐雄	はやさか いさお	厚田中学校 P T A副会長
	4	阿部 保	あべ たもつ	聚富小中学校 P T A会長
	5	本郷 亜希子	ほんごう あきこ	厚田保育園 父母の会会長
学校関係者	6	昇 洋一	のぼり よういち	厚田小学校 教頭
	7	田中 亮	たなか あきら	望来小学校 教頭
	8	三浦 崇史	みうら たかし	厚田中学校 校長
	9	風間 敏明	かざま としあき	聚富小中学校 校長
学校支援 推進員	10	渡邊 教円	わたなべ のりまる	厚田小学校 学校支援推進員
	11	渡部 賢二	わたなべ けんじ	望来小学校 学校支援推進員
	12	小林 晴美	こばやし はるみ	厚田中学校 学校支援推進員
厚田区 地域協議会	13	佐藤 勝彦	さとう かつひこ	厚田区地域協議会 会長
学識経験者	14	前田 賢次	まえだ けんじ	北海道教育大学札幌校准教授（教育方法学）

※平成28年8月26日現在

〔教育委員会事務局〕

生涯学習部 部長	佐々木 隆哉
同 次長（教育指導担当）	松井 卓
同 総務企画課長	安崎 克仁
同 学校教育課長	菅原 崇喜
同 厚田生涯学習課長 （厚田保育園長 併任）	田村 和人
同 総務企画課主幹	松永 実
同 厚田生涯学習課主査	西山 隆之
同 学校教育主事	石黒 隆一

〔オブザーバー〕

会議の内容等に応じて、建設水道部及び保健福祉部、厚田支所等の担当職員が出席する。

〔運営協力者〕

準備委員会委員から「現場の先生の考えを知りたい」という要望があり、運営協力者として、参考意見を述べたり、話し合いの記録をまとめたりする立場で関わっていただくことを第3回会議で事務局から提案し、承認された。

厚田小学校	高橋公平 教諭	
望来小学校	加藤亜弓 教諭	庄司圭佑 教諭
厚田中学校	松原謙二 教頭	中川雄二 事務職員

第5章 （仮称）厚田小中学校設立準備委員会の活動

[平成 28 年度]

（１）第 1 回会議

- ① 日時 平成 28 年 8 月 26 日（金） 18 時 30 分より
- ② 会場 厚田保健センター 1 階多目的ホール
- ③ 会議次第
 - 開会あいさつ
 - 自己紹介（委員、事務局職員）
 - 委員長及び副委員長の選出
 - これまでの経過、趣旨等の説明
 - 今年度の設立準備委員会の取り組みについて
 - 意見交流（学校の特色づくりに係るアイディア等について）
 - その他
- ④ 配布資料（概要）

（仮称）厚田小中学校設立準備委員会 第 1 回会議資料（H28. 8. 26）

● 今年度の設立準備委員会の取り組みについて

- 平成 28 年度（H28. 8 月～H29. 3 月）

「厚田ならではの魅力ある学校づくり」を具現化するために、

「（仮称）厚田小中学校基本構想（学校整備基本計画）」に盛り込む、



“新しい学校の特色”について共有する。

（ソフト・ハードの両面から…）

平成 29 年度に行う「基本・実施設計（業務委託）」の仕様書となる。

- 基本構想（学校整備基本計画）のイメージ（説明）

- 第 2 回会議に向けて（宿題）

・厚田の学校教育の特色について「付箋紙」に具体的に記入する。（⇒ SWOT 分析）

青色の付箋紙（強み）

（ア）厚田区の各学校が持つ“強み”、または学校間連携の“強み”について

（イ）各学校を取り巻く地域（保護者を含む）の“強み”について

赤色の付箋紙（弱み）

（ウ）厚田区の各学校が持つ“弱み”、または学校間連携の“弱み”について

（エ）各学校を取り巻く地域（保護者を含む）の“弱み”について

(2) 設立準備委員会・事務局合同視察

① 平成 28 年 10 月 3 日（月）～ 4 日（火）

② 視察訪問先

中標津町教育委員会事務局（3 日：15 時～17 時）

中標津町立計根別学園（4 日：9 時 20 分～12 時）

③ 視察者

設立準備委員会 委員長	佐藤勝彦
生涯学習部 総務企画課長	安崎克仁
同 総務企画課主幹	松永 実
同 学校教育主事	石黒隆一

④ 視察の内容



9 年間の子供の成長を支える工夫に満ちた校舎



左が教室、右は特別教室、中間が多目的スペース

“ 義務教育学校 ” の先進校、中標津町立計根別学園を視察してきました

（準備委員会だより第 2 号より）

新設される（仮称）厚田小中学校は、小中一貫の「義務教育学校」という新しい種類の学校になります。義務教育学校は、現在全国に 22 校、北海道には、中標津町立計根別学園と斜里町立知床ウトロ学校の 2 校が設置されています。

10 月 3～4 日に、設立準備委員会の佐藤委員長と事務局（市教委職員）で、中標津町教育委員会と計根別学園を視察してきました。

義務教育学校は、小学校と中学校を一つにまとめた学校で、9 年間を見通して教育目標を設定し、教育課程を編成します。独自教科の設定や学年間での指導内容の入れ替えも可能です。

計根別学園は、中標津町西部にあった計根別小学校、計根別中学校、西竹小学校を統合して、平成 27 年に開校し、本年 4 月より学校教育法の改正によって設置が可能になった義務教育学校になりました。開校と同時に校舎を全面改築しています。

広々とした校舎では、136 人の子供達が元気に学んでいます。1 年生から 4 年生、5 年生から 7 年生、8 年生・9 年生の三つに区切り、それぞれ「学びや生活の基礎となる力を身につける期間」「学びを追及し、人間関係を結ぶ力をつける期間」「学びを伸ばし、自分の生き方を追求する力をつける期間」としています。この区切りによって、「中 1 ギャップ」といわれる様々な問題に対応でき、各段階で役割を担わせることで子供達の責任感やリーダーシップを高めているそうです。また、毎日の掃除など縦割りの活動を行うことで、学年を超えた仲間意識を育

てているそうです。

中学校の先生が、5・6年生の理科、社会、体育の授業や、算数のTTに入ったり、1年生から9年生の音楽を専門の先生が指導したりするなど、様々な形で先生たちが子供達と関わることで、9年間を見通した教育の効果が高まっています。

校舎には、義務教育学校の特色を生かす工夫が随所に見られました。南側に普通教室と特別支援教室、北側に特別支援教室や図書館が配置されています。中央には、多目的スペースがあり、子供達の様々な活動が可能になっています。

また、新設校でも導入する「コミュニティ・スクール」として、地域と結びついた教育が進められています。地域の住民や中標津農業高校と連携した『計根別食育教育』は「地域を知って地域を愛し、地域に貢献する子供の育成」に重要な役割を果たしていました。

学校の仕組み、具体的な運営、校舎の工夫、地域との連携など、(仮称)厚田小中学校の開設に向けて、大変参考になる有意義な視察でした。

(3) 第2回会議

① 日時 平成28年10月7日(金) 18時30分より

② 会場 厚田保健センター 1階多目的ホール

③ 会議の内容

ワークショップ SWOT分析「厚田の地域と学校の強みと弱み」



14名の委員がワークショップ形式で、厚田区の各学校や各地域が持っている「強み」と「弱み」を洗い出して、よりよい学校づくりの提案をまとめました。

「学校と保護者・地域の強い絆」「米作り、漁業体験など第一次産業が学べる」「ふるさと学習」「地域文化の伝承（厚田音頭、獅子舞など）」「小中一貫なので、9 年間を見通した教育ができる」このよさを生かすために、「今までの各学校の行事や特色を整理継続する」「地域行事を体験」「地域文化の伝承」「各地域の良さを体験して学ぶ」ことなどが提案されました。

「学校区が広い」「学校までの遠距離」「冬の通学が大変」「少年団・部活試合の送迎が大変」「先生の人数が少ないので、忙しそう」こうした弱点を克服するために、「スクールバス運行の工夫」「小中の先生方の連携」「中学校の先生が小学校TTに入る」などが提案されました。

「素直」「仲がいい」「生き生きしている」「挨拶がよくできている」「誠実」「先輩後輩のつながりが強い」「学年を超えた学び合い」「中学生が小学生を指導、良い手本」などの強みの部分と、「(少人数のため)人間関係が固定」「集団での経験が少ない」「切磋琢磨の機会が少ない」「多様なグループ分けが難しい」「部活の選択肢がない」「競争心が育たない」などの弱みの部分が指摘されました。

[illegible]

Bグループのまとめ



Cグループのまとめ



(4) 子どもアンケートの実施（平成 28 年 10 月）

「みんなで考えよう 厚田の新しい学校」をテーマに、厚田区的全児童生徒 95 名から 449 項目の回答（子どもたちからの声）が寄せられ、内容ごとに 33 種類に分類整理した。

さらに、第 3 回準備委員会のワークショップで、分類整理した内容に対して、準備委員によるコメントを整理し、基本計画案に反映させることとした。

下表右の質問項目は次の通り。

1. こんな学校にしたい。こんな学校ができたらし。 (例: こんな行事が・・・、こんな学習が・・・、こんな活動が・・・できる学校)
2. そのために、どんな校舎ができればいいと思いますか。
3. 厚田の人たちは、新しい学校が厚田の未来づくりに役立ってほしいと願っています。そのために、新しい学校またはあなたにできることを考えてください。

《 子どもアンケート 》

みんなで考えよう厚田の新しい学校

() 小学校 (5) 年 名前 ()

今から 3 年後の平成 32 年に、厚田の学校は一つにまとまり、小学校と中学校が一つになった 9 年間の新しい学校に生まれ変わります。

今、新しい学校をつくるために、お父さん、お母さん、地域の方々、先生方が話し合いをしています。すばらしい学校をスタートさせるために、新しい学校づくりの主人公・児童生徒の皆さんから、意見を大募集します。

1. こんな学校にしたい。こんな学校ができたらし。

(例: こんな行事が・・・、こんな学習が・・・、こんな活動が・・・できる学校)

・全校みんなで遊ぶことができる学校

・そうじもちが学年同士でそうじする、うたがでる学校

・みんなでサツマイモを食べる。

・みんなでおとまり会を学校でしてみたい。

2. そのために、どんな校舎ができればいいと思いますか。

・体育館が大きい。

3. 厚田の人たちは、新しい学校が厚田の未来づくりに役立ってほしいと願っています。そのために、新しい学校またはあなたにできることを考えてください。

・全校仲が良く楽しい学校にしたいです。

・たくさんの考えを書いてください。書ききれなければ、先生から 2 枚目をもらってください。

・卒業などで新しい学校に行かない皆さんは、厚田に学校ができることを応援して意見を書いてください。

No.	内 容	学校	学年	質 問
1. こんな学校にしたい。こんな学校になったらうれしい。 楽しく、明るく、やさしい、いじめがない、元気なあいさつなどができる学校。 (→今後、目指す子ども像、教育目標などの資料にしたい) (準備委員会のコメント) ・各校の教育目標や子ども像の良さを残しつつ、新たな目標を作りあげていく。				
1	たのしいがっこうがいいです。	厚田小	1 年	1
2	明るいクラスになりそうな学校	厚田小	4 年	1
3	とても明るい学校(私たちが)	厚田小	4 年	1
4	楽しい学校。	望来小	2 年	1

5	明るい学校。	望来小	2 年	1
6	明るい学校にしたい	厚田中	1 年	1
7	生徒が毎日通いたくなる学校	厚田中	1 年	1
8	楽しい学校	厚田中	3 年	1
9	生徒たちが生き生きと過ごせる学校	厚田中	3 年	1
10	みんなで楽しく活動できる学校	聚富中	1 年	1
12	楽しい学校	聚富小	6 年	2
13	みんなが明るく楽しい学校	厚田中	1 年	2
14	全校仲が良く楽しい学校にしたいです。	聚富小	5 年	3
15	楽しい学校になるようにがんばって下さい!!	聚富小	6 年	3
16	やさしいがっこうがいいです。	厚田小	1 年	1
17	やさしいがっこう	厚田小	1 年	1
18	みんなやさしい学校	厚田小	2 年	1
19	だれでもしんせつにする	厚田小	4 年	3
20	この学校に行きたいと思えるような学校	厚田中	2 年	3
21	げんきがあるがっこう	厚田小	1 年	1
22	せんせいのはなしをきけるがっこうがいい。	厚田小	1 年	1
23	はなしをよくきくがっこう	厚田小	1 年	1
24	仲良しな学校	厚田中	3 年	1
25	人数が多くても仲が良い学校	厚田中	3 年	1
26	けんかをしないようにする	厚田小	4 年	3
27	いじめのないがっこう	厚田小	1 年	1
28	いじめがない小学校にしたいです。	厚田小	2 年	1
29	いじめのない学校がいいいな。	厚田小	2 年	1
30	いじめの無い学校	厚田中	1 年	1
31	人をいじめない。	厚田小	3 年	3
32	なかまはずれにしない。	厚田小	3 年	3
33	人をいじめないようにする。	厚田小	3 年	3
34	けんかをしないようにする	厚田小	3 年	3
35	いじめをみたらすぐにとめる	厚田小	4 年	3
36	もしいじめがあつたらなくすこと	厚田小	5 年	3
37	いじめなどをおこさないようにする。	聚富小	5 年	3
38	かしこいがっこう	厚田小	1 年	1
39	他の学校の人に自慢できるような学校	厚田中	1 年	1
40	しせいをよくするがっこうにしたいです。	厚田小	1 年	1
41	しせいをよくするがっこう	厚田小	1 年	1
42	たくさんおしゃべりをする学校にしたい！	厚田小	3 年	1

43	楽しくあそびができたらうれしい！	厚田小	3 年	1
44	にぎやかで楽しい学校にしたい。いじめがない学校になったらうれしい。	厚田小	3 年	1
45	いつもは先生が他の教室の様子を見に行っているけれど、私たちも見に行けたらいい。そこでいいと思ったところや直したほうがいいところを自分たちでも話し合えたらいいと思う。(全校学級会など。)	望来小	5 年	1
46	友だち100人にできる学校	聚富小	4 年	1
47	あいさつを大きい声でできる学校	厚田中	1 年	1
48	だれにでも大きな声であいさつができる学校	厚田中	1 年	1
49	大きな声であいさつ、返事、発表ができるように意識する。	望来小	5 年	3
50	大きな声で発表できたり、挨拶できる学校。	望来小	5 年	3
51	私たちの目線でたくさん意見を出す	厚田中	2 年	3
52	たくさんの意見を出すこと	厚田中	3 年	3
53	積極的に意見を出す	厚田中	3 年	3
54	キレイな学校	厚田中	3 年	1
55	掃除を毎日してきれいな学校	聚富小	6 年	2
56	その学校の良いところがなくならないようにしてほしい。	厚田中	2 年	3
57	学校を大切につかう。	聚富中	1 年	3
58	校舎を大切に使う。	聚富中	2 年	3
59	学校を大切に使う。	聚富中	2 年	3
60	ゴミがあつたらひろってゴミばこにいれる。	厚田小	3 年	3
61	そうじ	厚田小	5 年	3
62	短い間で残せるものは残す	厚田中	3 年	3

2. 小学生と中学生が仲良く一緒に活動できる学校にしたい。 (学習、行事、地域活動、児童生徒会、縦割り活動)

63	小学生と中学生が一緒に教室で勉強ができる学校。	望来小	5 年	1
64	中学生と小学生が行う行事を沢山にした方がいいです。	聚富小	6 年	1
65	小学生も、中学生も、みんなで運動会や文化祭や、そうじをしたらいいと思いました。	聚富小	6 年	1
66	小学校と中学校が一つになるので、小学生と中学生の地域の活動を行ったらいい。	厚田中	1 年	1
67	小中合同で交流が深まるように授業を少しだけでも一緒にやる	厚田中	2 年	1
68	小中の絆が深まるような協力して行える活動	厚田中	3 年	1
69	小学生と中学生が一緒に教室で勉強できる教室があつたらいい。	望来小	5 年	2
70	小学生も中学生もいるので、大きくて、みんながふれあえる広場を作つたらいいと思います。	聚富小	6 年	2
71	小中同じになるので、いろんな人と仲よくなれる。	厚田小	4 年	3
72	全部の学年が集まるときをたくさんつくってほしい。	厚田小	3 年	1
73	全校生徒がかかわる活動	厚田中	1 年	1
74	みんなできよりよくしあうこうしゃになってほしい。	厚田小	3 年	2
75	みんな仲良く、明るい学校	厚田中	1 年	2

76	全校集会	厚田小	4 年	1
77	行事→毎日そうじをすることがいい。	聚富小	5 年	1
78	そうじもちがう学年同士でする掃除ができる学校	聚富小	5 年	1
79	給食の後のそうじ(小・中一緒)	聚富小	6 年	1
80	小・中全校そうじ	聚富小	6 年	1
81	そうじは小中全員でしたほうがいいです。	聚富小	6 年	1
82	そうじを小中でできる学校。	聚富小	6 年	1
83	仲よくなれる学校にしたい！	厚田小	3 年	1
84	きょうりょくしあう学校にしたい。	厚田小	3 年	1
85	仲よくできる学校	厚田小	5 年	1
86	他のクラスや学年の様子が見えるように、窓やガラスを多く作る。	望来小	5 年	2

3. 自然、文化、産業など「厚田ならではのよさ」を生かした学習をしたい。

(準備委員会のコメント)

・発達段階に応じて(一次産業)地域と連帯する。

87	厚田らしさを取り入れる	厚田中	1 年	2
88	厚田を宣伝する。	聚富小	6 年	3
89	厚田のいいところを他の人に知ってもらえるような活動をしたらいいと思う	厚田中	1 年	3
90	授業に厚田の文化の勉強を取り入れて	厚田中	1 年	3
91	地域との活動や地域に役立つことをしてほしい。	厚田中	1 年	3
92	校舎ができる前から地域おこしや地の地域に役立つことをする	厚田中	1 年	3
93	中学校だけでなく、地域の行事に使う。	厚田中	2 年	3
94	厚田を PR する。	聚富中	2 年	3
95	自然とふれ合うこと	聚富中	3 年	3
96	自然を使用した学習	聚富中	3 年	1
97	木があってほしい	厚田小	6 年	2
98	森や畑が近くにある	聚富中	3 年	2
99	地域の産業を体験させてほしい。	望来小	4 年	3
100	生徒がどんどん卒業して厚田の力になってくれたらを思います。	厚田中	3 年	3

4. 地域と一体化した活動、地域を一つにまとめる役に立つ活動をしたい。

(準備委員会のコメント)

・祭りを開催する。

101	地域と一体化している学校	厚田中	1 年	1
105	地域の行事をたくさん行える	厚田中	2 年	1
106	地域の人たち(幼児も大人、老人も)来やすい学校	厚田中	2 年	1
107	聚富、望来、厚田の人達みんなが、厚田区民としての気持ち一つにできる学校。	厚田中	2 年	1

108	地域の方々と協力できるような行事	厚田中	3 年	1
109	一つの公共の場になってほしい	厚田中	1 年	3
110	ただでさえ少ない厚田区民がバラバラにならないよう、常に聚富、望来の人達のことも考える。みんな仲良く!!	厚田中	2 年	3
5. 厚田に移住する人や山村留学する子どもを受け入れる魅力ある学校づくりをしたい。				
(準備委員会のコメント) ・ぜひ実現してほしい。				
111	厚田区以外からも越境して通ってくる人がいるといい。そのためには、山村留学などを受け入れるようにするとよい。	厚田中	2 年	1
112	地方からも移住したいと思えるような魅力のある学校	厚田中	2 年	3
6. みんな仲良くわかりやすく勉強ができる学校にしてほしい。				
(準備委員会のコメント) ・教師の質の向上				
113	べんきょうがなかよくできるがっこうがいいです。	厚田小	1 年	1
114	集中してべんきょうをする学校にしたい！	厚田小	3 年	1
115	今と変わらない勉強	厚田小	6 年	1
116	学習→わからない問題をわかりやすく学習したい。	聚富小	5 年	1
7. フィールドワーク、社会見学や講師をお願いした学習をしてみたい。				
116	フィールドワーク	厚田小	4 年	1
117	社会見学(社会見学は大人になったときにやくだちそうだから、会社のしごとのやりかた)	厚田小	4 年	1
118	人を呼ぶ(講師)	厚田小	6 年	3
8. 新しい学校ではこんな行事で楽しみたい。 (何を残し、どのように整理するかは今後の検討課題)				
119	今まで通り、運動会や学芸会があるといいです。	厚田小	4 年	1
120	行事を1年に6回以上にしてほしい(みよし園訪問、外5回)	厚田小	6 年	1
121	もっと楽しい行事を増やしてほしい	厚田小	6 年	1
122	冬の行事で全校で雪合戦をやりたい。	望来小	3 年	1
123	砂の造形や雪像づくり、	望来小	4 年	1
124	さっぽろオリエンテーニング	聚富小	5 年	1
125	スタンプラリー	聚富小	5 年	1
126	やま(えんそく)	聚富小	5 年	1
127	遠足	聚富小	6 年	1
128	森林浴	聚富小	6 年	1
129	聚富小中のようなたくさんの行事ができる学校。	聚富小	6 年	1

130	すもう大会	聚富小	6 年	1
131	雪像づくり	厚田中	2 年	1
132	運動会、文化祭、体育会、学芸会	厚田中	2 年	1
133	年間でたくさんの行事がある学校	厚田中	3 年	1
134	体育祭がある	聚富中	2 年	1
135	運動会などはみんなが協力してかちまけをきめるしょうぶで、かってもまけても、これよかったねとかいって、交流がふかまるから	厚田小	4 年	3
136	行事に参加してほしい。(地域の人に)	望来小	4 年	3
137	おまつり	聚富小	5 年	3
138	学校行事をやる。	聚富中	1 年	3

9. 米作り体験や畑作体験ができ、収穫を祝ってみんなで料理を食べる活動をしたい。

(準備委員会のコメント)

・地域人材や学校農園を活用する。

139	田うえ	厚田小	4 年	1
140	田植え体験や、稲刈り体験ができる学校。	望来小	4 年	1
141	稲刈り	厚田中	1 年	1
142	田んぼとかを体験させてほしい。	望来小	3 年	3
143	畑活動をできる学校。	聚富小	6 年	1
144	畑活動	聚富小	6 年	1
145	畑	厚田中	1 年	1
146	畑作業	厚田中	3 年	1
147	広い畑	厚田小	3 年	2
148	畑を作る	厚田中	3 年	2
149	のう業の活動をする。(田うえ・畑)	聚富小	4 年	1
150	収穫祭がある学校。	望来小	4 年	1
151	しゅうかくさい	聚富小	5 年	1
152	畑、収かくを祝う会	聚富小	6 年	1
153	今よりもっと野さいなどを作ってぎょうじなどで食べてもらいたい。	厚田小	3 年	1
154	いろいろな料理が作れる学校。	望来小	5 年	1
155	もちつき	聚富小	4 年	1
156	きせつのしゅんの食べ物を使つてりょう理を作る行事	聚富小	4 年	1
157	みんなでサツマイモを食べる。	聚富小	5 年	1
158	大根ぬき大会	聚富小	6 年	1
159	さつまいも焼き	聚富小	6 年	1

10. 海の近くの学校なので、漁業についても勉強したい。

(準備委員会のコメント) ・漁師さんによる講義依頼(魚をさばく、食べる)				
160	漁師さんのところに見学に行きたいです。	厚田小	4 年	1
161	体験学習をしたい。(じっさいにりょうしさんのところについて、魚のとりかたを教えてもらって魚をとってみたい。	厚田小	4 年	1
162	海に関係する行事をたくさんしたい。	望来小	5 年	1
163	魚のかいたいショー	聚富小	4 年	1
164	つりができる学校	聚富小	4 年	1
165	わくわく魚釣り	聚富小	6 年	1
11. 図書館でたくさんの本を読める学校になればいいな。				
(準備委員会のコメント) ・あいかな図書館を移転し、校舎内に設置してください。				
166	ほんが 100000 こあるがっこう	厚田小	1 年	1
167	ほんがいっぱいあるがっこうがいいです。	厚田小	1 年	1
168	ほんがいっぱいあるがっこう	厚田小	1 年	1
169	本がいっぱいある学校	厚田小	2 年	1
170	とても本がたくさんある学校。	望来小	2 年	1
171	本がたくさんある学校。	望来小	2 年	1
172	朝読書の時間をふやしてほしい	厚田小	5 年	1
173	としよしつがあるがっこうがいい	厚田小	1 年	1
174	図書かんか図書室ができてほしい	厚田小	2 年	1
175	図書かんか図書室と本がある	厚田小	2 年	1
176	広いとしよ室	聚富小	6 年	2
12. パソコンやタブレットを使っているいろんなことを勉強したい。				
(準備委員会のコメント) ・Wi-Fi 環境 ・予算をつける!!				
177	パソコンの学習ができたらうれしい。	厚田小	3 年	1
178	パソコンの学習をたくさんできたらうれしい!	厚田小	3 年	1
179	パソコンを使った学習	厚田小	5 年	1
180	パソコンを1人1台つける。	厚田小	6 年	1
181	タブレットが使える。	聚富小	4 年	1
182	タブレットを使う学習がある。	聚富小	4 年	1
183	パソコンがいっぱいある	厚田中	1 年	2

13. 地域清掃や福祉施設訪問、ボランティア活動で、地域の人によろこんでほしい。				
(準備委員会のコメント) ・続けましょう。				
184	行事を1年に6回以上にしてほしい(清掃2回、校舎外4回、他1回、)	厚田小	6年	1
185	活動→クリーン作戦などやくに立つ活動。	聚富小	5年	1
186	海浜清掃をする学校	厚田中	1年	1
187	そうじ(ちいせいそう)をする	厚田小	4年	3
188	ちいせいそうをして、ちいきのひとによろこんでほしい。	厚田小	4年	3
189	地域清掃	厚田小	5年	3
190	みよし園訪問を続ける	厚田中	3年	3
191	ボランティア活動	厚田中	3年	3
14. パートナースクールを続け、他の学校と交流したい。				
(準備委員会のコメント) ・今後も続けてほしいです。				
192	他の学校との交流もつづけていきたい。	厚田小	4年	1
15. 学校でお泊り会や宿泊学習をしてみたい。				
(吹雪など、荒天時の安全対策施設や訓練の意味もある)				
(準備委員会のコメント) ・防災教育 ・サマースクール				
193	みんなでお泊り会を学校でしてみたい。	聚富小	5年	1
194	学校宿泊学習	厚田中	2年	1
195	みなが集まって遊べるような部屋がある校舎	厚田中	3年	2
16. 新しくできる道の駅でできることはないかを、これから考えてみたい。				
(準備委員会のコメント) ・作ったものを売る。 ・子ども達の展示スペース。				
196	道の駅と連携している学校	厚田中	3年	1
197	道の駅で野菜や魚を売る	聚富中	3年	3
198	自分たちで作ったさくもつを売る。	厚田小	5年	3
199	作った物をうる	厚田小	5年	3
200	何かを売る委員会	聚富小	6年	1
17. 国際交流で、世界のこともっと知りたい。				

(準備委員会のコメント) ・英語で外国人観光客に厚田をPR。				
201	ジャイカ	厚田中	2年	1
202	JICA	厚田中	3年	1
18. 今までどおり、温かい給食を食べたい。				
(準備委員会のコメント) ・その通りです。保育園も続けて一緒に給食を食べられるようにしてください。				
203	温かい給食が食べられる学校	厚田中	3年	1
19. 冬はやっぱりスキーをやりたい。				
(準備委員会のコメント) ・スクールバスを活用				
204	スキーをやりたい。	望来小	3年	1
205	スキー学習がある学校。	望来小	4年	
206	スキー	聚富小	6年	1
207	スキー	聚富小	6年	1
20. 新しい学校で、どんなクラブや部活動ができるか楽しみだけど、ちょっと心配。 (クラブ、部活動の枠組みも重要な課題)				
(準備委員会のコメント) ・今ある部活動を継承。				
208	新しい学校になったら、人数もふえるから、クラブや部活をふやしてほしいです。	厚田小	4年	1
209	サッカーがあるがっこう	厚田小	1年	1
210	バレーや、やきゅう、テニスなどのクラブができればいい。	厚田小	4年	1
211	バスケ部、ダンス部を作ってほしい。	厚田小	5年	1
212	野球ができる学校	厚田小	5年	1
213	野球とかをやれるところを	厚田小	5年	1
214	いろんなことができる学校(いろんな部活動)	厚田小	6年	1
215	クラブ活動のある学校	聚富小	4年	1
216	サイクリングの学習	聚富小	4年	1
217	野球部のコンテナみたいなのを新しいのに	厚田中	3年	1
21. 生き物が大好き、新しい学校でどんなことができるかな。				
(準備委員会のコメント) ・動物の飼育(いけす、にわとり等)				
218	いきものがあるがっこうがいい	厚田小	1年	1

219	どうぶつをかう	聚富小	5 年	1
220	むしが100ひきいる。	厚田小	1 年	1
221	虫がいっぱいの学校	厚田小	2 年	1
222	虫がおおいとうれしいな。	厚田小	2 年	1
223	とかげのぜんしゅるいしょうがっこう	厚田小	1 年	1
22. 休み時間、何ができるか今から楽しみ。 ----- (準備委員会のコメント) ・様々な学年と交流 ・休み時間のズレはノーチャイムで(小・中)				
224	中休みとひる休みをながくしてたらいいな。	厚田小	2 年	1
23. こんな校舎ができたらうれしいな。 (① 校舎全般: 広さ、大きさ、きれいさ、特徴など) ----- (準備委員会のコメント) ・冬場あたたかい校舎に。				
225	ひろいがっこうがいい	厚田小	1 年	1
226	ひろいがっこうがいいです。	厚田小	1 年	1
227	ひろい学校	厚田小	2 年	1
228	ひろくて 5 かいだての学校がいいな。	厚田小	2 年	1
229	今の学校よりも、もっと広くしてたくさん教室を作ってほしい。	厚田小	3 年	1
230	今の学校よりひろい学校だったらうれしい！	厚田小	3 年	1
231	大きい学校。	望来小	1 年	1
232	全体が広い学校。	望来小	2 年	1
233	広いこうしゃ	厚田小	3 年	2
234	大きい校舎	厚田小	5 年	2
235	大きい校舎	厚田小	5 年	2
236	大きい校舎	厚田小	5 年	2
237	広い校舎	厚田小	5 年	2
238	大きい学校ができればいい	厚田小	5 年	2
239	大きい校舎	厚田小	6 年	2
240	大きいカッコイイ学校！	厚田小	6 年	2
241	大きくて目立つ学校。	聚富小	4 年	2
242	大きな校舎	聚富小	6 年	2
243	広い校舎	聚富小	6 年	2
244	広くて過ごしやすい	厚田中	3 年	2
245	きれいで広い校舎	聚富中	2 年	2
246	ひろいがっこう。	厚田小	1 年	1

247	大きな学校。	望来小	2 年	1
248	大きな学校。	望来小	4 年	2
249	学校がしんぴんだとうれしいな。	厚田小	2 年	1
250	かべのいろがこいめの白がいい。	厚田小	4 年	1
251	ぴかぴかの学校。	望来小	1 年	1
252	きれいな学校。	望来小	2 年	1
253	ピカピカな学校。	望来小	2 年	1
254	きれいな学校	厚田小	4 年	2
255	きれいな校舎	厚田中	1 年	2
256	広くて明るい、開放感のある校舎	厚田中	2 年	2
257	きれいな校舎	厚田中	3 年	2
258	常に明るくなれるような学校	厚田中	3 年	2
259	きれいにつかう	厚田小	6 年	3
260	2 階にもトイレがある	厚田中	3 年	1
261	近未来的な学校になったらうれしい	厚田中	1 年	1
262	清潔なトイレ	厚田中	3 年	1
263	めだつ校舎←色とか形とか大きさ	厚田小	5 年	2
264	ただでさえ寒くて風の強い地域なので、見た目温かみのあるデザインにしてほしい(木造とかかわいらしい、田舎らしいなど)	厚田中	2 年	2
265	おくじょうに行けるようにしてほしい。(写生)	厚田小	6 年	1
266	おくじょうをつける	厚田小	6 年	1
267	景色を見ることができる展望台	厚田小	6 年	1
268	おく上に行けるようにしてほしい(図工など)	厚田小	6 年	1
269	屋上にいけるように、3 階だての校舎にしてほしい。(理科)	厚田小	6 年	2
270	おくじょうがほしいです。	聚富小	5 年	2
271	プラネタリウム	厚田小	6 年	1
272	LED(グラウンド、校舎など)	厚田小	6 年	2
273	ソーラーパネルを屋根につけたい	厚田中	1 年	2
274	色がついている(カラフル)な学校。	望来小	2 年	1
275	5 かいのがっこうがいい	厚田小	1 年	1
276	きれいな学校	厚田小	6 年	1
277	水飲み場がたくさんある学校。	望来小	2 年	1
278	窓がたくさんある学校。	望来小	2 年	1
279	玄関が自動ドア	厚田中	3 年	1
280	全員が使いやすい学校	厚田中	3 年	1
281	チャイムが鳴る	厚田中	3 年	1
282	タイルではない床	厚田中	3 年	1

283	静かな学校	聚富中	2 年	1
284	仲よくできるこうしゃができてほしい！	厚田小	3 年	2
285	ろうかが明るい学校	厚田小	4 年	2
286	3かいだての学校	聚富小	4 年	2
287	きちんと、自分のできる仕事がある校舎がいい。	聚富小	5 年	2
288	2 かい建てにして、白を多くした方がいいと思います。	聚富小	6 年	2
289	中学、小学、校舎別々にする(体育館も)	厚田中	1 年	2
290	そこを作る	厚田中	1 年	2
291	グラウンドは南面、校舎はその北側が最良です。(建て替えたときに反対にせざるを得ないことがよくありますが・・・。)	厚田中	2 年	2
292	同じ廊下を通れるようにする。	厚田中	2 年	2
293	床がタイルじゃない学校	厚田中	3 年	2
294	みんなが使いやすい校舎	厚田中	3 年	2
295	3 階建て	厚田中	3 年	2
296	しっかりした校舎。	聚富中	1 年	2
297	たいしん工事。	聚富中	1 年	2
298	手と手をつなぐマークのある校舎	厚田中	1 年	2

24. こんな校舎ができたらうれしいな。

(② 普通教室・特別教室)

(準備委員会のコメント)

- ・特別教室の充実
- ・フリースペース
- ・ハイセンスな校舎

299	きょう室がひろいとうれしいな。	厚田小	2 年	1
300	教室を大きくする	厚田小	6 年	1
301	教室が広い学校	厚田小	4 年	2
302	広い教室	聚富小	6 年	2
303	広い教室	聚富小	6 年	2
304	いすや机がたくさんある学校。	望来小	2 年	1
305	黒板が上下に動く。	聚富小	4 年	2
306	黒ばんなどが、上下になる学校	聚富小	4 年	3
307	たくさんのことをするために教室が多い学校	厚田小	4 年	2
308	家庭科室がないので、立派な家庭科室がほしい。	望来小	5 年	2
309	放送のスピーカーの音量を上げ下げをリモコン。	聚富小	4 年	2
310	美術室	厚田中	2 年	2
311	音楽室のスピーカーを新しく	厚田中	3 年	2
312	放送室を新しく	厚田中	3 年	2

313	きょうしつが500 めいとるがいい。	厚田小	1 年	1
25. こんな校舎ができたうれしいな。 (③ 快適さの工夫)				
(準備委員会のコメント) ・冷暖房・水洗トイレ(ウォシュレット)・お湯・防災(宿泊できる部屋)				
314	あったかいがっこう	厚田小	1 年	1
315	あったかいがっこう	厚田小	1 年	1
316	冬でも暖かい学校	厚田小	6 年	1
317	ろうかにヒーターつけてほしい	厚田小	6 年	1
318	虫のいない、きせつにあわせた気温の学校。	聚富小	4 年	1
319	ろうかにストーブをつけてほしい	厚田中	2 年	1
320	廊下が暖房	厚田中	3 年	1
321	防寒対策がしっかりされた学校	厚田中	3 年	1
322	ストーブを安全に	厚田中	3 年	1
323	だんぼうを付ける	厚田小	6 年	2
324	ヒーターがついてもいい校舎にする	厚田小	6 年	2
325	寒さ、暑さ対策をしている校舎	厚田中	1 年	2
326	ろうかにストーブのついている校舎	厚田中	2 年	2
327	ストーブがろうかにある	厚田中	3 年	2
328	どんな季節にも対応できる教室、校内	厚田中	3 年	2
329	廊下にもストーブ	厚田中	3 年	2
330	床暖	厚田中	3 年	2
331	ストーブを安全に	厚田中	3 年	2
332	クーラーなどがある学校	聚富小	4 年	1
333	エアコンがついている校舎	厚田小	6 年	2
334	エアコンがついてる。	聚富小	4 年	2
335	教室にエアコンをつける	厚田小	6 年	3
336	きれいなトイレ	厚田中	3 年	2
337	水だけでなくお湯も出るようにする。	厚田小	6 年	2
338	ウォシュレット付きのトイレがいい	厚田中	1 年	2
339	ウォシュレットと音ひめ付きのトイレがいい	厚田中	1 年	2
340	便座が常に温かい	厚田中	3 年	2
341	あまもりがしない	厚田中	2 年	2
342	あまり虫が出なくてきれいな学校	聚富中	1 年	2
343	虫が少ない校舎	聚富中	2 年	2
344	エアコン	厚田小	6 年	1

26. こんな校舎ができたらうれしいな。 (④ バリアフリーの工夫)				
(準備委員会のコメント) ・ぜひ実行してほしい。				
345	障害がある人も使いやすいようにバリアフリーに。	厚田中	2 年	1
346	バリアフリーの設備がしっかりしている	厚田中	3 年	2
347	バリアフリーの校舎	厚田中	3 年	2
348	どんな人でも使いやすい	厚田中	3 年	1
349	エレベーターがある学校	聚富小	4 年	1
350	エレベーター	厚田小	6 年	1
351	エレベーターがついている学校。	望来小	1 年	1
352	エレベーターがついている学校。	望来小	2 年	1
353	エスカレーターがほしい(ケガ)	厚田小	6 年	2
354	エレベーター、エスカレーターがある学校。	望来小	4 年	2
355	便利(エレベーター)な学校	聚富小	6 年	2
27. こんな校舎ができたらうれしいな。 (⑤ プールが楽しみ)				
356	ぶーる	厚田小	1 年	1
357	プールができたらい	厚田小	1 年	1
358	プールがあるしょうがっこう。	厚田小	1 年	1
359	プールがある学校	厚田小	2 年	1
360	プールがある学校	厚田小	2 年	1
361	プールがすぐそこにあったらうれしいな。	厚田小	2 年	1
362	プールのできる学校	厚田小	5 年	1
363	プール	厚田小	6 年	1
364	大きいプールがほしい。	望来小	1 年	1
365	プールがついている学校。	望来小	4 年	1
366	プール学習	望来小	4 年	1
367	プール学習	聚富小	6 年	1
368	プール学習	厚田中	2 年	1
369	きれいな学校。学校にプール。	聚富中	1 年	1
370	学校の横に、プールがあつたらいい。	望来小	5 年	2
371	プールとおふろもある学校。	聚富小	4 年	2
372	プールがある。	聚富小	4 年	2
373	外にプール	聚富小	4 年	2
374	プールのある学校	聚富小	4 年	2

375	プール	厚田中	2 年	2
28. こんな校舎ができたうれしいな。 (⑥ 体育館やグラウンドなどの工夫)				
(準備委員会のコメント) ・サブ体育館に利用できるフリースペースを設置。				
376	たいいくかんが 100 きろあるたいいくかん	厚田小	1 年	1
377	たいいくかんが 1000m のしょうがっこう。	厚田小	1 年	1
378	体育館がひろい学校	厚田小	2 年	1
379	たいいくかんが 1000m	厚田小	2 年	1
380	たいいくかんがひろいといいな。	厚田小	2 年	1
381	体育館の広い学校。	望来小	2 年	1
382	体育館が広い学校	厚田小	4 年	2
383	体育館が広い学校	厚田小	4 年	2
384	体育館が大きい	厚田小	5 年	2
385	体育館を広く、バレーコートをつたつ	厚田小	6 年	2
386	広くする(体育館、ろう下、教室)	厚田小	6 年	2
387	体育館を大きくする	厚田小	6 年	2
388	体育館が大きい。	聚富小	5 年	2
389	体育×2	厚田中	2 年	2
390	体育館広く	厚田中	3 年	2
391	すべらない体育館	聚富中	2 年	2
392	すべらない体育館	聚富中	2 年	2
393	体育館を広くする	厚田小	6 年	3
394	ぐらんどが 100m あるがっこうがいい	厚田小	1 年	1
395	外に野球場があったらうれしいな。	厚田小	2 年	1
396	グラウンドに大きいライトをつくって夜でも何かをできる	厚田小	6 年	1
397	グラウンドが広い学校。	望来小	2 年	1
398	広いグラウンド	厚田小	3 年	2
399	水はけがいい	厚田小	6 年	2
400	グラウンドに大きいライト	厚田小	6 年	2
401	広いグラウンド	聚富小	6 年	2
402	大きなグラウンド	厚田中	2 年	2
403	人数がふえると休み時間などに・体育館やグラウンドで遊ぶ人が多くなって、場所がなくなってしまから、できるだけ大きい体育館とグラウンドを作してほしい	厚田小	3 年	1
404	やきゅうじょうやバレーの体育館テニスじょうができたいい。	厚田小	4 年	2
405	バスケットのゴールがひくい。	聚富小	4 年	2

406	バッティングがあるがっこうがある	厚田小	1 年	1
407	テニスじょうがあるがっこう	厚田小	1 年	1
408	うんどうがいっぱいあるがっこう	厚田小	1 年	1
409	サッカーがあるがっこう	厚田小	1 年	1
410	野きゅうじょうがある学校	厚田小	2 年	1

29. こんな校舎ができたらうれしいな。

(⑦ 遊具の工夫)

(準備委員会のコメント)

- ・公園を施設に!!
- ・ボルダリング・・・?
- ・芝のグラウンド
- ・様々な種類の遊具を!! (生活科や体力づくり)

411	グラウンドにやまがあつたりすべりだいがあつたらいいです。	聚富小	2 年	1
412	ゆうぐをいっぱいつける(ブランコなど)	厚田小	6 年	1
413	竹馬や一輪車がたくさんある学校。	望来小	2 年	1
414	遊具がたくさんある学校。	望来小	2 年	1
415	ゆうぐがいっぱいな学校	聚富小	2 年	1
416	ちかくに公園がある学校	聚富小	2 年	1
417	あたらしい学校でおにごっこをしたいです。	聚富小	2 年	1
418	全校みんなで遊ぶことができる学校	聚富小	5 年	1
419	グラウンドにたくさんの遊具があつてほしい。	望来小	3 年	2
420	グラウンドにたくさんの遊具がある学校。	望来小	4 年	2
421	二かい立て	聚富小	4 年	2
422	ジャングルジム・ブランコ・うんていがある	聚富小	4 年	2
423	グラウンドにすべりだいがほしいです。	聚富小	5 年	2
424	おばけやしきがあるがっこう	厚田小	1 年	1

30. こんな校舎ができたらうれしいな。

(⑧ 周囲の環境など)

(準備委員会のコメント)

- ・校地内に田んぼ、畑。

425	近くに大きな公園。	望来小	1 年	1
426	公園がついている学校。	望来小	2 年	1
427	学校から海まで行きやすい道を造ってほしい。	望来小	5 年	2

31. こんな校舎ができたらうれしいな。

(⑨ 防災対応など)

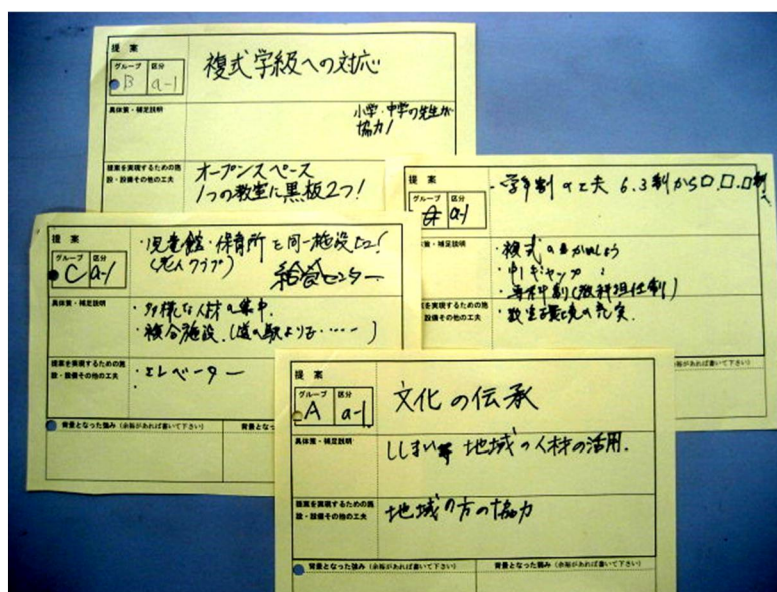
(準備委員会のコメント) ・避難施設と共用の校舎				
428	災害のための設備がしっかりしている	厚田中	3 年	2
32. 広い学校校区、バスのことも考えてください。				
429	交通の便がいい学校	聚富中	3 年	1
430	バス停の近く	聚富中	3 年	2
431	厚田までのバスの存続	聚富中	3 年	2
33. そのほかの意見、応援の声もありがとう。				
432	もう少し人数が多い学校にしたい。	聚富中	2 年	1
433	このままでいい。	聚富中	2 年	2
434	ぼきん	聚富小	4 年	3
435	ぼ金。	聚富小	4 年	3
436	ほきん	聚富小	4 年	3
437	募金すること	厚田中	1 年	3
438	こう売	聚富小	6 年	1
439	リサイクル活動	聚富小	6 年	3
440	ノートとかを学校で買うことができる学校	聚富小	6 年	1
441	中学生になった実感がほしい	厚田中	1 年	1
442	あつた小学校の見学をする。	厚田小	4 年	3
443	戦争がない	厚田小	5 年	3
444	応えんしています。	聚富小	6 年	3
445	応援しています。	聚富小	6 年	3
446	楽しくなるように応援しています。	聚富小	6 年	3
447	ぼくは、卒業していて厚田の学校には行けないけど、厚田の未来のためにがんばってください。	聚富小	6 年	3
448	運動会応援しに行く	厚田中	1 年	3
449	手伝いをする(行事などの)	厚田中	1 年	3

(5) 第3回会議

- ① 日時 平成28年 11月10日(木) 18時30分より
- ② 会場 厚田保健センター 1階多目的ホール
- ③ 会議の内容

ワークショップ 「各グループによる実効策の検討」

- ・第2回会議で出されたよりよい学校づくりの提案(各学校や各地域が持っている「強み」と「弱み」)を基に「提案カード」を作成し、それぞれのカードについて、効果や着手容易性(実現性)を評価する作業を行った。



↑新しい学校づくりの提案 ～各グループからの提案カード(一部抜粋)～

●ワークショップ「新しい学校づくりの提案」 ～各グループからの提案カード～

Aグループ(佐藤委員長 早坂委員 本郷委員 昇委員 渡部委員)

提 案		農業・漁業体験
A	区分 a-1	
具体策・補足説明		地域人材の活用
提案を実現するための施設・設備その他の工夫		地域の方の協力

提 案		文化の伝承
A	区分 a－1	
具体策・補足説明		獅子舞等 地域人材の活用
提案を実現するための施設・設備その他の工夫		地域の方の協力

提 案		地域教育力の活用
A	区分 a－1	
具体策・補足説明		コミュニティ・クール
提案を実現するための施設・設備その他の工夫		地域の方の協力 地域の方へ詳しい説明が必要（パイプ役の方がいるとよい）

提 案		小中教員の交流
A	区分 a－1	
具体策・補足説明		高学年の一部 教科担任制に
提案を実現するための施設・設備その他の工夫		職員室は一つに 専門教員の確保

提 案		I C T教育
A	区分 a－1	
具体策・補足説明		情報教育の充実
提案を実現するための施設・設備その他の工夫		タブレット（一人 1台が望ましい）

提 案		保育園の整備	
A	区分 a-1		
具体策・補足説明		幼・小・中・一貫の校舎に	
提案を実現するための施設・設備その他の工夫			
背景となった強み		背景となった弱み	
		厚田保育所の建物が古くなってきているので	

提 案		スクールバス運行の工夫	
A	区分 a-1		
具体策・補足説明		時間割にあわせた運行 (部活、少年団、登下校)	
提案を実現するための施設・設備その他の工夫			
背景となった強み		背景となった弱み	
		保護者の負担が大きい。	

提 案		学童保育	
A	区分 a-2		
具体策・補足説明		学校の教室の一部を利用できるとよい。	
提案を実現するための施設・設備その他の工夫		スペースと人材の確保	

Bグループ

(前田副委員長 富樫委員 阿部委員 三浦委員 渡邊委員)

提 案 B 区分 a - 1	作る・売る 体験学習
具体策・補足説明	
提案を実現するための施設・設備その他の工夫	作る、育てる、売る学習をカリキュラムに入れる。 田、畑を作る。

提 案 B 区分 a - 1	作る、食べる学習
具体策・補足説明	
提案を実現するための施設・設備その他の工夫	調理室、お湯が出る、使える!!

提 案 B 区分 a - 1	複式学級への対応
具体策・補足説明	小学・中学の先生が協力！
提案を実現するための施設・設備その他の工夫	オープンスペース 一つの教室の黒板2つ！

提 案 B 区分 a - 1	バスの運行
具体策・補足説明	
提案を実現するための施設・設備その他の工夫	・コミュニティバス（スクールバス）

提 案		地域とのつながり	
B	区分 a-1		
具体策・補足説明			
提案を実現するための施設・設備その他の工夫		・学校と図書館（けんぶちみたいに）が同じ建物 ・地域の人が使える多目的スペース	
背景となった強み		背景となった弱み	
今やっていることを発展させればできる。			

Cグループ

（風間委員 小笠原委員 田中委員 小林委員）

提 案		児童館・保育所を同一施設に！ （老人クラブ） 給食センター	
C	区分 a-1		
具体策・補足説明		・多様な人材の集中 ・複合施設（道の駅よりも・・・）	
提案を実現するための施設・設備その他の工夫		・エレベーター	

提 案		（冬期間）の安全対策	
C	区分 a-1		
具体策・補足説明		・メール配信 ・防災教育・訓練	
提案を実現するための施設・設備その他の工夫		・バス ・メール ・I P電話 ・非難できる施設に！ ・防災無線 ⇄ 学校（双方向） ・学校が避難所に	

提 案		職員の住宅環境整備
C	区分	
具体策・補足説明		
提案を実現するための施設・設備その他の工夫		・区内に住んでもらえるような集合住宅等

提 案		学年割の工夫 6・3制から□・□・□制へ
C	区分 a－1	
具体策・補足説明		
提案を実現するための施設・設備その他の工夫		

提 案		多様な学習指導、共通な学習指導を進める
C	区分 a－1	
具体策・補足説明		
提案を実現するための施設・設備その他の工夫		・少人数指導 ・縦割り指導の充実 ・フリースペース ・各種特別教室 ・オープンスペース

提 案		パートナースクールの継続
C	区分 a－1	
具体策・補足説明		・都市部の中大規模校と
提案を実現するための施設・設備その他の工夫		

提 案		各学校の行事や特色の継続
C	区分 a－1	
具体策・補足説明		・各種行事 ・S A T ・地域人材
提案を実現するための施設・設備その他の工夫		・自然環境 ・人材 ・地域の結びつき

提 案		地域再編（学校を中心とした新しい地域コミュニティ作り）
C	区分 a－1	
具体策・補足説明		・五つの地域の自治会を利用して ・定期的な情報発信 ・運営協議会の充実（コミュニティ・スクール）
提案を実現するための施設・設備その他の工夫		・集会場 ・地域の集う場

提 案		柔軟なスクールバスの運行
C	区分 a－1	
具体策・補足説明		・地域の利用も ・部活動や少年団に合わせて ・行事に合わせて
提案を実現するための施設・設備その他の工夫		・多様な運行 ・バスの増便

● 学校からの提案（カード）

各学校から提出いただいた「新設統合校に引き継ぎたい教育活動」について、「学校からの提案（カード）」として、次のようにまとめた。

学校からの提案 区分 a - 1	（新設統合校に引き継ぎたい教育活動） 少人数や義務教育学校の特性を生かした学習指導
具体策・補足説明	・ 個に寄り添ったきめ細かな指導 ・ 習熟度に対応した複数指導体制 ・ 中学校教員による小学校授業の乗り入れ ・ 小中共通を原則に発達段階にも配慮した学習規律の統一 ・ 小中共通した学習スタイル ・ 朝学習、放課後学習を活用した基礎・基本の反復 ・ 授業と連動し、発達段階に配慮した家庭学習のさせ方
提案を実現するための施設・設備その他の工夫	・ 統合する前にあらかじめ、4校で情報交換を行い、統一できる内容は早い段階から統一した取組を進める。 ・ 習熟度別学習に対応できるスペースや机・いすの確保
現在取り組んでいる教育活動	・ 個に寄り添ったきめ細かな指導（厚田小） ・ 少人数であっても、習熟度に対応した複数体制維持（厚田小） ・ 朝学習、放課後学習を活用した基礎・基本の反復（厚田小） ・ 授業と家庭学習の一体化（厚田小） ・ 発達段階を踏まえた全学級における学習規律等の統一（厚田小） 対象校での確認に基づく1～2年前からの徹底 ・ 中学校の先生方の小学校の授業の乗り入れ（聚富小中） ・ 小中合同の研修や授業研究 ・ 家庭学習のさせかた（聚富小中） ・ 小中共通の学習規律（聚富小中） ・ 小中共通した学習スタイル（聚富小中）

学校からの提案 区分 a - 1	(新設統合校に引き継ぎたい教育活動) 「厚田ならではの」体力向上の取組
具体策・補足説明	・ 日常的に体を動かすための環境整備の充実、芝のフィールド整備・活用 ・ 日常的な体力づくりと目的意識を持たせる工夫（目標カード、記録カード、発表交流会など） ・ スキー学習の継続 ・ 武道種目の検討
提案を実現するための施設・設備その他の工夫	・ 旧厚田スキー場の活用 ・ 中学校の武道については、今後の調整が必要 ・ 厚田中現グラウンドの芝の整備
現在取り組んでいる教育活動	・ 日常的に体を動かすための環境整備の充実（厚田小） ・ スキー学習（厚田小） ・ 業間体育（なわとび、マラソン、一輪車等）目標カード、記録カード、発表交流会（望来小） ・ 芝のフィールドでの体育・運動会…ケガが少ない（聚富小中） ・ 中学校体育の武道は相撲：横綱 吉葉山の出身地なので 聚富中も相撲（聚富小中） ・ スキー学習：体力向上とウィンタースポーツに親しむという観点から継続したい（厚田中）

学校からの提案 区分 a - 1	(新設統合校に引き継ぎたい教育活動) 「厚田ならではの」部活動のあり方の検討
具体策・補足説明	・ 児童生徒、保護者の希望をていねいに調査すること ・ 文科系の部活動のあり方も検討する
提案を実現するための施設・設備その他の工夫	
現在取り組んでいる教育活動	・ 少人数でもチームが組める部活動（聚富小中） ・ 中体連壮行会：部活動を通して、心身ともに健康で、自主自立の精神を身につけようとする児童生徒の育成のため継続したい（厚田中）

学校からの提案 区分 a - 1	(新設統合校に引き継ぎたい教育活動) 農園活動・農業体験等を生かした、 「厚田ならではの」食育
具体策・補足説明	・米作り ・畑作 ・漁師出前授業 ・収穫祭
提案を実現するための施設・設備その他の工夫	・各学校でこれまで地域の協力をいただき、田や畑を借りていた。継続する場合は、旧校区のバランスに配慮することが必要。
現在取り組んでいる教育活動	・農業体験・漁師出前授業等地域の特色ある産業の体験活動（厚田小） ・教科と体験活動を結び付けた教科横断的な教育実践（厚田小） ・すくすく園活動：畑作（じゃがいも、ニンジン、玉ねぎ等の栽培）（望来小） ・稲作活動：稲作（地域の協力によるお米作り）田植え、稲刈り（望来小） ・収穫祭：地域・保護者を招き、畑作・稲作で収穫した食材をもとにカレーライスを作り、一緒に会食（望来小） ・農園活動（野菜・米）（聚富小中）

学校からの提案 区分 a - 1	(新設統合校に引き継ぎたい教育活動) 地域の自然・歴史・文化を生かした、 「厚田ならではの」教育活動
具体策・補足説明	・伝統文化の伝承は、児童生徒の郷土愛を涵養する上で重要。 ・具体的な活動として何を引き継ぐかは、継続検討事項。
提案を実現するための施設・設備その他の工夫	・コミュニティ・スクールの学校運営協議会の機能的な組織作り
現在取り組んでいる教育活動	・地域や社会教育との密接な関係（厚田小） ・砂の造形活動望来中央海水浴場にてグループに1基制作（望来小） ・雪像づくりグラウンドにグループで1基制作（望来小） ・地域の自然や人材を生かした体験学習（聚富小中） ・望来獅子舞：望来地区に伝わる伝統芸能。望来獅子舞保存会の方々に外部講師として来校指導していただき伝承していきたい（厚田中）

学校からの提案 区分 a - 1	(新設統合校に引き継ぎたい教育活動) 縦割り活動や児童生徒会の連携による異学年交流
具体策・補足説明	・縦割り清掃による日常的な異学年交流 ・運動会、学芸会（学校祭）等の学校行事における縦割り活動
提案を実現するための施設・設備その他の工夫	
現在取り組んでいる教育活動	・異学年交流：縦割り清掃を中心とする活動（厚田小） ・小学生、中学生合同の縦割り班活動（聚富小中） ・児童生徒会活動（聚富小中）

学校からの提案 区分 a - 1	(新設統合校に引き継ぎたい教育活動) 豊かな心を育てる世代間交流、福祉教育、他校との交流
具体策・補足説明	・老人福祉施設との交流や奉仕活動 ・手話講座 ・保育実習 ・パートナースクールの継続
提案を実現するための施設・設備その他の工夫	・保育園が併設された場合には、重要な取組となる。
現在取り組んでいる教育活動	・パートナースクール：(市街地校との交流学习) 望来中央海水浴場にて双葉小学校4年生と交流活動（砂の造形活動と同日）（望来小） ・みよし園訪問：ボランティア活動の一環として、また、敬老の精神から思いやりの精神を育む上でぜひ継続して行いたい。（厚田中）（厚田小、聚富小中でも同内容の取組） ・保育実習：家庭科授業の一環として継続して実施したい。保育施設が併設されるなら非常に便利。（厚田中） ・手話講座：石狩市の手話条例に則り、小中連携して継続して行いたい。（厚田中）

学校からの提案 区分 a - 1	(新設統合校に引き継ぎたい教育活動)
	地域の学校としての奉仕活動
具体策・補足説明	・ 合同の地域清掃、対象地域は要検討。
提案を実現するための施設・設備その他の工夫	
現在取り組んでいる教育活動	・ 校舎内外の清掃活動（厚田小）（聚富小中も同内容の取組） ・ 校舎内外の清掃活動：環境美化活動、奉仕活動として、教室や廊下等清掃や校舎外清掃、校舎周辺の美化活動を実施（望来小） ・ 合同地域清掃（厚田海浜プール清掃）：ボランティア活動の一環として、小中合同で地域貢献活動としてぜひ継続して行いたい。（厚田中）

学校からの提案 区分 a - 1	(新設統合校に引き継ぎたい教育活動)
	少人数の特色を生かしたきめ細かな特別支援教育
現在取り組んでいる教育活動	・ 個に応じたきめ細かな指導体制・支援計画・相談体制（連絡調整ツール）の整備（厚田小）

学校からの提案 区分 a - 1	(新設統合校に引き継ぎたい教育活動)
	学校支援推進委員との連携
現在取り組んでいる教育活動	・ 学校行事への積極的な参加、学校運営への助言、学校評価への意見（厚田小）

学校からの提案 区分 a - 1	(新設統合校に引き継ぎたい教育活動)
	夏・冬休みの学習を発表する会（表現活動）
現在取り組んでいる教育活動	・ 地域・保護者の招き、長期休業中に制作した作品を発表（望来小）

学校からの提案 区分 a－1	(新設統合校に引き継ぎたい教育活動)
	朝読書
現在取り組んでいる教育活動	・毎日登校後、10分間読書。読書記録カード、感想発表会等（望来小）

学校からの提案 区分 a－1	(新設統合校に引き継ぎたい教育活動)
	小中合同の学校行事やPTA行事
補足説明	・小中合同の学校行事やPTA行事（聚富小中） ・「合同運動会」は、望来小・聚富小を加えた中での合同実施となるし、「文化祭」は、小学校の学芸会の開催時期の調整が必要だが合同で実施したい。「卒業式」についても、小中で日程を調整しながら実施しなければならない。（厚田中）

学校からの提案 区分 a－1	(新設統合校に引き継ぎたい教育活動)
	職業体験学習
現在取り組んでいる教育活動	・キャリア教育の観点からぜひ継続して行いたい。（厚田中）

学校からの提案 区分 a－1	(新設統合校に引き継ぎたい教育活動)
	国際理解教育
現在取り組んでいる教育活動	・JICA職員の派遣等の協力が得られるかどうかにもよるが、長く続けてきた経緯もあり、現段階では継続したい方向で考えている。（厚田中）

学校からの提案 区分 a－1	(新設統合校に引き継ぎたい教育活動)
	合格祈願もちつき集会
現在取り組んでいる教育活動	・小学生にも参加してもらい、将来の進路に対する意識の昂揚につなげたい。（厚田中）（餅つきは、現在4校すべてで実施中）

(6) 第4回会議

- ① 日時 平成29年1月18日(水) 18時30分より
- ② 会場 厚田保健センター 1階多目的ホール
- ③ 会議の内容

第3回会議での「実効策検討シート」による全体協議で明らかになった、優先順位の高い取り組みに配慮して、事務局が取りまとめた「(仮称)厚田小中学校整備基本計画の原案」について検討協議を行った。

(7) 第5回会議

- ① 日時 平成29年2月23日(木) 18時30分より
- ② 会場 厚田保健センター 1階多目的ホール
- ③ 会議の内容

第4回会議で出された意見等を踏まえ、「(仮称)厚田小中学校整備基本計画の原案」について修正協議を行った。(各委員からの了承を得て、準備委員会案として決定。)

(8) 設立準備委員会だより

現在発行済みの第1号から第4号を掲載した。

第1号 (仮称) 厚田小中学校 設立準備委員会だより

発行 委員会事務局 (石狩市教育委員会総務企画課)

このたよりでは、厚田区の統合新設校（小中一貫校）の平成32年度の開校に向けて、設立準備委員会で検討している内容や教育委員会、学校、PTAなどの動きを中心にお伝えします。

第1回の会議を開催しました

8月26日（金）に、下表の14名の方々を委員として、第1回の会議が厚田保健センターで開催されました。教育委員会が開催にあたっての挨拶をした後、委員長に厚田区地域協議会会長の佐藤勝彦さん、副委員長に北海道教育大学札幌校准教授の前田賢次さんを選出しました。



このような事柄を協議していきます

この委員会では、厚田の長年にわたる教育活動の歴史や伝統の中で培われた、それぞれの学校と地域との深い結びつき、小中それぞれの学校間の結びつき、小中学校の9年間を見通した結びつきも生かし、これからの新しい時代にふさわしい「**厚田ならではの魅力ある学校づくり**」を実現するために、次のような事柄を検討していきます。

- 学校の特色づくりに関すること
- コミュニティ・スクールに関すること
- 教育カリキュラム（小中一貫教育等）に関すること
- 校舎の施設機能に関すること
- 校名や校章、校歌、教育目標等に関すること
- スクールバスの運行や通学路に関すること
- 既存校の閉校に係る支援に関すること 等

委員の皆さん

(敬称略)

保護者代表	
小笠原英史	厚田小学校PTA会長
富樫大幸	望来小学校PTA会長
早坂伊佐雄	厚田中学校PTA副会長
阿部 保	聚富小中学校PTA会長
本郷亜希子	厚田保育園父母の会会長
学校関係者代表	
昇 洋一	厚田小学校教頭
田中 亮	望来小学校教頭
三浦崇史	厚田中学校校長
風間敏明	聚富小中学校校長
学校支援推進員代表	
渡邊教円	厚田小学校学校支援推進員
渡部賢二	望来小学校学校支援推進員
小林晴美	厚田中学校学校支援推進員
地域代表	
佐藤勝彦	厚田区地域協議会会長
学識経験者	
前田賢次	北海道教育大学札幌校准教授 (教育方法学)



絵 大黒 利満
元厚田中教諭

子どもたちの意見も大切にします

この委員会では、委員の皆さんからのご意見やアイデアを生かしやすくするために、ワークショップ形式で進めることとしました。

また、アンケートを実施して、子ども達の希望も取り上げることも決まりました。

このほか、子ども達の活動を支えるために、スクールバスの運行のあり方が非常に重要であるというご意見があり、効果的な運行方法を重点として検討することが確認されました。

♪ あらためてのお知らせです・・・。

「厚田区の学校整備の具体策」

保護者・地域説明会で寄せられた意見、要望等を十分踏まえ、去る6月30日開催の石狩市教育委員会会議（平成28年度6月定例会）において次のとおり決定されました。

記

- 1 厚田区の3小学校（厚田小学校、望来小学校、聚富小学校）及び2中学校（厚田中学校、聚富中学校）を統合し、（仮称）厚田小中学校を新設し、小中一貫教育を導入する。
- 2 新設校の位置は、現在の厚田中学校とする。
- 3 新設校は、平成32年度に開校する。
- 4 上記1の統合に際し、聚富小中学校（併置校）の児童生徒の通学先の取扱いについて、次のとおり定める。
 - ①「厚田区虹が原」の児童生徒の通学指定校を「現・八幡小学校」及び「石狩中学校」とする。
 - ②「厚田区聚富」の児童生徒には、保護者の申立てにより、上記2校への通学を認める。
 - ③市教委は、八幡小学校、石狩中学校、及び新設校へのスクールバスを運行する。

新設校の特徴は・・・

これまで開催してきた保護者・地域説明会では、次のような点を検討する方針であることをお知らせしています。

- ① 小中一貫校（施設一体型）
義務教育9年間の系統性、学びの連続性に配慮した教育
- ② ICT教育、英語教育、環境教育の充実
- ③ 「道の駅（H30年オープン予定）」と連携した、ふるさと学習、キャリア教育
- ④ 厚田モデルの「コミュニティ・スクール」
- ⑤ 複合・多機能の学校施設
（保育園、図書館、防災など）

今後、この委員会の中でこれらの実現に向け、より具体的な内容や手法等について検討、共有していくこととしています。

また、この委員会は開かれた議論によって、より良い学校づくりをめざします。

第2回の会議日程が、次のように決定いたしましたので、多くの皆様の傍聴をお待ちしています。

第2回会議

日時 10月7日（金） 18時30分より
会場 厚田保健センター

【発行】

（仮称）厚田小中学校設立準備委員会事務局
（石狩市教育委員会 総務企画課内）
電話 72-3169 / FAX 75-2276
E-mail soumu-k@city.ishikari.hokkaido.jp

このほか、石狩市のホームページでも、学校設立準備委員会の情報をお知らせしていきます。

第2号 (仮称) 厚田小中学校 設立準備委員会だより

発行 委員会事務局 (石狩市教育委員会総務企画課)

このたよりでは、厚田区の統合新設校(小中一貫の義務教育学校)の平成32年度の開校に向けて、設立準備委員会で検討している内容や教育委員会、学校、PTAなどの動きを中心にお伝えします。

“厚田ならではの”魅力ある学校 について考えました

10月7日(金)、第2回会議が厚田保健センターで開催されました。

14名の委員がワークショップ形式で、厚田区の各学校や各地域が持っている「強み」と「弱み」を洗い出して、よりよい学校づくりの提案をまとめました。

●「強み」としては・・・

「学校と保護者・地域の強い絆」「米作り、漁業体験など第一次産業が学べる」「ふるさと学習」「地域文化の伝承(厚田音頭、獅子舞など)」「小中一貫なので、9年間を見通した教育ができる」

このよさを生かすために、「今までの各学校の行事や特色を整理継続する」「地域行事を体験」「地域文化の伝承」「各地域の良さを体験して学ぶ」ことなどが提案されました。

●「弱み」として・・・

「学校区が広い」「学校までの遠距離」「冬の通学が大変」「少年団・部活試合の送迎が大変」「先生の人数が少ないので、忙しそう」

こうした弱点を克服するために、「スクールバス運行の工夫」「小中の先生方の連携」「中学校の先生が小学校TTに入る」などが提案されました。

● 子供達については「素直」「仲がいい」「生き生きしている」「挨拶がよくできている」「誠実」「先輩後輩のつながりが強い」「学年を超えた学び合い」「中学生が小学生を指導、良い手本」などの強みの部分と、「(少人数のため)人間関係が固定」「集団での経験が少ない」「切磋琢磨の機会が少ない」「多様なグループ分けが難しい」「部活



↑ グループごとにまとめた提案を交流しました

の選択肢がない」「競争心が育たない」などの弱みの部分が指摘されました。

これらを踏まえ「全校一緒の活動。縦割りの工夫。6・3制から□・□・□制へという学年割りの工夫。」などが提案されました。

第3回の会議では、今回提案された事柄を具体化するための方策を検討することについて、佐藤委員長から提案されました。

※ワークショップの具体的な内容は、ホームページでご覧いただけます。

「子どもアンケート」を実施します

新しい学校づくりの主人公、厚田区の子供達からの意見も、学校を通して大募集します。

「こんな学校にしたい。こんな学校ができたらうれしい。(例：こんな行事が、こんな学習が、こんな活動ができる学校)」

「そのために、どんな校舎ができればいいか」



「新しい学校が厚田の未来づくりに役立つために、新しい学校またはあなた



にできることは」

“義務教育学校”の先進校、 けねべつがくえん 中標津町立計根別学園を視察してきました

新設される（仮称）厚田小中学校は、小中一貫の「義務教育学校」という新しい種類の学校になります。義務教育学校は、現在全国に22校、北海道には、中標津町立計根別学園と斜里町立知床ウトロ学校の2校が設置されています。

10月3～4日に、設立準備委員会の佐藤委員長と事務局（市教委職員）で、中標津町教育委員会と計根別学園を視察してきました。

義務教育学校は、小学校と中学校を一つにまとめた学校で、9年間を見通した教育目標を設定し、教育課程を編成しています。独自教科の設定や学年間での指導内容の入れ替えも可能です。

計根別学園は、中標津町西部にあった計根別小学校、計根別中学校、西竹小学校を統合して、平成27年に開校し、本年4月より学校教育法の改正によって設置が可能になった義務教育学校になりました。開校と同時に校舎を全面改築しています。



↑ 9年間の子供の成長を支える工夫に満ちた校舎

広々とした校舎では、136人の子供達が元気に学んでいます。1年生から4年生、5年生から7年生、8・9年生の三つに段階を区切り、それぞれ「学びや生活の基礎となる力を身につける期間」「学びを追求し、人間関係を結ぶ力をつける期間」「学びを伸ばし、自分の生き方を追求する力をつける期間」としています。また子ども達には、これらの各段階に応じた役割を担わせることで責任感やリーダーシップを高めさせるとともに、毎日の掃除など縦割りの活動を行うことで、学年を超えた仲間意識を育てているそうです。この区切りを活用し、「中1ギャップ」といわれる様々な問題の克服に取り組んでいます。



↑ 左が教室、右は特別教室、中間が多目的スペース

また、中学校の先生が、5・6年生の理科、社会、体育の授業や、算数のTTに入ったり、1年生から9年生の音楽を専門の先生が指導したりするなど、様々な形で先生方が子供達と関わり、9年間を見通した教育の効果が高まっています。

校舎には、義務教育学校の特色を生かす工夫が随所に見られました。南側に普通教室と特別支援教室、北側に特別教室や図書館が配置されています。中央には、多目的スペースがあり、子供達の様々な活動が可能になっています。

このほか、新設校でも導入する「コミュニティ・スクール」として、地域と強く結びついた教育が進められています。地域の住民や近接する中標津農業高校と連携した『計根別食育教育』は、「地域を知って地域を愛し、地域に貢献する子供の育成」に重要な役割を果たしていることがわかりました。

学校の仕組み、具体的な運営、校舎の工夫、地域との連携など、（仮称）厚田小中学校の開校に向けて、大変参考になる有意義な視察でした。

第3回会議

傍聴をお待ちしています。

日時 11月10日（木） 18時30分より
会場 厚田保健センター

【発行】

（仮称）厚田小中学校設立準備委員会事務局

（石狩市教育委員会 総務企画課内）

電話 72-3169 / FAX 75-2276

E-mail soumu-k@city.ishikari.hokkaido.jp

このほか、石狩市のホームページでも、学校設立準備委員会の情報をお知らせしていきます。

第3号 (仮称) 厚田小中学校 設立準備委員会だより

発行 委員会事務局（石狩市教育委員会総務企画課）

このたよりでは、厚田区の統合新設校（小中一貫の義務教育学校）の平成32年度の開校に向けて、設立準備委員会で検討している内容や教育委員会、学校、PTAなどの動きを中心にお伝えします。

地域、子どもたち、学校・・・ それぞれが“新しい学校”づくりを提案

11月10日(木)、第3回会議が厚田保健センターで開催されました。

第2回会議(ワークショップ)で明らかにした、厚田の地域や学校の強みと弱みを元に、地域を代表する学校設立準備委員会の取り組みとして、新しい学校づくりの提案をまとめました。

また、厚田区の小・中学生全員95名を対象に実施した子どもアンケートでは、全部で449件の意見が出され、内容ごとに分類整理したうえで検討し、「33の子どもたちからの提案」という形に整理しました。



↑ グループごとに提案を整理しました

このほか、各学校からも「新しい学校に引き継ぎたい教育活動」を提案していただきました。

このように、設立準備委員会の提案、子どもアンケートからの提案、学校からの提案の3つを整理して、年度内に「(仮称) 厚田小中学校 学校整備基本計画」を取りまとめる予定です。

この便りでは、3つの提案から、ポイントとなる内容を取り上げてご紹介します。

(これらの全ては、石狩市教育委員会ホームページでご覧いただけます。)



↑ 提案内容を大きく映し出して説明しました

● どんな学校にしたいか（理想像は・・・）

子どもアンケートでは「楽しく、明るく、やさしい、いじめがない、元気なあいさつなどができる学校」「自然、文化、産業など厚田の良さを生かした学習をしたい」「聚富、望来、厚田の人達みんなが厚田区民として気持ちを一つにできる学校」といった意見がありました。準備委員会や学校からは「地域の方の協力をいただき、自然環境の活用や文化の伝承など、厚田ならではの良さを生かす」という提案がありました。これまでの伝統をふまえて、厚田の良さを生かし、地域をまとめることができる学校にしたいという希望が、大人と子どもに共通していることがわかりました。

● 小中一貫の義務教育学校への期待

子どもアンケートでは「小学生と中学生が、学習、行事、地域活動、児童生徒会、縦割り活動などで、仲良く一緒に活動できる学校にしたい」という意見が多数出されました。聚富小中学校の子ども達からは、小中併置校の経験を元に「縦割りの小中全校掃除をしたほうがいい」など具体的な提案がありました。準備委員会や学校からは「複式学級に対応するために、小中学校の先生が協力し、小学校高学年から教科担任制を導入しよう」「学年割を6・3制から□・□・□制（区切りは

今後継続して検討)にして、小中の連携をスムーズに行おう」という提案がありました。

● 新しい学校の学習や行事は・・・

子どもたちからは、「みんな仲良く、わかりやすく勉強ができる学校にしてほしい」という希望がありました。学校からは「少人数や義務教育学校の特性を生かした学習指導」という提案がありました。また、子どもと大人に共通して「米作り体験や畑作体験、収穫を祝う行事」「地域清掃や福祉施設訪問、ボランティア活動」などを続けたいという提案がありました。子どものアンケートの中には「地域清掃や福祉施設訪問、ボランティア活動で、地域の人に喜んでほしい」という意見もありました。

校舎やバス運行に関する希望について

● 暖かくて快適な学校に

子どもたちからは、「冬場暖かい校舎に」という意見が17件寄せられ、厳しい自然環境に対応できる快適な学校を考えることが大切であると再認識しました。校舎については、バリアフリーや多様に使えるフリースペースについての意見も出されました。また、子どもたちから「たくさんの本を読む学校に」という意見があり、これを受けて準備委員会から「あいかぜ図書館を移転し、校舎内に設置してください」という具体的な提案がありました。

● 地域の中の学校として

準備委員会からは「保育園を整備して、幼小中一貫の校舎に」という希望が出されました。また、「放課後児童クラブ(学童保育)の設置」についても希望がありました。

● 柔軟で安全なスクールバス運行の希望

校区が広大になることから、スクールバスの運行は、当初から準備委員会の重要な課題でした。今回も様々な声が寄せられ、市教委としてもその重要性を認識し、関係部署と調整した上で年内に準備委員に見解を示すことを伝えました。

● 佐藤委員長から

子どもアンケートを読んで、子どもたちが純粋な気持ちで考えてくれていることがわかりました。「厚田にこんな学校があつてよかったな」と、子どもたちの心に一生残るような学校を、この委員

会では作ろうとしています。子どもたちの夢を実現するために、難しいという後ろ向きな姿勢ではなく、工夫して何とか実現しようという前向きな姿勢を持って、具体的な計画を作っていきたいと思います。

各学校から運営協力の先生が参加

新しい学校づくりに向けた準備委員会の取組について、各学校の先生たちはとても注目しています。傍聴に続けて参加してくれている先生もいます。委員から「現場の先生の考えも知りたい」という話があったことを受け、参考意見を述べたり、話し合いの記録をまとめたりする立場で関わっていただくことを事務局から提案し、承認されました。第3回の会議には、厚田小学校から高橋公平先生、望来小学校から加藤亜弓先生、厚田中学校から事務職員の中川雄二さんが参加してくれました。子どもアンケートの具体的なニュアンスを伝えるなど、準備委員会の話し合いを充実させてくれました。

“義務教育学校”って、どんな学校？

平成27年の学校教育法の改正で定められた新しい種類の学校。

学校は、義務教育9年間を通した教育目標や教育課程を編成し、独自教科の設定や学年間での指導内容の入れ替えも可能。卒業は1回。

学校長は一人で、一つの学校組織として運営。

前期課程の6年は小学校、後期課程の3年は中学校設置基準を準用して、学級編成と教職員定数を定める。(教頭や養護教諭等は各2名)

現在、全国で22校。道内では、中標津町立計根別学園、斜里町立知床ウトロ学校の2校。複式の義務教育学校は全国で3校。

第4回会議

傍聴をお待ちしています。

日時 1月18日(水) 18時30分より
会場 厚田保健センター

【発行】

(仮称) 厚田小中学校設立準備委員会事務局

(石狩市教育委員会 総務企画課内)

電話 72-3169 / FAX 75-2276

E-mail soumu-k@city.ishikari.hokkaido.jp

第4号 (仮称) 厚田小中学校 設立準備委員会だより

発行 委員会事務局 (石狩市教育委員会総務企画課)

このたよりでは、厚田区の統合新設校(義務教育学校)の平成32年度の開校に向けて、設立準備委員会で検討している内容や教育委員会、学校、PTAなどの動きを中心にお伝えします。

学校整備基本計画の原案を検討しました

1月18日(水)、第4回会議が厚田保健センターで開催されました。第2・3回会議のワークショップで委員の皆さんから提案された内容を事務局で取りまとめた、「(仮称)厚田小中学校整備基本計画の原案」について検討しました。各委員からいただいた意見等をふまえ、再度事務局で細かい文言修正や調整を行い、第5回の会議で、設立準備委員会による基本計画案として承認をいただきたいと考えております。その後、教育委員会会議での決定を経て、新年度に学校施設の基本・実施設計を行う予定です。

検討している内容について、その途中経過をお知らせします。

学校の枠組み。キーワードは、「義務教育学校」「コミュニティ・スクール」

統合新設校は、前回の準備委員会だよりでお知らせしたように、9年間を見通した小中一貫教育による義務教育学校になります。計画案では「多様な人間関係の経験による心の育成、実情に応じた教育課程編成による学力向上」などの義務教育学校を導入する一般的なメリットと、「5年生以上を教科担任制にすることによる複式の部分的解消」など、この統合校に導入するメリットを検討しました。

また、地域が学校を支える仕組みとしての「厚田ならではのコミュニティ・スクール」について検討しました。

複合施設とする可能性を検討

第3回会議のワークショップでは、統合新設校に複合的な機能を設けることが提案されました。

これを受けて、次の4つの施設について、基本



計画に盛り込む可能性を検討しています。

① 地域開放型図書館(現・あいかぜ図書館)

現在、厚田小学校に併設している「あいかぜ図書館」を移設すること。

② 厚田保育園

現在の保育園施設を移設し、幼児期から義務教育段階までの子ども達の発達・成長に対応した学び環境を整備すること。(※該当となる児童等について今後調査し検討する。)

③ 放課後児童クラブ(学童保育)

保護者の就労等によって適切な保護を受けられない児童の安全を確保し、遊びや学習などを行う生活の場として整備すること。

④ 福祉避難所

現在、厚田中学校が福祉避難所に指定されていることから、介護の必要な高齢者や障がい者などへの適切なケアが行えるよう、施設のバリアフリー化等を図ること。

施設設備基本計画の基本的な考え方は

学校のハード面である施設設備については、次のような観点で計画することを検討しています。

- ・厳しい自然条件に立地することを踏まえ、児童の安全と健康を最優先する。
- ・義務教育学校の良さ、学校規模、少人数の特性

を生かすことができる合理的な教室配置とする。

- ・確かな学力の定着、豊かな心の育成、健やかな体づくりを実現する充実した教育環境を構築する。
- ・地域と共にある学校として、地域の教育力を十分に発揮できる校舎とする。
- ・校舎全体のバリアフリーに配慮する。

具体的な施設設備のイメージも検討

この基本計画は、校舎設計の仕様書としての役割を持つため、施設設備やその機能についても具体的な検討を進めています。検討中の主なポイントをご紹介します。

(校舎の位置等)

- ・現校舎を解体した跡地に建設する。体育館は現施設を改修して使用する。給食センターと体育館との接続に配慮する。

(普通教室)

- ・児童生徒が学習に集中できるよう、入り口を閉めた場合に廊下はじめ他の空間から独立した環境とし、遮音性に配慮する。
- ・前期課程(小学校)の教室は複式指導に配慮し、前面と背面に黒板を配置し、テレビ・電子黒板が前面と背面に配置できるようにするとともに、そのために必要な前後長を確保する。
- ・教室における ICT 機器の利用を充実させるため、無線 LAN アクセスポイントを設置する。

(特別支援教室)

- ・前期課程と後期課程の2教室を配置する。
- ・障がいの特性を考慮し、安全性を十分に確保できる位置に配置する。

(多目的教室)

- ・開放的な空間となるよう、壁や戸を設けずに設置する。
- ・前期課程(小学校)、後期課程(中学校)または、1～4年、5～7年、8・9年が、合同で活用可能な広さを確保する。

(図書室)

- ・現あいかけ図書館を移設し、学校図書館と開放図書館を併設する。
- ・児童生徒が読書に興味・関心が持てるように十分配慮する。

(音楽教室・視聴覚教室)

- ・視聴覚室の機能を兼備させるため、音楽や映像資料の視聴が可能な設備を設ける。

- ・全校合唱の練習が可能な広さを確保する。

(家庭科教室)

- ・学校園、学校田で収穫した作物や、水産学習で学んだ水産物を調理し、その際に児童生徒だけではなく、保護者や指導に当たる地域住民も加わることを想定して、十分なスペースを設ける。

(コンピュータ教室)

- ・無線 LAN 環境を導入することによって、普通教室における通常の学習ツールとして、ノートパソコン(または分離可能タブレット)を電子黒板や書画カメラと連動して活用できる環境を構築するため、旧来の形の PC 教室は設置しない。全ての教室に PC 教室の機能を持たせる。

(保健室)

- ・静かで採光や通風などの良好な環境とする。
- ・シャワー室の併設が望ましい。

(トイレ)

- ・明るく清潔で誰でも使いやすいものとする。
- ・和・洋式トイレブースの割合に配慮する。

(エレベーター)

- ・給食配膳とバリアフリーのために設置する。

(エントランスと校舎周辺)

- ・進入車両と児童生徒の動線が極力交差しないよう校舎や駐車場のレイアウトに配慮する。

工事中の対応は

平成30年からの工事中、厚田中学校の学校機能を厚田小学校に移転することを検討しています。

仮設校舎建設には億単位の経費が見込まれるため、経費を軽減する手段として、学校に検討をお願いしているところです。

第5回会議 傍聴をお待ちしています。

日時 2月23日(木) 18時30分より
会場 厚田保健センター

【発行】

(仮称) 厚田小中学校設立準備委員会事務局

(石狩市教育委員会 総務企画課内)

電話 72-3169 / FAX 75-2276

E-mail soumu-k@city.ishikari.hokkaido.jp

第6章 （仮称）厚田小中学校の教育の概要

（１）義務教育学校・小中一貫教育の導入

① 義務教育学校の制度上の特色など

学校教育法の改正により、平成28年4月1日から、新たな学校種である義務教育学校の設置が可能となった。

義務教育学校は、学校教育法第1条に規定される学校であり、設置には条例の改正が必要である。9年間を通した教育目標や教育課程を編成でき、独自教科の設定や学年間での指導内容の入れ替えも可能である。一つの組織であるため、卒業は1回で、校長は一人である。学級編成と教職員定数は、前期課程6年で小学校設置基準、後期課程3年で中学校設置基準を準用して定めるため、複式学級の基準は小学校、中学校それぞれの基準に準じ、教頭・事務職員・養護教諭は2名配置される。

平成28年時点で、全国で22校。道内では、計根別学園、知床ウトロ学校の2校が設置されている。複式の義務教育学校は、知床ウトロ学校、高知県高知市立義務教育学校 行川学園と石川県珠洲市立大谷小中学校の全国で3校が設置されている。

② 義務教育学校のメリット

義務教育学校は、これまでの制度によって小中一貫教育に取り組む学校と同様に、小学校から中学校への進学において、新しい環境での学習や生活へ移行する段階で、不登校等の生徒指導上の諸問題につながっていくいわゆる「中1ギャップ」といわれる問題に対応し、小学校から中学校への接続を円滑化することを目指している。児童生徒の心身の発達が早まり、義務教育制度が始まって以来の「6・3制」の弊害が指摘される中、9年間の学年割りを、導入事例の多い「4・3・2」制や「5・4」制のように工夫することで、児童生徒の発達段階に適切に対応することが可能である。

また、少子化の進行や地域コミュニティの弱体化、核家族化の進行により児童生徒の人間関係が固定化しやすい中、小中一貫教育の実施により、児童生徒が多様な教職員、児童生徒と関わる機会を増やすことで、小学生の中学校進学に対する不安感を軽減することも可能である。中学生が小学生との触れ合いを通じ、上級生である自らに自覚的となることで自尊感情を高め、生徒の暴力行為や不登校、いじめの解消につなげていくことについての効果も指摘されている。

さらに、義務教育学校においては、小学校課程の教員と中学校課程の教員が一つの学校組織に所属することが大きなメリットとなる。一般に小学校の教員は全教科を教えるのに対し、中学校の教員は特定の教科を指導することや、小・中学校では、対象とする児童生徒の発達の段階が異なることから、学習指導、生徒指導の方法は自ずと異なっている。義務教育学校では、学校長等の管理職がリーダーシップを発揮することにより、小・中学校両課程の教職員がそれぞれの違い

を認めた上で互いに学び合い、義務教育9年間で児童生徒を育てる共通意識によって一つにまとめることが可能である。

教職員が義務教育9年間の教育活動を理解した上で、全体の教育活動において自分の果たすべき役割をしっかりと認識することで、9年間の系統性を確保し、平成18年の教育基本法の改正、平成19年の学校教育法の改正において新たに規定された、義務教育の目的、目標に掲げる児童生徒の資質、能力、態度等をよりよく養えるようにしていくことが大切である。

小中一貫教育の効果については、すでに取組を進めているほぼ全ての市町村において成果が認められている。具体例としては、中学生の不登校出現率の減少、市町村又は都道府県独自の学習到達度調査、全国学力・学習状況調査における平均正答率の上昇、児童生徒の規範意識の向上、異年齢集団での活動による自尊感情の高まり、教職員の児童生徒理解や指導方法改善意欲の高まり等の意識面の変化といった結果が得られている。

③ 厚田に義務教育学校を導入することで期待できる効果

(仮称)厚田小中学校は、少人数の学校であり、小学校課程においては、統合によっても複式学級を解消することが困難な状況である。

義務教育学校の制度的な特色を生かし、小学校課程の5年以上に教科担任制を導入することによって、一部の教科によって、実質的に単式の授業が可能となる。

中学校課程も1学年1学級の編成となるため、中学校教員の持ち時間数は少ない傾向となる。小学校の免許を持たない教員であっても、教員免許法の規定により小学校において、所有免許状の教科に相当する教科を担当することが可能であるため、中学校課程の教員が小学校課程の指導を行うことが可能である。このことは、一般には中学校教員の負担を増加させることにつながるが、小中併置校である厚田の聚富小中学校では、小学校・中学校の教員がそれぞれに乗り入れ、大きな成果をあげている。9年間の教育課程や児童生徒の発達を見通すことで、専門教科の指導力を向上させることができたという意識が教職員の間で共通化されたことが小中の結びつきを緊密化することを可能にした。

統合新設される(仮称)厚田小中学校においても、聚富小中学校の貴重な経験を生かして、義務教育学校の制度を導入する効果を最大限に発揮させていく姿勢を持つことが大切である。

④ (仮称)厚田小中学校における9年間の学年割りについて

(仮称)厚田小中学校では、小規模校の特性と義務教育学校としてのメリットを生かした学年の区割りを行うことを検討している。現時点で、5・6年生以上の教科担任制を導入するために、前期の4学年とそれ以上の5学年を区切ることとし、教室配置を1階に1学年から4学年、2階に5学年から9学年とすることになっている。後期に相当する5学年から9学年の区割りについては、平成29年度から設立準備委員会内に設置される「教育課程部会」で、研究・決定することを確認している。

（２）コミュニティ・スクール（厚田モデル）の導入

① 厚田にコミュニティ・スクールを導入することで期待できる効果

第２章で詳述したように、長い歴史の中で地域と深く結びつくことによって、厚田の教育は成果を挙げてきた。

今日、学校と地域社会・家庭との関係が重視される中、厚田のこれまでの取組は、コミュニティ・スクール制度の先行事例として重要である。その実質を、コミュニティ・スクール制度と学校運営協議会の正式な導入によって、より発展させることが重要である。

② 「学校づくりに地域の力を！」出口寿久氏によるコミュニティ・スクール講演会

石狩市では、平成 28 年 8 月 2 日、りんくるにおいて、出口寿久氏（北海道大学学務部文部科学省コミュニティ・スクール推進員 ＣＳマイスター）を講師に、「学校づくりに地域の力を！～コミュニティ・スクールの仕組みと取り組み～」と題した教育講演会を開催した。この講演会を通して、多数の市民、教育関係者がコミュニティ・スクールの意義を確認することができた。厚田統合校の関係者にも多数参加していただいたことにより、その後の設立準備委員会にもコミュニティ・スクールの考え方が反映された。

出口氏から、学校と地域社会・家庭との関係が重視される背景としては次のことが示された。

- ・ 学校週五日制で地域や家庭の機能に期待がかけられている。
- ・ 地域資源の活用や家庭の協力が重視されている。
- ・ 問題行動等への対応として学校が学校外の諸機関と連携を迫られている。
- ・ 学校の創意工夫を図るために地域や家庭の意見を反映した学校経営が求められている。
- ・ 学校を地域の教育機関に位置づける要請がある。
- ・ 地域活性化の中核機関として学校に期待が寄せられている。

また、地域とともにある学校づくりにより得られる成果としては次のことが指摘された。

- ・ 子供たちの「生きる力」を育むことができる（地域の望む子ども像の育成）
- ・ 職員・保護者・地域住民等がともに成長していく（地域の教育力の向上）
- ・ 学校を核として地域ネットワークが形成される（地域の活力向上）
- ・ 地域コミュニティの基礎力が高まる（地域の礎の構築）

さらに、石狩市にコミュニティ・スクールを導入することについては、次のような点を重視するように指摘してくださった。

- ・小中学校の児童生徒は石狩市の将来を担う人材！
- ・若者が戻ってくる地域にするには
- ・地域を愛する子供を育てることが地域を救う！
- ・地域住民は、責任を持って意見を述べ、責任を持って学校を支援しましょう！
- ・地方創生の取り組みが進められる中、教育にできることは子供たちに生まれ育った地域を愛する気持ちを育むこと！

このことは、厚田において特に重要な指摘である。地域を愛する子どもを育てることは、厚田の地域教育力の伝統であり、現在の保護者・地域の具体的な活動の精神である。

③ 厚田型コミュニティ・スクールのあり方

コミュニティ・スクールを導入することは、厚田の良き伝統を将来にわたって引き継ぐための制度として大切な意味を持つ。

厚田におけるこれまでの地域と保護者による学校支援が各学校ですでに定着している。しかも、支援の主体は、次のように保護者、保護者OB・OG、地域住民が混在する中で行われている。

(資料) 各学校・学校区における地域・保護者の学校支援

検討課題	厚田小	望来小	厚田中	聚富小中
・体力向上 小中連携サーキット	・小中合同運動会 (厚田小・厚田中) ・元厚田スキー場でのスキー学習	・体力づくり発表会…保護者に発表。保護者も長縄跳びに挑戦 ・指導員資格を持つ地域住民がスキーSAT支援。 ・望来小学校・地区合同運動会	・小中合同運動会 (厚田小・厚田中)	・運動会(聚富地区体育振興会との合同開催)
・ふるさと教育(厚田各地区フィールドワーク。各地区児童が案内)	・海から厚田を見る会。	・砂の造形、保護者もサンドアートを制作。 ・出前授業	・「厚田・港・朝市」、「石狩湾漁協」との連携(案内及び啓発看板作成) ・厚田夏祭りへのみこし行列 ・厚田ウィンターフェスティバル、雪像づくり。	・地域を生かした体験学習・体験学習。地層見学、販売体験、乗馬体験など。 ・聚富神社祭「よさこい踊り」を披露。

・伝統芸能の重視 ・地域の伝統文化の体験活動を通じ、地域への愛着を生む指導	運動会の「厚田音頭」 ・厚田区・ふるさとあきあじ祭り よさこい 厚田音頭	・出前授業「望来獅子舞について」 ・望来小学校・地区合同運動会 厚田音頭。	・地域文化の伝承「獅子舞学習」 望来獅子舞保存会 歴史講和 各部門指導 ・地域盆踊り参加	・和楽器演奏会 講師の先生方による三味線や琴の演奏会。
・キャリア教育	・地域学習厚田朝市でお店の方に質問。 ・4年生がメロン栽培に挑戦。		・職場訪問…地域、石狩市内の保育所、公共施設などで職場体験	・聚富保育園での保育実習…中学校3年生が家庭科の学習として実施。
（農漁業体験）	・米作り体験 ・もちつき大会 ・漁師さんの出前授業（漁連主催）	・田植え農園活動 ・運動会もちまき ・「収穫祭」でのカレーライスづくり		・稲作・稲刈り・畑作（小学校） ・「収穫を祝う会」
福祉教育	・みよし園訪問 ・「音楽のおくりもの」		・特別養護老人ホーム「みよし園」との交流、ボランティア活動。	・希久の園訪問 ・手話教室
・読書指導 （本館、あいかぜ図書館、司書教諭、ボランティア）	・厚田区読み聞かせサークルの皆さんが「あいかぜ図書館」で、定例の読み聞かせを実施。	・「童話を読む会」の方々による読み聞かせ 8名の方		・地域ボランティアによる読み聞かせ…「おひさまの会」
・国際理解育	・出前授業の具体例「国際理解教育」			
・ボランティア活動	・厚田海浜プール合同清掃（厚田小・厚田中） ・生徒会・児童会活動の連携……リングプル・ボトルキャップ回収での協力（厚田小・厚田中・望来小） ・校外清掃ボランティア…小学校、地域住民と連携			・クリーン作戦…自分の住む地域を保護者の方と協同で清掃。
その他特色ある教育	・親子文集「みよし」の編集・発行。	・出前授業テーマ「つながり」	・地域住民や保護者を学校に招く「厚中へ行こう」企画	・水彩画展鑑賞

コミュニティ・スクールと学校運営協議会の形態は、地域や学校の実態や導入の目的によって多様であるため、厚田の伝統を将来に引き継ぐ「厚田型コミュニティ・スクール」のあり方を検討することが必要である。

このことを考えると、学校のほか、家庭、地域をユニットとして、2者の連動、3者の連動を志向する組織ではなく、機能を整理統合することによって、保護者と地域住民が一体となったいくつかの「部」を組織するコミュニティ・スクールの形態を参考にすることが望ましいと考える。

④ 厚田型コミュニティ・スクールの学校運営協議会各部の構成例

評価部

- ・ 学校評価の実施・分析
- ・ 各種プランの企画・立案

支援部

- ・ 学習ボランティアの管理運営（補習教室）の推進
- ・ 図書ボランティアによる読み聞かせ支援、読書活動推進
- ・ 体力づくり支援
- ・ 文化活動支援
- ・ ボランティア活動支援
- ・ ICT 教育のサポート

地域コーディネート部

- ・ 伝統芸能のコーディネート、指導
- ・ 産業教育（農漁業）食育、観光（道の駅活用）などの教育のコーディネート、支援
- ・ 地域人材を学校へつなぐためのコーディネート
- ・ 学校を核とした地域のつながり、人のつながりをコーディネート

それぞれの部は、行事や活動の精選という視点を大切にし、学校の教育目標具現化を支援する活動を行っていく。それぞれの部の活動によって、学校、家庭、地域の結びつきが強まり、厚田型コミュニティ・スクールが「厚田ならではの教育」を充実・発展させる役割に期待したい。

第7章 （仮称）厚田小中学校の施設設備基本計画

（１）文部科学省「学校施設整備指針」の改訂（平成28年3月25日）

① 「学校施設整備指針」の改訂の趣旨

義務教育学校制度の創設や学校施設と他の公共施設等との複合化に取り組む地方公共団体の増加など近年の社会変化に対応する改訂。

② 主な改訂内容

- ・小中一貫教育に適した学校施設に関する計画・設計上の留意事項
- ・学年段階の区切りを越えた、児童生徒が日常的に交流できる空間の計画が重要
- ・学校施設の複合化に関する計画・設計上の留意事項等
- ・児童生徒と幼児や高齢者など多様な世代と交流できる場としての計画
- ・多様な利用者を考慮した、ユニバーサルデザインの採用やバリアフリー対策
- ・学校施設における児童生徒の学習と生活に支障がないような計画が重要

参考

（小学校学校施設整備指針）

http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/03/25/1368763_04.pdf

（中学校学校施設整備指針）

http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/03/25/1368763_06.pdf

（２）施設設備基本計画の基本的な考え方

① 「学校施設整備指針」の改訂の趣旨をふまえた基本的な考え方

- ・9年間一貫性のある教育活動を含めた学校運営ができる施設環境を確保する。
- ・義務教育学校と小中一貫教育のねらいを十分に理解し、区切りに対応した校舎のゾーニングや教室環境の計画を行う。
- ・学年や学年段階の区切りを越えて年齢の異なる児童生徒が日常的に交流できる各室・空間や動線を意図的に計画する。
- ・特別教室、屋内・屋外運動施設等については、教育上、安全上支障が生じない範囲で、教科指導の連携や異学年交流の充実等が進むよう、義務教育学校の前期・後期課程又は小・中学校段階の間で共同利用できる計画とする。
- ・児童生徒が9年間同一施設を利用するため、児童生徒の発達段階、利用内容に応じ、安全性を備えた施設環境を確保する。
- ・保護者、地域住民等が学校運営や様々な学校の教育活動を支援するコミュニティ・スクールなど、学校と地域の連携・協働のための施設についても計画する。

② 厚田の独自条件をふまえた基本的な考え方

- ・施設内容は、必要な機能を確保しつつ質実かつコンパクトなものとなるよう定めるものとする。
- ・厳しい自然条件に立地することを踏まえ、児童の安全と健康を最優先する。
- ・義務教育学校の良さ、学校規模、少人数の特性を生かすことができる合理的な教室配置とする。
- ・確かな学力の定着、豊かな心の育成、健やかな体づくりを実現する充実した教育環境を構築する。
- ・地域と共にある学校として、地域の教育力を十分に発揮できる校舎とする。
- ・設立準備委員会で明らかになった地域、児童生徒、学校の要望と提案に配慮する。

(3) 計画の条件

① 統合新設校の児童生徒数・学級数の推計

平成32年度開校（仮称）厚田小中学校 児童生徒数・学級数の推計

（平成28年5月1日現在）

学校名	学年	28年度		29年度		30年度		31年度		32年度		33年度		34年度	
		児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数
厚田小 + 望来小 + 厚田中 + 聚富小中 (虹が原除く)	小1年	8	1	8	1	7	1	5	1	4	1	3	1	5	1
	小2年	6	1	8	1	8	1	7	1	5	1	4	1	3	1
	小3年	4	1	6	1	8	1	8	1	7	1	5	1	4	1
	小4年	7 ⁽¹⁾	1	4	1	6	1	8	1	8	1	7	1	5	1
	小5年	11	1	7	1	4	1	6	1	8	1	8	1	7	1
	小6年	15	1	11	1	7	1	4	1	6	1	8	1	8	1
	中1年	13	1	15	1	11	1	7	1	4	1	6	1	8	1
	中2年	7 ⁽²⁾	1	13	1	15	1	11	1	7	1	4	1	6	1
	中3年	14	1	7	1	13	1	15	1	11	1	7	1	4	1
	計	85 (3)	普通 ⁸ 特支 ²	79	7	79	7	71	7	60	7	52	6	50	6
厚田小 + 望来小 + 厚田中	小1年	8	1	5	1	6	1	3	1	4	1	3	1	3	1
	小2年	6	1	8	1	5	1	6	1	3	1	4	1	3	1
	小3年	4	1	6	1	8	1	5	1	6	1	3	1	4	1
	小4年	5 (1)	1	4	1	6	1	8	1	5	1	6	1	3	1
	小5年	8	1	5	1	4	1	6	1	8	1	5	1	6	1
	小6年	12	1	8	1	5	1	4	1	6	1	8	1	5	1
	中1年	11	1	12	1	8	1	5	1	4	1	6	1	8	1
	中2年	7 (2)	1	11	1	12	1	8	1	5	1	4	1	6	1
	中3年	12	1	7	1	11	1	12	1	8	1	5	1	4	1
	計	73 (3)	普通 ⁷ 特支 ²	66	7	65	7	57	7	49	6	44	6	42	6

備考

- ① 28年度の児童生徒数欄の()の数字は、特別支援学級の児童生徒数の内数を表す。
- ② 28年度の学級数の計欄には、上に普通学級の計、下に児童生徒の障がいに応じた特別支援学級（特支）の計を表している。
- ③ 29年度以降については、推計される全児童生徒数に基づいた普通学級の数のみを表している。

② 計画施設の規模

平成32年度に開校する時点で、前期課程の人数は30人台前半から後半、後期課程は20人前後、合計で50人から60人程度と想定される。

学級数は前期課程が3～4学級の複式、後期課程は3学級、それぞれ特別支援学級の設置が見込まれる。

（４）施設設備基本計画

① 普通教室

1 普通教室

- ・児童生徒が学習に集中できるよう、入り口を閉めた場合に廊下はじめ他の空間から独立した環境とし、遮音性に配慮する。
- ・多目的教室と連携可能な配置が望ましい。
- ・推計される児童生徒数を考慮して、適正な面積とする。
- ・児童生徒の体格向上や、学校家具新JIS規格に合わせて必要な面積を確保する。
- ・前期課程（小学校）の教室は複式指導に配慮し、前面と背面に黒板を配置し、テレビ・電子黒板が前面と背面に配置できるようにするとともに、そのために必要な前後長を確保する。
- ・児童生徒の道具入れ等に必要な収納を窓側側面下部に設置する。（背面に黒板を配置するため）
- ・機能的な教室環境を実現する掲示スペースと共有収納スペースを廊下側側面に設置する。（同）
- ・教室におけるICT機器の利用を充実させるため（コンピュータ室は設置しない）、無線LANアクセスポイントを設置する。
- ・別記する特別活動室と相談室に黒板等を設け、小学校高学年で教科担任制を実施する場合の単式指導に対応できるように配慮する。
- ・教室配置については、1・2年と3・4年を1階、5・6年、7年、8年、9年を2階に配置する。

② 特別支援教室

2 特別支援教室

- ・前期課程と後期課程の2教室を配置する。
- ・教室配置は、インクルーシブ教育充実のため、交流学級との交流学习・共同学習に配慮した教室配置を原則とし、前期課程（小学校）を1階、後期課程（中学校）を2階に配置する。
- ・障がいの特性を考慮し、安全性を十分に確保できる位置に配置する。
- ・各教室はそれぞれ廊下側にオープンスペース、奥側に取り外し可能な間仕切りを設けたスペースを設ける。
- ・手洗い場を教室内に設置するのが望ましい。
- ・無線LANのアクセスポイントを設置する。

③ 多目的教室

3 多目的教室

- ・開放的な空間となるよう、壁や戸を設けない仕様とすることについて検討する。
- ・前期課程（小学校）、後期課程（中学校）または、1～4年、5～7年、8・9年が、合同で活用可能な広さを確保する。
- ・小学校高学年における教科担任制の単式授業、少人数指導、習熟度別指導などの多様な形態の学習活動に対応できるように配慮する。
- ・地域住民と児童生徒の交流や、学校運営協議会など地域住民の活動が可能なように、多目的教室は開放玄関に近い場所に設置する。
- ・無線LANのアクセスポイントを設置する。

④ 特別教室

4 図書室

- ・ 現あいかぜ図書館を移設し、学校図書館と開放図書館を併設する。
- ・ 厚田中学校・望来小学校・聚富小中学校の図書室から引き継がれる蔵書も想定して整備する。
- ・ 児童生徒が読書に興味・関心が持てるように十分配慮する。
- ・ 読書活動を支える掲示が行われるよう、壁面配置に配慮する。
- ・ 無線LANアクセスポイントを配置し、児童生徒が調べ学習に利用しやすいよう配慮する。
- ・ 現在、小学校3校で活動する図書ボランティアのお話会などが可能なように、書架、机、いす、フロアスペースの配置を行う。

5 音楽教室・視聴覚教室

- ・ 視聴覚室の機能を兼備させるため、音楽や映像資料の視聴が可能な設備を設ける。
(例：J F E ビューボード。ホワイトボードと兼用できる鉄板のボード。前面の広い面積に貼り付け、固定式のスクリーンとして活用する)
- ・ 小中学生全員による全校合唱の練習が可能な広さを確保する。観客を入れての発表は体育館。
- ・ 他の教室や近隣への音の影響に十分配慮する。
- ・ 室内音響に配慮する。
- ・ 準備室、楽器収納庫を設置する。
- ・ 無線LANのアクセスポイントを設置する。

6 家庭科教室

- ・ 学校園、学校田で収穫した作物や、水産学習で学んだ水産物を調理し、その際に児童生徒だけではなく、保護者や指導に当たる地域住民も加わることを想定して、十分なスペースを設ける。
- ・ 開放玄関や体育館に近い位置に配置する。
- ・ 調理と被服に必要な設備を設けるとともに、十分な換気を確保する。
- ・ 用具収納設備を設置する。

7 (コンピュータ教室)

- ・ 設置しない。
理由：無線LAN環境を導入することによって、普通教室における通常の学習ツールとして、ノートパソコン（または分離可能タブレット）を電子黒板や書画カメラと連動して活用できる環境を構築することによって、PC操作中心の学習環境としての旧来のPC教室を廃止することが可能となるため。文科省の教育情報化の手引きの方向性と民間ICT関連企業が提唱するWindows クラスルーム協議会の動きを背景とする。

8 技術科教室・図画工作教室

- ・ 中・技術家庭（週5時間）中・美術（週3.3時間）、小・図工（複式AB年度前提・週6時間＋）を考え、技術科教室と図工美術教室を共用することも検討する。
- ・ 学習環境に必要な設備を設けるとともに、集塵装置を設置して十分な換気を確保する。
- ・ 作品保管のスペースを設置するのが望ましい。
- ・ 隣接する廊下等も活用し、展示スペースを設けるのが望ましい。

9 理科教室

- ・ 学習環境に必要な設備を設けるとともに、十分な換気を確保する。

- ・準備室、薬品庫を設置する。

10 特別活動室

- ・児童生徒会室として、委員会活動等の作業がしやすいスペースとする。
- ・放送室としての機能を設ける。無線LANのアクセスポイントを設置する。
- ・児童生徒数の増加に対応できるよう、普通教室への転用が可能な配置と形態とする。
- ・黒板等を設け、小学校高学年で教科担任制を実施する場合の単式指導に対応できるように配慮する。

11 教育相談室

- ・リラックスして話せる空間とするのが望ましい。
- ・児童生徒・保護者が周囲に気兼ねなく出入りできる配置とする。
- ・プライバシーに配慮した空間とする。
- ・黒板等を設け、小学校高学年で教科担任制を実施する場合の単式指導に対応できるように配慮する。

12 (資料室機能)

- ・特別の部屋は設けず、玄関周辺または多目的教室の壁面を活用する。
- ・これまでの歴史を尊重するため、各校の校旗等や厚田小明治期の校名板などの資料を展示する。
- ・各校閉校記念誌から、沿革に関するパネルを作成し、掲示する。
- ・旧各学校の校長やPTA会長等の写真は、縮小した上で1枚のパネルにまとめ一括して掲示する。

⑤ 体育館

13 体育館

- ・現有体育館に必要な改修を行い使用する。
- ・避難所となることを想定し、無線LANのアクセスポイントを設置する。
- ・運動時の発熱を考慮し、十分な換気を確保する。
- ・LED照明を導入する。

⑥ 管理諸室

14 職員室

- ・児童生徒の安全に配慮した配置とする。
- ・児童生徒・保護者が気軽に入りやすいように、配置動線や開放性に配慮する。
- ・校務処理等を支援するため、教育用と独立した校内LANを構築する。また、将来の情報技術・機器の変化・発展に対応できるよう、二重床、床ピットなどを設置する。
- ・スクールカウンセラー、支援員等、教職員以外の教育活動に関わる者にも配慮するのが望ましい。

15 校長室

- ・会議、応接のスペースを確保し、沿革史や指導要録などの重要書類を保管するための金庫を設置する。
- ・職員室と隣接した配置とする。

16 保健室

- ・静かで採光や通風などの良好な環境とする。
- ・個人の健康記録等書類の保管に配慮する。
- ・シャワー室の併設が望ましい。

17 会議室

- ・会議の場は目的に応じて他のスペースを活用することを検討する。
- ・職員会議は、ペーパーレスでパソコンを利用するため職員室、PTA、学校運営協議会等は多目的教室、プレゼンテーションによる説明が中心の会議は視聴覚室機能を有する音楽教室、PTA総会など多人数の会議は体育館を使用するなど、会議の参加者と内容・性格によって、各種のスペースを活用することが望ましい。

18 印刷室

- ・職員室との動線に配慮する。
- ・機器配置スペース・作業スペース・用紙・教材保管スペースを確保する。

19 (放送室・スタジオ)

- ・特別の部屋は設置しない。
- ・双方向通信が可能なシステム（例：花川南小に設置実績がある未来スクールステーション）を前提として、機器設置場所やスタジオなどを設けず、情報伝達に必要な最小限のスペースとする。
- ・放送室機能は、児童会室に設ける。
- ・スタジオ機能が必要な場合は、音楽室を利用する。

20 職員更衣室

- ・職員室との動線、防犯に配慮する。

21 学校公務補室

- ・作業のしやすさや工具等の収納スペースに配慮する。
- ・ボイラー等の運転や管理のため、機械室に隣接した配置とするのが望ましい。

22 倉庫・教材室・用品庫

- ・共通の教材室・備品倉庫を動線に配慮し設置する。
- ・目的別・収納品ごとに配置するのが望ましい。

⑦ その他諸室

23 電気室・機械室

- ・必要最小限のスペースを確保する。
- ・学校公務補室に隣接した配置とするのが望ましい。

⑧ 共通部分

24 エントランスと校舎周辺

- ・進入車両と児童生徒の動線が極力交差しないよう校舎や駐車場のレイアウトに配慮する。
- ・南側を児童生徒の動線として、通常は車止めフェンスを配置して、不要な車両が進入しないようにする。
- ・北側は、車両の進入を前提として、駐車場を設置する。
- ・給食車は現行のルートを変更せずに南側から進入し、食材の搬入と給食の搬出等を行う。給食車の旋回場所の奥側に、前記仮設の車止めフェンスを設置する。

- ・スクールバスは児童玄関に隣接した場所で児童生徒を乗降させるため、給食車に準じたルートを利用することを原則として、調整する。

25 児童生徒玄関

- ・児童玄関は、安全面や管理面に配慮した位置に設置する。
- ・雪の吹き込みに対処できる構造とする。
- ・下足箱は、長靴を無理なく入れることができる高さとする。

26 職員玄関・開放玄関

- ・開放玄関は、体育館、あいこぜ図書館に近い位置で、かつ、駐車場に近い位置に設置する。
- ・北側駐車場奥は、一部擁壁を設けずに、傾斜地として駐車場等の積雪を蓄積できるようにする。
- ・フェンスや防球ネットなどをグラウンド及び校舎敷地の適切な箇所に配置し、安全面に配慮する。

27 廊下・階段

- ・必要な広さを確保する。

28 トイレ

- ・明るく清潔で誰でも使いやすいものとする。
- ・児童生徒やその他の利用者数を考慮し、利用しやすい位置に設置する。
- ・和・洋式トイレブースの割合に配慮する。
- ・教職員・来賓用トイレは管理諸室の設置に配慮する。
- ・車いす対応のトイレは、各階に配置するのが望ましい。

29 エレベーターまたはスロープ

- ・給食配膳とバリアフリーのために設置する。

30 手洗い場

- ・各室からの動線に配慮する。
- ・児童生徒の手洗やうがいのために必要な水栓の数を確保する。

⑨ その他の配慮事項

31 その他

- ・児童生徒の安全確保を最優先とした施設・設備とする。
- ・塩害と強風に耐える建築材を用い、シンプルで耐久性のある構造とする。
- ・可能ならば、厚田の歴史を象徴するモチーフを取り入れる。
- ・暖房は厳しい自然環境に対応できることを優先し、安全性、省コスト及び環境負荷への配慮を総合的に判断し選択する。
- ・太陽光発電システム及び蓄電池導入については、メリットと塩害強風地域に設置する管理上のデメリットを検討して設置の可否を決定する。
- ・LED照明等の省エネ機器の導入について検討する。
- ・施設全体のバリアフリーに配慮する。
- ・隣接した位置に学校菜園を確保する。

（５）校舎の配置、工事期間中の仮設校舎について

前述の（４）施設設備基本計画の中で、「⑤体育館」は「現有体育館に必要な改修を行い使用する。」と示している。

また、現在の厚田中学校校舎の西側に併設している「厚田学校給食センター」について、統合新設校においても給食コンテナを直接校舎内へ運搬できるようにするため、体育館と給食センターとの接続を考慮し、新校舎の配置については、現校舎の位置を基準とする。

よって、新校舎の建設は、現校舎の解体工事の完了後に着工することとし、工事期間中における厚田中学校（生徒及び教職員）の仮設校舎については、平成 30 年 8 月中旬（夏期休業終了後）より現在の厚田小学校校舎の空き教室等を活用して取り進める。

（６）複合機能を有した学校施設

① 地域開放型図書館（現・あいかぜ図書館）

統合新設校の開校に伴い、現在、厚田小学校の体育館に併設している「あいかぜ図書館」を移設する。なお、閉校する既存校（望来小、厚田中、聚富小中）から新設校へ引き継がれる蔵書も想定し、整備する。

② 保育園機能

現在の厚田保育園を統合新設校に併設し、幼児期から義務教育段階まで含めた子ども達の総合的な保育・教育施設として整備する。

なお、同時に、厚田区ではこれまで実施されていない乳児保育について、その実施に向けて検討する。

また、園児が安全に遊ぶことができるよう配慮する。

③ 放課後の居場所づくり

放課後における児童生徒の居場所については、少年団活動に加え、放課後子ども教室や放課後児童クラブ、あるいは児童館機能など、多様な取組を検討し、子ども達の安心・安全な居場所としての機能を付加する。

④ 福祉避難所

福祉避難所としても対応できるよう、施設のバリアフリー化など必要な機能を整備する。

- ・防災備蓄庫は備蓄品の搬入搬出に配慮して、出入り口や道路、体育館との動線を意識した位置に設置する。
- ・要援護者に配慮した備蓄品（間仕切り、簡易ベッド等）の整備保管及び避難所設置に必要なスペースを確保する。

(7) 工程表

平成 29 年度以降の部分については、状況によって変更する場合がある。

(仮称)厚田小中学校 開校に向けた工程表

H29 2月時点

年度	年	月	(仮称)厚田小中学校設立準備委員会	市教委	学校
28	28	8	・第1回会議(8/26)		
		9			
		10	・中標津町教委訪問(10/3) ・中標津町立計根別学園視察(10/4) ・第2回会議・ワークショップ(10/7) ・子どもアンケートの実施(厚田区の全児童生徒を対象)		
		11	・第3回会議・ワークショップ(11/10)	・H28年度基本・実施設計に係る予算要求 (地質調査、用地確定測量、既存校舎解体工事設計、体育館改修実施設計を含む)	
		12		・耐力度調査に係る予算措置 (H28年第4回市議会にて補正予算の議決) ※厚田中学校舎、厚田小校舎	
	29	1	・施設・設備等に関する各学校教職員からの意見集約 ・第4回会議(1/18) ※学校整備基本計画(原案)の検討、意見聴取	・耐力度調査実施(厚田中、厚田小、～3/下) ・教育委員等へ学校整備基本計画(原案)の説明	
29	29	2	・学校代表者会議(2/6) ※施設整備について専門的立場からの意見等を聴取 ・第5回会議(2/23) ※学校整備基本計画(原案①)の修正案の協議 →同計画(案)の承認	・H28年度基本・実施設計に係る予算案の確定 ・教育委員等へ学校整備基本計画(案)の説明	●小中一貫教育の調査研究
		3		・学校整備基本計画の決定 (教育委員会会議3月定例会) ・H29年度基本・実施設計に係る予算措置 (H29年第1回市議会にて予算の議決) ・耐力度調査の報告書(成果品)納品	
		4			
	29	5	●教育課程部会 ↓	・基本・実施設計の入札・発注(11ヶ月)	
		6		・建築要望計画書の文科省提出(1回目:6月提出分)	
		7			
		8		・スクールバスの運行経路、台数等の検討(シミュレーション)	
		9		・第6回会議	
		10		・H30校舎建築工事、仮設校舎関連等の予算要求	
		11		・建築要望計画書の文科省提出(2回目:11月提出分)	
		12			
	30	1			
		2		・H30校舎建築工事、仮設校舎関連等に係る予算案の確定	
		3	・第7回会議	・H30年度校舎建築工事、仮設校舎関連等に係る予算措置 (H30年第1回市議会定例会にて予算の議決) ・基本・実施設計の完了(設計図書の納品)	

年度	年	月	(仮称)厚田小中学校設立準備委員会	市教委	学校
30	30	4	●教育課程部会		・小中学校の乗り入れ授業本格化
		5	●コミュニティ・スクール(学校運営協議会)の「準備会」 ・発足1年目	校名公募	●小中一貫教育の調査研究
		6	・ホームページと情報発信(児童生徒からも)		
		7	・特別の教科道徳 ・制服、どの学年から・ジャージ ・給食センターとの連携、食育 ・農業体験、漁業体験 ・地域人材活用(人材リスト、運用基準)	・文科省学校施設整備負担金交付決定 ・建築確認申請 ・校名決定	・厚田小の空き教室等の改修工事 (厚田中の仮設校舎として活用)
		8	・輪島市との交流(舟形船、厚田と門前が起源) ・児童生徒会(小学校高学年のリーダーシップ担保) ・日課表(小中の関係)	・厚田中校舎解体工事 入札、着工	・厚田中の厚田小校舎への移設引越し → 供用開始
		9	・伝統芸能(獅子舞、心叫太鼓、厚田音頭、創造) ・校長、副校長、教頭、役割分担 ・子どもが地場産品でレシビ、道の駅で販売	・学校設置条例の一部改正 (H30年第3回定例会にて統合新設校の設置、校名等の議決)	
		10	・子ども観光ガイド ・福祉学習(みよし園、希久の園、盲導犬)	・厚田中校舎解体工事完了 ・新校舎建設工事 入札、着工	
		11	・備品処分 ・閉校事業の支援 など	・学校備品、スクールバス等の予算要求(H31年度当初予算)	
		12			
		31			
		1			
		2			
		3			
31	31	4	・発足2年目	・校歌制作	
		5	・校訓・学校教育目標		
		6	・ボランティア活動のあり方(地域清掃、縦割り)		
		7	・自然体験(濃曇山道、海から見る会)		
		8	・職業体験(厚田らしい農業、漁業)		
		9	・藤女子大との連携・SAT ・市街地学校との連携(パートナースクール再構成)		
		10	・老人との連携 (昔のあそび、昔語り:戦争体験なども)		
		11	・学習規律の系統化・小中の一貫性	・校歌完成	
		12	・家庭学習系統化 ・閉校記念事業支援(継続)		・既存校の開校記念式典
		32			
		1			
		2			
		3		・新校舎完成、引渡し ・備品搬入 ・学校設置届け	
32	32	4			開校 開校記念式典など
		5			学校運営協議会第1回会議
		6			
		7			
		8			
		9			
		10			
		11			
		12			